

平成25年度

事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

平成25年度新たに発生が確認された病害虫

詳細は54ページ 特殊報第1号を参照

【モトジロアザミウマ】 *Echinothrips americanus* Morgan



【写真1】 成虫(左)と第2蛹



【写真2】 かすり症状(葉)

目 次

巻頭 平成25年度新たに発生が確認された病害虫

I 組織と業務

1 名称及び所在地	-----	1
2 管轄区域	-----	1
3 職員及び業務	-----	1
4 業務分掌表	-----	1

II 事業実績

1 農作物有害動植物発生予察事業		
1) 調査の種類及び方法		
(1) 指定病害虫	-----	3
(2) 指定外病害虫	-----	3
(3) 巡回調査ほ場数	-----	4
2) 主要農作物の病害虫発生概況（平成25年産）		
(1) 早期水稲	-----	5
(2) 普通期水稲	-----	5
(3) 大豆	-----	5
(4) カンショ	-----	5
(5) ジャガイモ	-----	5
(6) かんきつ類（露地栽培）	-----	5
(7) 茶	-----	6
(8) 冬春きゅうり	-----	6
(9) 冬春ピーマン	-----	6
(10) 冬春トマト	-----	6
(11) 冬春いちご	-----	6
(12) 秋冬だいこん	-----	6
3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日		
(1) 水稲、かんきつ病害の初発日		
ア 水稲	-----	7
イ かんきつ	-----	7
(2) 予察灯におけるウンカ類の初飛来日	-----	7
4) 予察灯（白色60W）における水稲害虫の誘殺状況		
(1) 延岡	-----	8
(2) 佐土原	-----	9
(3) 国富	-----	10
(4) 都城	-----	11
5) コブノメイガの発生消長	-----	12

6)	フェロモントラップによる誘殺状況		
	(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 5
	(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 7
	(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	1 9
	(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	2 1
	(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 3
7)	果樹カメムシ類の誘殺状況		
	(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 5
	(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	2 9
8)	農作物有害動植物の発生及び防除状況		
	(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 3
	(2) 発生面積及び防除面積等	-----	3 9
9)	情報（警報、注意報、特殊報、防除情報）		
	(1) 発表情報一覧	-----	4 6
	(2) 情報の内容	-----	4 7
2	病害虫発生予察情報高度化事業		
	ニカメイガの発生消長の変化に伴う防除時期の検討	-----	7 6
3	特殊病害虫侵入警戒調査事業		
	1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	7 8
	2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	7 9
	3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	8 1
	4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	8 1
	5) ウメ輪紋ウイルス発生調査	-----	8 1
4	発生予察調査実施基準の新規手法策定事業		
	九州地域のアザミウマ類(キュウリ)における発生調査基準(案)の実証	-----	8 3
	九州地域のコナジラミ類(キュウリ)における発生調査基準(案)の実証	-----	8 7
	九州地域のタバコガ類(ピーマン)における発生調査基準(案)の実証	-----	9 1
5	その他の調査、検定等		
	1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	9 4
	2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	9 6
	3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	9 7
III	その他		
1	病害虫防除員の設置状況	-----	9 8
2	巡回調査ほ場の分布図	-----	9 9
3	気象表	-----	1 0 0

I 組織と業務

1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

※ 平成 23 年 4 月に総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課として統合されたが、病虫害防除・肥料検査センターとしての名称は存続する。

2 管轄区域

県内全域 (9 市 1 4 町 3 村)

3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 寺 本 敏	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関すること
主 幹 倉 富 文 代	2 病虫害の適正防除指導に関すること
主 査 森 下 勝	3 病虫害の診断及び検定に関すること
〃 久 野 公 子	4 重要病虫害の侵入警戒調査に関すること
主任技師 斎 藤 伸 弘	5 農薬指導取締に関すること
技 師 若 杉 潤 也	6 農薬安全使用指導に関すること
非常勤職員 福 川 利 玄	7 その他植物防疫に関すること
野 中 耕 次	8 肥料の分析及び取締に関すること
(兼務職員)	
土壌環境部	
特研兼副部長 有 簾 隆 男	
主任研究員 小 窪 正 人	
主任研究員 杉 田 浩 一	
専門技師 今 村 幸 久	

4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
寺 本	倉 富	1 センターの総括に関すること
倉 富	森 下	1 植物防疫関係事業の総括に関すること 2 病虫害発生予察並びに情報作成総括に関すること 3 農薬取締に関すること 4 各種協議会の総括に関すること

主担当	副担当	分 掌 事 務
森 下	久 野	1 野菜(きゅうり、ピーマンなど)、花きの病害虫発生予察に関すること 2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること 3 情報ネットワーク保守・管理に関すること 4 病害虫診断対策に関すること 5 農薬取締に関すること 6 マイナー作物の農薬登録促進の総括に関すること
久 野	斎 藤	1 野菜(トマト、イチゴなど)の病害虫発生予察に関すること 2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること 3 発生予察の手法検討委託事業に関すること 4 病害虫診断対策に関すること 5 農薬取締に関すること
斎 藤	若 杉	1 普通作物等の病害虫発生予察に関すること 2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること 3 特殊病害虫侵入警戒調査対策事業に関すること 4 病害虫診断対策に関すること 5 農薬取締に関すること 6 薬品等の保管管理に関すること
若 杉	森 下	1 果樹、茶の病害虫発生予察に関すること 2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること 3 重要病害虫緊急防除事業に関すること 4 病害虫診断対策に関すること 5 農薬取締に関すること

Ⅱ 事 業 実 績

1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ
	サツマイモ	ハスモンヨトウ
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ダイズ	吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、カメムシ類、ミカンハダニ
	チャ	炭疽病、カンザワハダニ、ハマキムシ類
野菜	キュウリ	うどんこ病、灰色かび病、べと病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	トマト	疫病、灰色かび病、アブラムシ類
	ダイコン	アブラムシ類、コナガ
	イチゴ	灰色かび病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ

(2) 指定外病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、稲こうじ病、黄萎病、黄化萎縮病、ごま葉枯病、縞葉枯病、白葉枯病、内穎褐変病、苗立枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、シンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ、フタオビコヤガ
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラズズメ、ドウガネブイブイ、ナカジロシタバ
	ジャガイモ	葉巻病、ニジュウヤホシテントウ、ヨトウガ
	ダイズ	さび病、紫斑病、立枯性病害、葉焼病、腐敗豆、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、クキモグリバエ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、マメコガネ、マメシンクイガ、マメヒメサヤムシガ、ミツモンキンウワバ

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
果樹等作物	カンキツ	青かび病、黄斑病、日やけ炭疽病、にせ黄斑病、灰色かび病、アブラムシ類、吸蛾類、クサギカメムシ、コアオハナムグリ、チャノキイロアザミウマ、ツノロウムシ、ヒメヒラタケシキスイ、ミカンハモグリガ、ヤノネカイガラムシ
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ
野菜	キュウリ	疫病、褐斑病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、アザミウマ類、ウリノメイガ、ウリハムシ、コナジラミ類、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、アザミウマ類、黒枯病、コナジラミ類、タバコガ、チャノホコリダニ、ハダニ類
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、菌核病、斑点病、葉かび病、モザイク病、輪紋病、コナジラミ類、トマト黄化葉巻病 (TYLCV)、ハモグリバエ類、すすかび病
	ダイコン	萎黄病、白さび病、炭疽病、軟腐病、べと病、モザイク病、キスジノミハムシ、ダイコンサルハムシ
	イチゴ	萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、輪斑病、ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物名	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	計
早期水稲	12	6			10	4		32
普通期水稲	4		10	8		10	8	40
ダイズ	2		6					8
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	4		4		2			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	12	2	2			3		19
冬春ピーマン	4	3			6			13
冬春トマト	3				6	2		11
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	4	4			13
計	59	20	33	14	38	27	12	203

2) 主要農作物の病虫害発生概況（平成25年産）

(1) 早期水稲

葉いもちの初発生が5月25日と平年より遅く、6月中旬の発生面積率はやや多、発生程度は平年並の発生であった。穂いもちは7月以降の天候に恵まれたことから、発生程度は平年並となったが、発生面積率はやや多であった。

紋枯病は期間を通じて確認されず、平年並の発生であった。

スクミリンゴガイは越冬量は平年並であったが、5月中旬の発生面積はやや多、発生程度は多の発生であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイネ科雑草での生息密度は平年並、7月のほ場での発生面積は平年並、発生程度はやや少の発生であった。

(2) 普通期水稲

葉いもちの発生は6月中旬までは確認されず、平年並の発生であったが、その後は急速に進展し、7月中旬の発生面積率と発生程度はいずれも多、8月中旬の発生面積率と発生程度はいずれもやや多の発生であった（初発日は7月16日）。穂いもちは9月以降の曇雨天により、発生面積率は多、発生程度はやや多の発生であった。

紋枯病は期間を通じて発生が少なく、発生程度はやや少～少の発生で推移した。

セジロウンカの初飛来は5月29日と平年よりも早かったが、期間を通じて飛来量が少なかったこともあり、7月中旬以降の発生面積率と発生程度はいずれもやや少の発生であった。

トビイロウンカは初飛来が6月18日と平年よりも早かったが、期間を通じて飛来量は少なかった。しかしながら、その後は増殖に好適な条件が続いたことから、7月下旬以降は発生面積率と発生程度いずれも多の発生で推移した。坪枯れは8月下旬に初確認され、9月中旬以降はほぼ全県下でみられたが（H26. 8. 2病虫害予察注意報、 H26. 8. 16病虫害予察警報）、関係機関の連携による防除啓発により、適期防除が徹底され、最小限の被害に抑えられた。

コブノメイガは初飛来が6月2日と平年よりも早く確認されたが、飛来量は少なく、発生程度は期間を通じて平年並で推移した。

斑点米カメムシ類は9月中旬の発生程度がやや多の発生であったが、10月中旬の発生面積、発生程度はいずれも平年並の発生であった。

(3) 大豆

べと病の発生面積率は期間を通じて平年並であったが、発生程度はやや多～多の発生で推移した。葉焼病は確認されなかった。

ハスモンヨトウの発生面積率は期間を通じて平年並であったが、発生程度はやや多～多の発生で推移した。吸実性カメムシ類は8月中旬までは平年並の発生であったが、9月中旬以降は多発生で推移した。

(4) かんしょ

イモキバガ、ハスモンヨトウ、ナカジロシタバの発生は平年並であった。

(5) ジャガイモ

疫病は多、アブラムシ類はやや多の発生であった。

(6) かんきつ類（露地栽培）

そうか病、黒点病及びかいよう病の葉での初発生はいずれも平年並みであった。果実での初発生はそうか病、かいよう病いずれも平年より遅かった。

ミカンハダニの発生量は越冬成虫は平年並であったが、9月に一部の園で多発し、やや多の発生となった。

果樹カメムシ類はフェロモントラップでの誘殺数は4月から平年並で推移した。果樹園での飛来は8月中旬から確認されはじめ、一部の園では果実への被害が確認された。

(7) 茶

炭疽病は前年からの越冬病斑が多かったが、7月以降は平年並みで推移した。輪斑病が6月に確認されて以降、やや多の発生となった。

チャノコカクモンハマキ、チャハマキ及びチャノホソガの発生は一年を通して平年並であった。カンザワハダニは、8月は平年より多の発生であったが、それ以外の月は平年並の発生となった。クワシロカイガラムシは第1世代の発生が多かったが、第2,3世代の発生は平年並であった。

(8) 冬春きゅうり（栽培期間：平成24年9月～25年6月）

べと病は年内の発生は少なかったものの年明け以降増えてきて、平年に比べて多の発生であった。灰色かび病は平年並、褐斑病は少、うどんこ病はやや少の発生であった。黄化えそ病は、年内は発生ほ場が多く、その後新規発生ほ場は減少したが、栽培期間を通して発生が確認された。

ミナミキイロアザミウマは年内の発生は少なかったが、年明け以降は栽培終了まで平年並の発生であった。ハスモンヨトウは定植後間もない時期に見られたものの、その後は確認されなくなり、全体として少の発生であった。

(9) 冬春ピーマン（栽培期間：平成24年9月～25年6月）

モザイク病の発生は栽培期間を通して見られなかった。斑点病は平年並の発生であったが、栽培が進むにつれ徐々に発生面積が増加していった。うどんこ病は栽培期間中発生が続いたが、ほ場間差が大きく、全体としては平年並の発生であった。灰色かび病は栽培期間を通して発生はみられなかった。

ミナミキイロアザミウマは、年明け以降発生が多くなったがおおむねやや少の発生であった。ヒラズハナアザミウマは栽培期間を通して多の発生であった。

(10) 冬春トマト（栽培期間：平成24年9月～25年6月）

灰色かび病は1月から発生が確認され、徐々に発生が拡大したものの平年並の発生であった。

タバココナジラミ類は栽培期間を通して並～やや少の発生で推移し、黄化葉巻病が年内に発生したものの、その後は確認されなかった。

(11) 冬春いちご（栽培期間：平成24年9月～25年5月）

うどんこ病は栽培初期からみられたが、果実での発生は少なく、平年比やや少～少で推移した。灰色かび病は春先に発生がみられたが、全体として平年並の発生であった。炭疽病は栽培初期から発生がみられ、年内は平年並み～少、春先からはやや多の発生であった。

ハダニ類は栽培期間を通して並～やや多の発生で推移した。ハスモンヨトウは平年並の発生であった。

(12) 秋冬だいこん（栽培期間：平成24年9月～24年12月）

秋冬だいこんでは萎黄病は平年並、軟腐病とべと病はやや多の発生であった。

コナガとキスジノミハムシは平年並、ダイコンサルハムシは多の発生、アブラムシはやや多の発生であった。

(13) 花き類

ランキュラスの主要ウイルス（RanMMV）の解明と血清学的診断法を確立した。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	5. 25	5. 20	5. 14	7. 16	7. 5	7. 30
穂いもち	7. 9	7. 14	7. 10	9. 9	9. 10	9. 10
紋枯病	6. 25	7. 2	7. 10	7. 30	7. 30	8. 13
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. かんきつ

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	5. 8	5. 7	5. 2	5. 26	6. 10	5. 17
黒点病	5. 22	5. 23	6. 10	7. 8	7. 6	7. 11
かいよう病	6. 10	5. 7	5. 18	7. 11	6. 29	6. 10

(2)予察灯におけるウンカ類の初飛来日

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		5. 29	6. 16	6. 8	6. 23	6. 6	6. 27	6. 26	6. 25	6. 25	6. 27	6. 7	6. 10
トビイロウンカ		6. 18	7. 13	7. 12	8. 25	7. 15	7. 12	7. 5	7. 22	7. 8	6. 27	7. 14	6. 27
ヒメトビウンカ		6. 22	7. 4	6. 23	—	7. 12	6. 6	10. 6	6. 29	7. 23	7. 26	6. 21	7. 3
ツマグロヨコバイ		5. 21	5. 24	5. 28	5. 28	5. 16	5. 15	5. 18	5. 18	5. 16	6. 27	5. 19	6. 28
コブノメイガ		6. 17	7. 17	6. 22	—	7. 4	—	7. 3	7. 29	7. 8	6. 13	7. 4	7. 4

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.1	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	15	2.8	0	1.0	0	0.0	0	0.5
	6	1	42.2	2	0.2	0	0.0	0	0.0
	計		16	46.5	2	1.2	0	0.0	0
6	1	1	15.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	3	95.2	0	1.1	0	0.0	0	0.0
	3	38	26.7	0	1.7	0	0.0	0	0.1
	4	7	27.0	0	8.8	1	1.1	0	0.7
	5	0	5.5	1	14.7	0	0.3	1	0.4
	6	0	2.4	3	5.4	0	0.2	0	0.2
	計		49	172.0	4	31.7	1	1.6	1
7	1	0	1.2	0	36.6	3	0.8	0	0.1
	2	2	2.3	0	22.8	1	0.2	0	0.4
	3	3	8.4	0	27.1	0	1.4	0	0.7
	4	7	37.7	0	16.2	0	0.2	0	0.4
	5	7	48.2	1	28.8	0	0.9	0	0.2
	6	1	71.1	0	5.4	0	0.0	0	1.0
	計		20	164.2	1	136.9	4	3.5	0
8	1	1	17.7	0	4.4	0	0.6	0	0.4
	2	3	22.8	0	8.3	1	0.4	0	0.6
	3	61	31.5	2	70.0	0	1.2	0	0.9
	4	165	45.9	3	56.1	0	1.5	1	2.2
	5	169	34.8	6	12.0	6	2.6	2	0.9
	6	26	19.1	9	20.6	4	15.4	1	1.4
	計		425	171.8	20	170.2	11	21.4	4
9	1	19	19.7	8	13.1	7	2.8	0	2.0
	2	34	24.3	9	6.2	14	23.8	1	1.5
	3	33	12.7	3	5.2	2	10.3	0	1.2
	4	19	13.6	1	16.4	1	4.4	0	0.7
	5	105	9.6	1	1.9	8	7.9	0	0.3
	6	3	7.8	4	4.0	7	14.5	1	2.3
	計		213	87.7	26	46.8	39	63.7	2
10	1	11	2.2	0	1.8	46	38.3	5	3.0
	2	36	3.2	0	0.7	150	36.2	6	0.7
	3	0	1.9	0	1.3	8	14.6	0	0.7
	4	0	0.2	0	0.2	1	2.6	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.4	8	1.6	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	1	5.4	0	0.1
	計		47	7.5	0	4.4	214	98.7	11

(2) 佐土原

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.2	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	2.0	0	1.5	0	0.0	0	0.0
	6	1	39.0	0	2.0	0	0.0	0	0.2
	計		1	42.0	0	3.5	0	0.0	0
6	1	0	3.8	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	2	6	44.8	0	0.6	0	0.0	0	0.2
	3	6	22.3	0	0.1	0	0.0	0	0.2
	4	10	26.5	0	4.5	0	0.0	0	0.4
	5	5	58.0	1	5.8	0	0.3	0	0.1
	6	2	44.6	0	5.5	0	0.2	0	0.1
	計		29	200.0	1	16.5	0	0.5	0
7	1	1	34.0	0	38.8	0	0.9	0	0.4
	2	6	55.2	0	22.7	0	0.4	0	0.2
	3	4	82.7	0	4.0	0	0.4	0	0.4
	4	13	181.5	1	1.8	0	0.2	0	0.2
	5	2	297.6	0	23.4	0	0.9	0	0.9
	6	4	418.2	0	9.1	0	0.0	0	0.8
	計		30	1069.2	1	99.8	0	2.8	0
8	1	59	351.6	2	3.3	0	0.2	0	0.3
	2	59	179.9	0	1.6	0	0.0	0	0.4
	3	16	183.0	0	61.8	0	0.3	0	0.6
	4	15	232.6	0	20.0	0	0.2	0	0.5
	5	3	138.1	1	51.5	0	1.1	0	0.4
	6	2	183.3	20	11.2	0	2.0	0	0.6
	計		154	1413.6	23	149.5	0	3.8	0
9	1	1	151.7	2	4.8	0	1.3	0	0.1
	2	3	60.5	4	4.8	1	9.4	0	0.3
	3	0	40.8	0	9.8	0	2.1	0	0.0
	4	1	32.8	0	2.0	0	2.4	0	0.0
	5	0	18.6	1	3.0	0	1.9	0	0.7
	6	0	4.0	0	1.3	0	1.8	0	0.4
	計		5	308.4	7	25.7	0	18.9	0
10	1	0	13.5	0	1.9	0	47.7	0	0.2
	2	0	13.5	0	1.6	0	75.5	0	0.2
	3	1	11.7	0	1.7	0	70.8	0	0.0
	4	0	5.5	0	0.4	0	10.8	0	0.0
	5	0	1.7	0	0.6	0	8.2	0	0.0
	6	1	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.0
	計		2	45.9	0	6.2	0	213.9	0

(3) 国富

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半月	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.3	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	5	2.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	7	9.4	0	0.2	0	0.0	0	0.2
	6	40	48.3	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	計		52	61.1	0	0.2	0	0.0	0
6	1	3	45.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	3	103.9	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	143	24.9	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	88	20.2	0	6.0	0	0.5	0	0.0
	5	7	18.8	0	29.9	0	0.1	0	0.4
	6	0	4.4	1	5.9	0	0.2	0	0.3
	計		244	217.5	1	41.9	0	0.8	0
7	1	1	6.5	0	85.8	1	1.8	0	0.4
	2	32	9.0	0	92.1	0	0.5	0	0.3
	3	20	14.6	0	16.7	0	0.2	0	0.5
	4	17	27.1	0	3.8	0	0.1	0	0.0
	5	9	62.3	0	6.5	0	0.2	0	0.5
	6	5	106.6	0	6.3	0	0.1	0	0.3
	計		84	244.8	0	211.2	1	3.0	0
8	1	10	145.2	0	1.9	2	0.2	0	3.8
	2	3	172.9	0	9.8	0	0.1	0	0.8
	3	19	195.2	0	12.6	0	0.9	0	0.5
	4	10	150.5	1	27.9	0	1.2	0	0.6
	5	8	102.8	1	5.7	0	8.2	0	1.0
	6	3	50.7	0	5.8	7	11.3	0	1.5
	計		53	817.3	2	63.7	9	21.9	0
9	1	2	39.3	3	4.1	4	3.2	0	0.4
	2	0	28.5	6	3.0	25	6.6	0	0.9
	3	0	7.6	3	6.1	0	9.8	0	0.5
	4	0	29.7	0	1.9	2	1.8	0	0.1
	5	2	22.8	1	2.6	0	2.6	0	0.0
	6	0	20.7	0	0.9	1	3.6	0	0.6
	計		4	228.4	13	19.2	32	27.6	0
10	1	0	12.4	0	0.7	22	4.4	0	1.0
	2	0	5.1	1	0.4	16	1.4	1	0.3
	3	0	2.2	0	1.2	5	21.4	0	5.3
	4	0	0.5	0	0.1	1	2.1	0	0.0
	5	0	0.1	1	0.3	44	0.4	0	0.0
	6	0	0.0	1	0.0	2	0.2	0	0.0
	計		0	29.7	3	2.8	90	30.3	1

(4) 都城

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.3	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	6	7.3	0	0.8	0	0.0	0	0.0
	計		6	7.8	0	0.9	0	0.1	0
6	1	0	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	51	13.6	0	0.9	0	0.0	0	0.0
	3	96	8.8	0	10.0	0	0.3	0	0.1
	4	8	8.6	0	27.2	0	0.1	0	0.6
	5	1	7.8	0	114.1	0	8.4	0	0.5
	6	9	9.8	25	87.1	6	1.4	0	1.1
	計		165	52.0	25	239.3	6	10.2	0
7	1	0	4.8	7	737.5	1	10.4	0	1.4
	2	9	19.9	1	635.7	2	3.4	0	1.3
	3	21	28.2	0	57.1	0	1.4	0	0.8
	4	45	77.0	3	23.9	0	0.6	0	0.6
	5	63	154.9	4	27.0	1	1.1	0	0.8
	6	82	167.9	21	39.3	5	2.7	6	1.6
	計		220	452.7	36	1520.5	9	19.6	6
8	1	112	119.6	9	74.5	4	1.7	7	1.2
	2	115	161.5	7	7.7	1	0.4	2	0.4
	3	193	179.1	5	7.7	0	1.8	2	0.3
	4	223	94.3	10	49.4	1	0.9	0	1.0
	5	135	78.4	2	14.6	5	6.0	1	0.5
	6	74	45.6	6	15.9	25	23.0	1	0.7
	計		852	627.6	39	170.4	36	31.7	13
9	1	35	43.4	3	7.7	13	10.0	0	1.3
	2	21	26.5	3	3.3	3	48.9	0	1.9
	3	6	19.8	0	2.8	0	29.3	1	0.9
	4	2	17.7	2	7.1	0	3.8	0	6.6
	5	4	16.7	0	1.5	39	10.3	1	1.0
	6	1	12.5	0	2.6	79	30.1	0	0.2
	計		69	136.6	8	25.0	134	132.4	2
10	1	1	10.1	1	1.8	561	593.2	0	1.1
	2	4	5.7	7	2.5	483	236.4	4	0.6
	3	1	5.6	0	1.2	12	62.7	0	1.2
	4	0	0.7	2	0.6	4	5.2	0	0.2
	5	0	0.1	0	0.3	145	2.4	0	0.0
	6	1	0.2	0	0.0	12	11.3	0	0.0
	計		7	22.4	10	6.4	1217	911.2	4

5) コブノメイガの発消長

(光源：20W補虫用蛍光灯)

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	2	0	0	0	0	1
2	0	0	0	4	0	1	0	0	0
3	0	0	0	1	0	1	3	0	0
4	0	0	0	0	0	1	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	13	0	0
半旬計	0	0	0	7	0	3	16	0	1
6	0	0	0	0	0	0	8	0	1
7	0	0	0	0	0	0	1	0	0
8	0	0	0	0	0	0	2	0	0
9	0	0	0	0	0	1	1	0	0
10	0	0	0	0	0	2	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	3	12	0	1
11	0	0	0	0	0	0	1	0	0
12	0	0	0	0	0	0	2	0	0
13	0	0	0	0	0	0	2	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	3	1	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	3	6	0	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	1	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	1	0
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	0	0	1	/	/	0
23	0	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	0	0	/	/	0
25	0	0	0	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	0	1	/	/	0
26	1	0	0	2	0	0	/	/	2
27	0	0	0	26	0	0	/	/	1
28	0	0	0	21	0	0	/	/	0
29	1	0	0	23	0	0	/	/	3
30	0	0	0	11	0	2	/	/	0
31	/	/	/	6	0	0	/	/	0
半旬計	2	0	0	87	0	2	/	/	4
月計	2	0	0	94	0	12	34	1	6

5) コブノメイガの発生消長

(フェロモン)

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	0	0	2	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	1	0
4	0	0	0	0	0	0	0	2	0
5	0	0	0	0	0	0	9	2	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	9	7	0
6	0	0	0	0	0	0	1	4	0
7	0	0	0	0	0	0	7	1	0
8	0	0	0	0	2	0	7	3	0
9	0	0	0	0	0	0	8	4	1
10	0	0	0	0	1	0	6	0	0
半旬計	0	0	0	0	3	0	29	12	1
11	0	0	0	0	2	0	5	0	0
12	0	0	0	0	0	0	14	7	0
13	0	0	0	0	0	0	18	8	0
14	0	0	0	0	2	0	11	1	0
15	0	0	0	0	1	0	8	2	0
半旬計	0	0	0	0	5	0	56	18	0
16	0	0	0	0	0	0	8	1	0
17	0	0	0	0	0	0	5	2	0
18	0	0	0	0	1	0	6	21	0
19	0	0	0	0	0	0	2	20	0
20	0	0	0	0	0	0	0	3	0
半旬計	0	0	0	0	1	0	21	47	0
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	0	0	0	/	/	1
23	0	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	0	0	/	/	0
25	0	0	0	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	0	0			1
26	0	0	0	0	0	0	/	/	0
27	1	0	0	0	0	0	/	/	0
28	0	1	0	0	0	0	/	/	0
29	0	0	0	0	0	1	/	/	0
30	0	0	0	3	1	0	/	/	0
31	/	/	/	0	2	0	/	/	0
半旬計	1	1	0	3	3	1			0
月計	1	1	0	3	12	1	115	84	2

5) コブノメイガの発消長

(光源：20W補虫用蛍光灯)

(フェロモン：ニカメイガ用SEルアー)

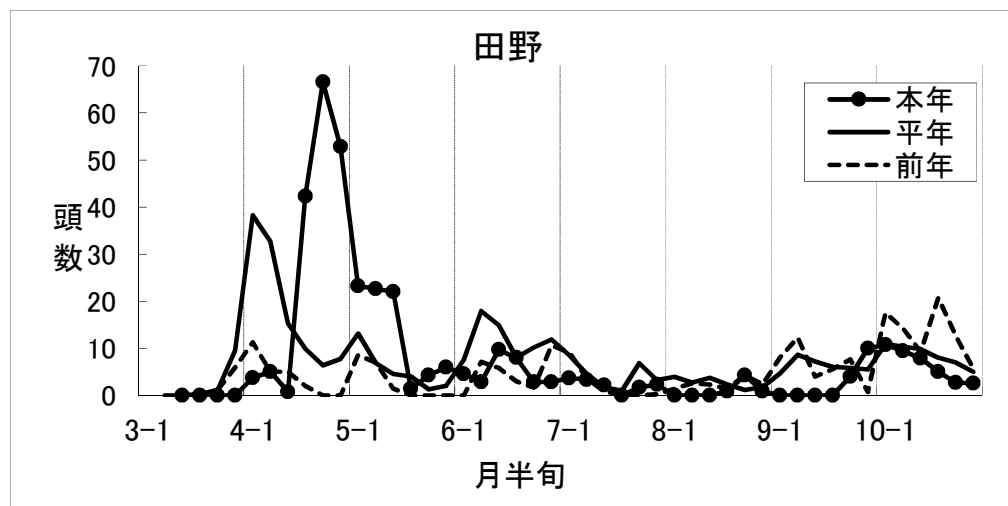
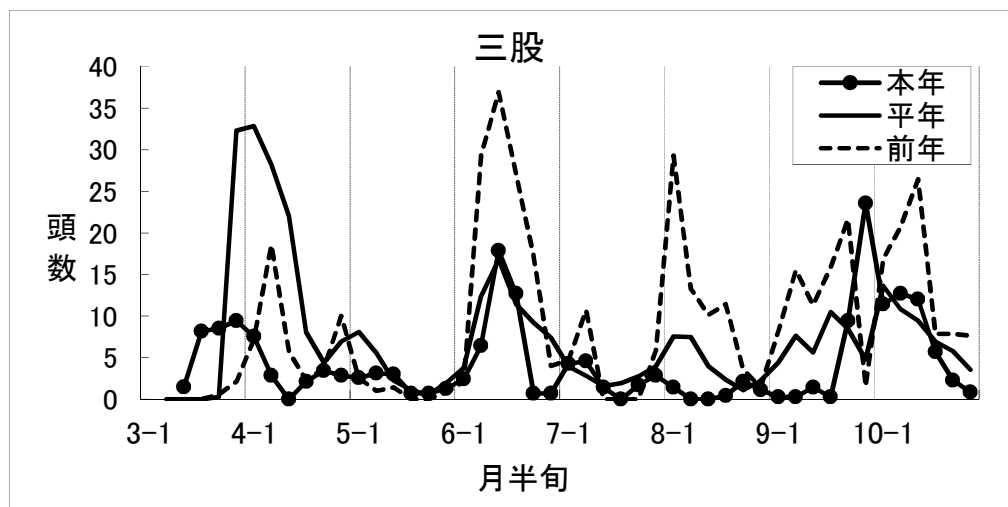
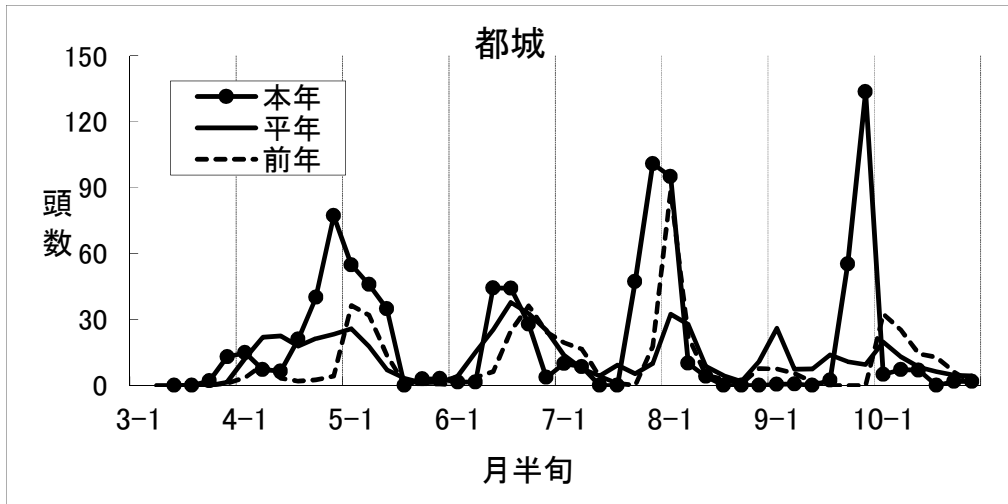
		都城		えびの		試験場	
		ライトトラップ	フェロモントラップ	ライトトラップ	フェロモントラップ	ライトトラップ	フェロモントラップ
6月	1半旬	0	0	0	0	0	1
	2半旬	0	0	0	0	0	2
	3半旬	0	0	0	0	0	1
	4半旬	0	0	0	0	0	0
	5半旬	0	0	0	0	0	0
	6半旬	2	0	0	1	0	8
	6月計	2	0	0	1	0	12
7月	1半旬	7	0	0	0	3	10
	2半旬	0	0	0	4	3	0
	3半旬	0	0	0	5	3	3
	4半旬	0	0	0	1	0	3
	5半旬	0	0	0	0	1	2
	6半旬	87	3	0	3	2	14
	7月計	94	3	0	13	12	32
8月	1半旬	16	9	0	7	1	20
	2半旬	12	29	0	12	1	31
	3半旬	6	56	0	18	0	41
	4半旬	0	21	1	47	0	36
	5半旬					0	5
	6半旬					4	
	8月計	34	115	1	84	6	133

6) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0			1					
	3	0	0	0	1	0	0		0	0
	4	0	0	0	8	0	0		0	0
	5	2	0	0	9	0	1		1	1
	6	13	2	1	9	32	2		10	6
4	1	15	12	4	8	33	7	4	38	11
	2	7	22	9	3	28	19	5	33	5
	3	6	23	3	0	22	6	1	15	5
	4	21	18	2	2	8	2	42	10	2
	5	40	21	3	3	4	4	67	6	0
	6	77	23	4	3	7	10	53	8	0
5	1	55	26	36	3	8	3	23	13	9
	2	46	18	32	3	6	1	23	7	7
	3	35	7	14	3	2	1	22	5	1
	4	0	3	1	1	1	0	1	4	0
	5	3	1	1	1	1	0	4	1	0
	6	3	1	1	1	2	1	6	2	0
6	1	1	4	0	2	4	2	5	8	0
	2	1	15	4	6	12	29	3	18	7
	3	44	25	6	18	17	37	10	15	6
	4	44	38	25	13	11	27	8	8	3
	5	28	33	36	1	9	17	3	10	2
	6	4	25	24	1	7	4	3	12	11
7	1	10	14	19	4	4	5	4	9	9
	2	9	8	16	5	3	11	3	5	4
	3	0	4	4	1	2	0	2	2	1
	4	0	9	1	0	2	0	0	1	0
	5	47	5	0	2	3	0	2	7	0
	6	101	10	18	3	4	6	2	3	0
8	1	95	32	89	1	8	29	0	4	1
	2	10	28	22	0	7	13	0	3	3
	3	4	9	5	0	4	10	0	4	2
	4	0	4	3	0	2	11	1	2	1
	5	0	2	1	2	1	4	4	1	4
	6	0	11	8	1	2	1	1	2	2
9	1	0	26	8	0	4	8	0	5	8
	2	1	7	5	0	8	16	0	9	12
	3	0	8	2	1	6	11	0	7	4
	4	2	14	0	0	10	16	0	6	6
	5	55	11	0	9	8	22	4	6	8
	6	134	10	0	24	5	2	10	5	1
10	1	5	20	33	11	14	17	11	11	18
	2	7	13	25	13	11	21	9	10	14
	3	7	8	14	12	9	26	8	10	9
	4	0	6	13	6	7	8	5	8	21
	5	2	5	6	2	6	8	3	7	13
	6	2	4	1	1	4	8	3	5	6

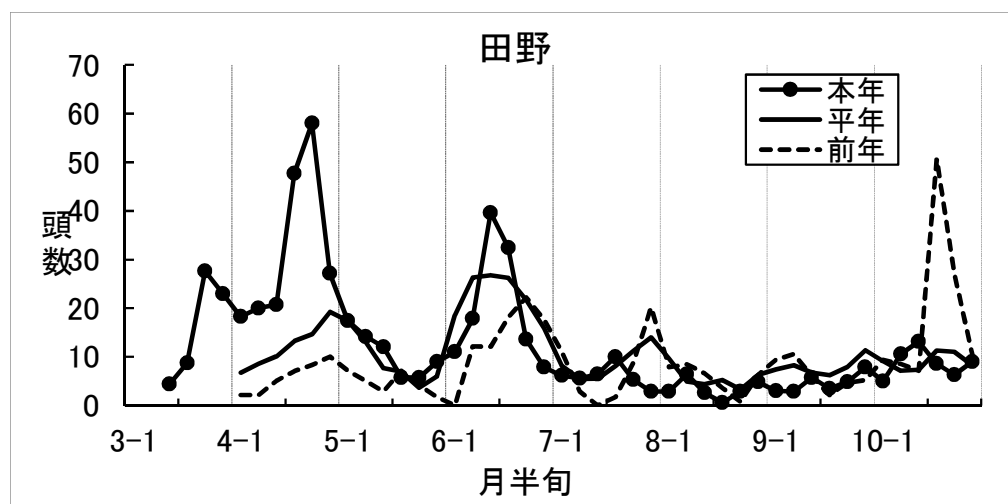
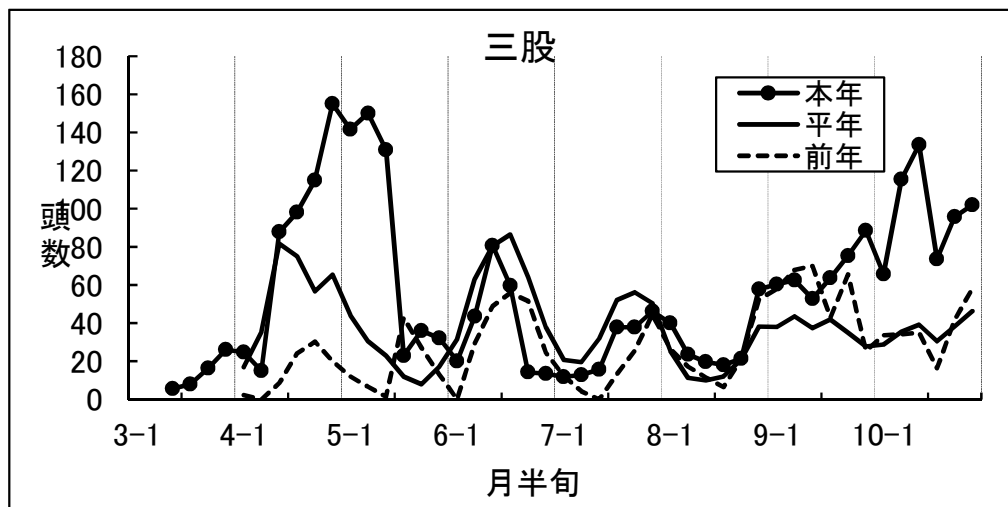
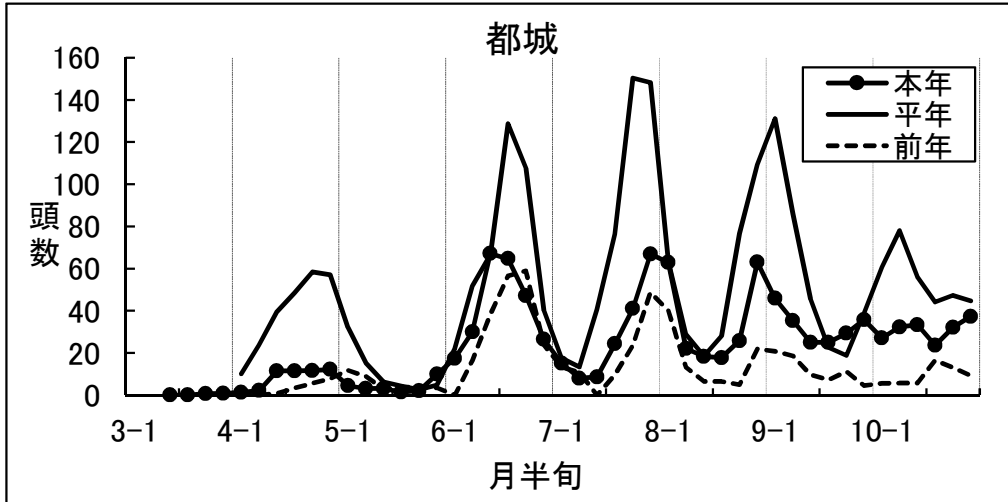
平成25年フェロモントラップ誘殺数(チャハマキ)



(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0			1			2		
	3	0	0	0	6	0	0	4	0	0
	4	0	0	0	8	0	1	9	0	1
	5	1	0	0	16	1	1	28	0	0
	6	1	1	0	26	4	2	23	1	1
4	1	1	10	0	25	17	2	18	7	2
	2	2	24	0	15	36	0	20	9	2
	3	11	40	1	88	82	9	21	10	5
	4	11	49	3	98	75	24	48	13	7
	5	12	58	6	115	57	30	58	15	8
	6	12	57	8	155	65	20	27	19	10
5	1	4	32	12	142	44	12	17	17	7
	2	3	15	9	150	31	7	14	13	5
	3	3	6	3	131	23	1	12	8	3
	4	1	4	4	23	12	43	6	7	7
	5	2	3	4	36	8	27	6	4	4
	6	10	5	3	32	17	13	9	6	2
6	1	17	22	0	20	32	0	11	19	0
	2	30	52	16	44	63	29	18	26	12
	3	67	67	38	81	81	49	40	27	12
	4	65	129	57	60	86	56	32	26	18
	5	47	108	59	14	64	52	14	22	22
	6	26	40	24	14	38	25	8	16	18
7	1	15	18	13	12	21	12	6	8	11
	2	8	13	11	13	20	4	6	5	3
	3	9	41	0	16	32	0	6	5	0
	4	24	76	10	38	52	13	10	8	2
	5	41	150	24	38	56	26	5	11	9
	6	67	148	49	46	50	45	3	14	20
8	1	63	63	40	40	25	26	3	10	8
	2	22	29	13	24	11	17	6	5	8
	3	18	18	6	20	10	12	3	4	7
	4	18	28	6	18	12	6	1	5	4
	5	26	77	5	21	21	21	3	3	1
	6	63	109	22	58	38	53	5	6	6
9	1	46	131	21	60	38	58	3	7	9
	2	35	86	19	63	44	68	3	8	11
	3	25	46	10	53	37	70	6	7	6
	4	25	23	7	64	42	43	3	6	2
	5	29	19	11	75	35	66	5	8	5
	6	36	39	5	89	28	26	8	11	5
10	1	27	61	6	66	29	34	5	9	9
	2	32	78	6	115	35	34	11	7	8
	3	33	56	6	134	39	35	13	7	7
	4	24	44	16	74	30	16	9	11	51
	5	32	47	13	96	38	42	6	11	27
	6	37	45	9	102	46	58	9	8	10

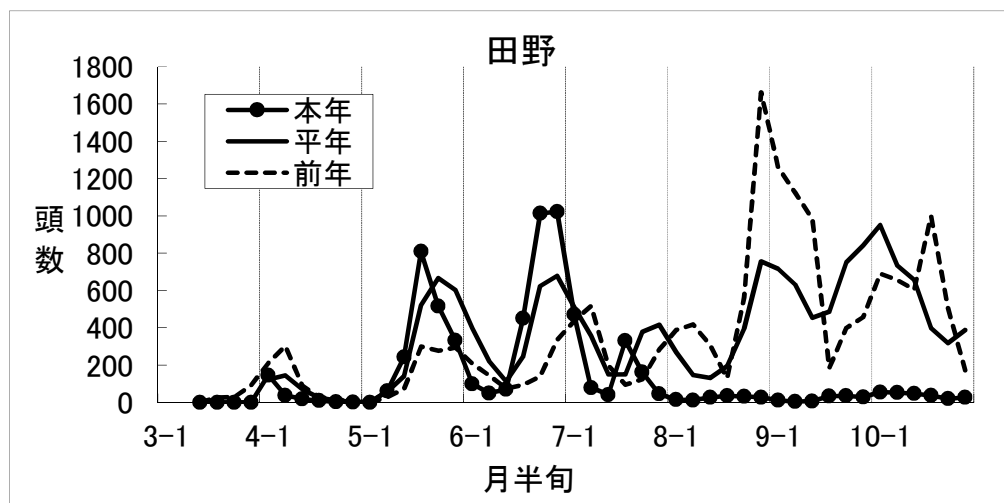
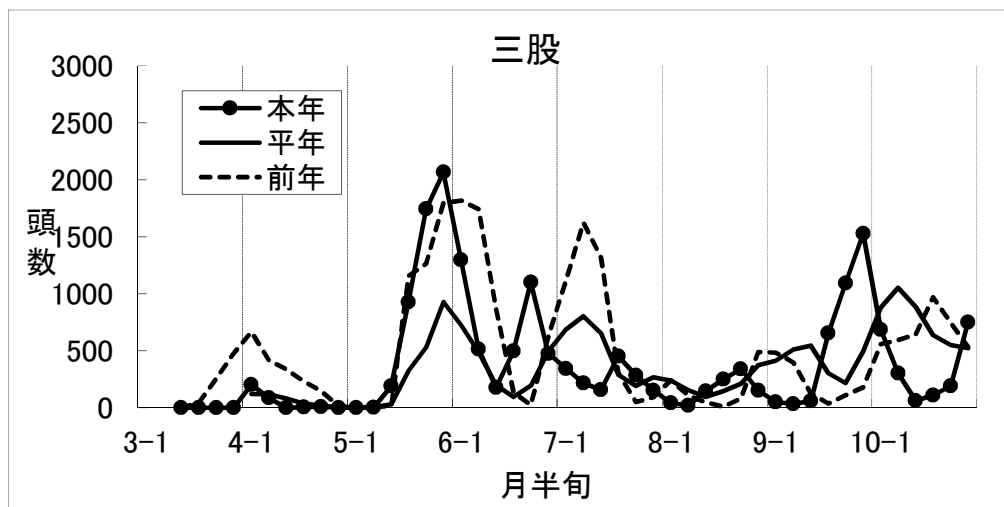
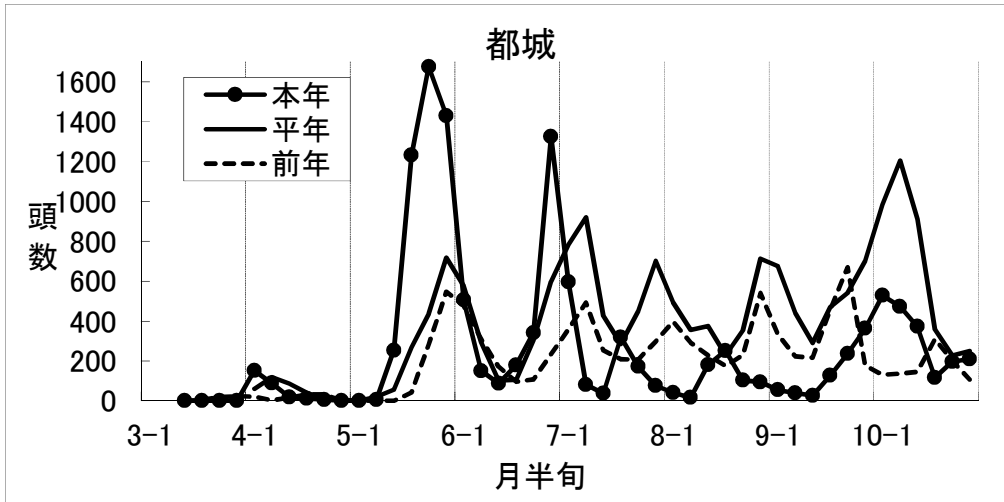
平成25年フェロモントラップ誘殺数(チャノコカクモンハマキ)



(3) チャノホソガの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2									
	3		5	0		14	2		237	2
	4		32	4		103	46		115	26
	5		21	19		141	257		61	27
	6		33	23		186	477		53	92
4	1	152	61	20	203	122	667	146	122	212
	2	89	119	2	87	119	419	38	144	304
	3	19	86	16	0	83	337	18	71	91
	4	12	40	31	8	37	235	9	24	28
	5	6	13	32	10	20	147	3	12	17
	6	1	3	4	1	5	14	1	3	0
5	1	1	1	2	1	2	3	0	5	0
	2	5	20	1	5	6	6	62	58	29
	3	253	56	0	191	33	15	244	141	72
	4	1,231	268	41	927	328	1,157	809	520	299
	5	1,675	436	283	1,745	531	1,264	515	666	278
	6	1,429	716	546	2,066	928	1,796	333	602	294
6	1	507	576	476	1,297	726	1,818	100	398	208
	2	150	294	308	514	489	1,743	50	220	145
	3	87	102	171	178	201	875	70	112	75
	4	179	106	96	497	97	134	450	246	95
	5	341	305	107	1,101	195	26	1,013	624	139
	6	1,325	599	235	474	499	634	1,022	679	335
7	1	597	783	357	343	688	1,121	471	513	437
	2	81	920	493	216	805	1,624	79	358	517
	3	37	427	253	158	656	1,317	41	149	198
	4	319	286	209	454	291	306	330	150	96
	5	172	449	206	283	191	51	162	379	124
	6	76	701	299	154	269	95	46	417	283
8	1	41	495	397	44	241	241	14	269	389
	2	16	355	291	21	156	109	12	147	418
	3	180	375	229	146	96	49	27	132	307
	4	252	230	174	252	148	9	36	194	130
	5	103	353	229	340	210	81	31	396	563
	6	94	713	541	154	375	490	28	755	1,662
9	1	55	676	333	51	413	484	11	716	1,263
	2	39	440	222	35	513	396	4	631	1,122
	3	27	290	216	60	545	126	7	454	984
	4	127	470	458	655	303	37	33	486	185
	5	236	541	670	1,093	218	109	35	751	399
	6	363	700	176	1,528	496	180	28	842	458
10	1	529	984	131	686	879	559	55	951	690
	2	473	1,204	137	305	1,053	592	52	735	656
	3	373	911	146	63	886	643	47	659	604
	4	117	357	309	109	638	969	37	399	999
	5	197	228	200	192	552	748	19	318	505
	6	209	250	107	751	524	534	27	388	173

平成25年フェロモントラップ誘殺数(チャノホソガ)

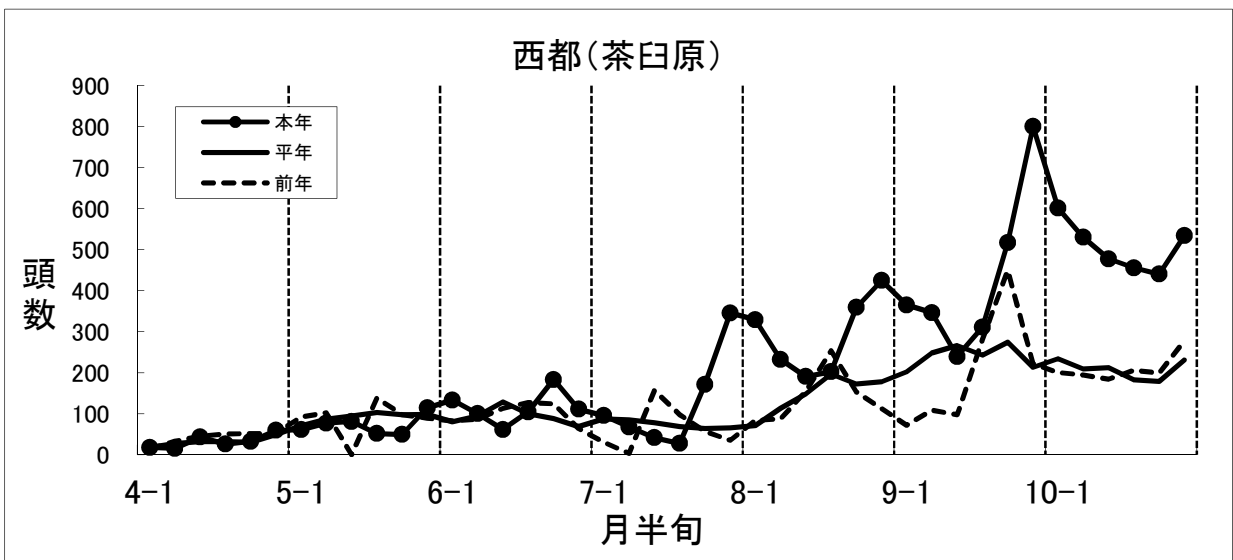
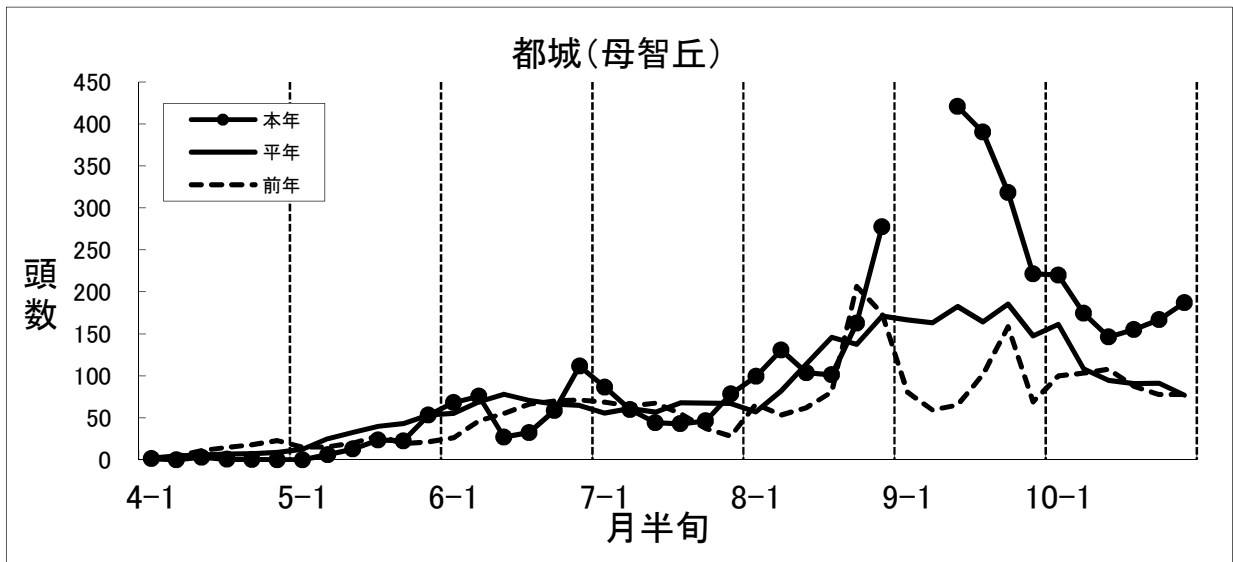
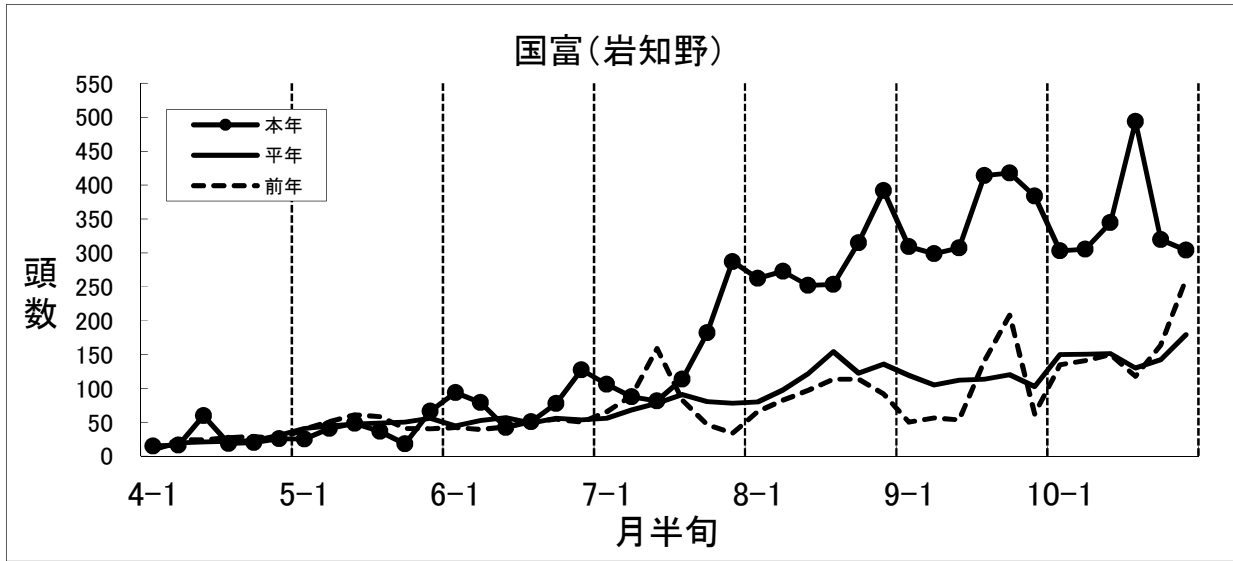


(4) ハスモンヨトウ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	国富 (岩知野)			都城 (母智丘)			西都 (茶臼原)		
		本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
4	1	15	10.5	8	1	2.1	1	18	17.6	14
	2	16	19.6	25	0	4.4	4	15	27.3	33
	3	60	21.1	24	3	5.9	11	43	32.0	45
	4	19	22.1	27	1	7.0	15	26	32.0	50
	5	20	23.1	29	0	7.4	18	32	30.4	51
	6	26	30.8	25	0	8.7	23	59	49.1	51
5	1	25	41.0	40	0	12.4	15	61	69.8	92
	2	41	44.7	51	6	25.3	16	77	86.6	102
	3	48	47.3	61	13	33.0	20	81	94.2	0
	4	36	48.9	59	24	39.9	29	51	102.4	138
	5	18	50.2	41	22	43.0	20	49	97.3	97
	6	66	55.8	40	53	53.3	21	114	98.3	89
6	1	94	44.9	42	68	55.3	26	133	80.2	82
	2	79	52.5	39	76	69.2	46	100	94.0	86
	3	42	57.0	43	27	78.3	55	61	128.5	113
	4	51	49.1	51	32	70.8	66	104	99.8	127
	5	78	55.9	54	59	66.5	70	183	87.6	124
	6	127	53.7	50	111	64.7	71	111	68.2	64
7	1	106	56.0	65	87	55.6	69	95	87.1	30
	2	88	68.5	89	60	60.8	64	68	84.7	3
	3	81	78.3	159	44	56.9	68	41	77.7	157
	4	114	91.2	83	43	67.7	55	27	68.6	98
	5	182	80.5	46	46	67.6	37	171	64.0	57
	6	287	78.1	34	79	66.9	28	345	65.0	35
8	1	262	79.9	66	99	57.0	66	329	70.7	84
	2	273	97.4	82	131	81.8	53	232	113.2	87
	3	252	121.6	97	104	114.3	62	191	148.3	154
	4	253	154.3	114	101	146.0	81	202	196.2	254
	5	315	122.8	114	163	137.6	206	359	171.9	153
	6	392	135.6	92	278	171.1	175	425	178.0	112
9	1	309	119.2	50	-	166.7	81	365	202.3	71
	2	299	104.9	56	-	163.0	59	346	248.0	108
	3	307	112.4	54	421	182.5	65	239	266.3	97
	4	414	113.5	141	390	164.2	102	311	242.4	282
	5	418	120.3	208	318	185.5	158	517	274.2	449
	6	384	102.8	62	221	147.5	69	801	213.0	221
10	1	303	149.8	135	220	161.2	100	601	234.2	201
	2	305	150.4	141	175	108.4	103	530	209.1	194
	3	344	151.2	150	146	94.4	108	477	212.3	184
	4	494	130.3	118	155	90.7	88	456	182.3	206
	5	319	142.6	164	167	91.2	78	440	178.9	199
	6	304	179.2	261	187	76.9	78	534	231.1	278

※ 「-」は欠調

平成25年度フェロモントラップ誘殺数(ハスモンヨトウ)

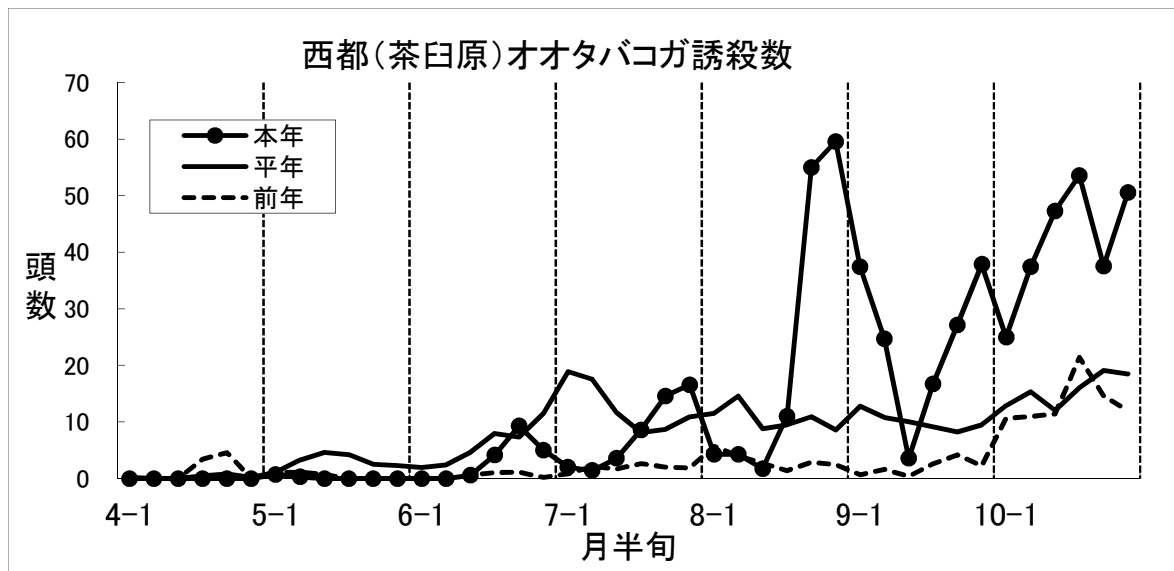
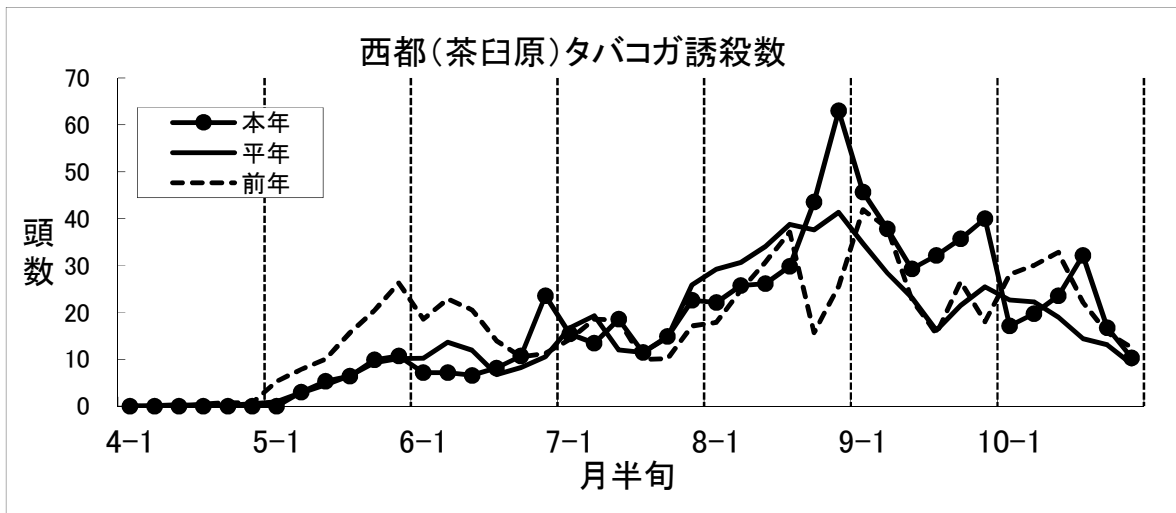


(5) タバコガ・オオタバコガ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.1	0	0	0.2	0
	2	0	0.1	0	0	0.0	0
	3	0	0.3	0	0	0.1	0
	4	0	0.1	0	0	0.5	3
	5	0	0.2	1	0	0.8	5
	6	0	0.5	1	0	0.2	0
5	1	0	1.0	5	1	1.1	1
	2	3	2.9	8	0	3.3	1
	3	5	4.5	10	0	4.6	1
	4	6	6.5	16	0	4.3	0
	5	10	9.3	20	0	2.5	0
	6	11	10.2	26	0	2.3	0
6	1	7	10.3	19	0	1.9	0
	2	7	13.6	23	0	2.4	0
	3	7	11.9	21	1	4.6	1
	4	8	6.8	14	4	8.0	1
	5	11	8.3	11	9	7.3	1
	6	24	10.6	11	5	11.6	0
7	1	15	16.7	14	2	18.9	1
	2	13	19.3	19	1	17.5	2
	3	19	12.0	18	4	11.6	2
	4	11	11.4	10	9	8.1	3
	5	15	14.7	10	15	8.7	2
	6	23	25.9	17	17	10.9	2
8	1	22	29.2	18	4	11.5	6
	2	26	30.7	25	4	14.6	4
	3	26	34.0	31	2	8.8	3
	4	30	38.8	37	11	9.5	1
	5	44	37.6	16	55	10.9	3
	6	63	41.4	26	60	8.6	2
9	1	46	34.7	42	37	12.8	1
	2	38	28.4	38	25	10.8	2
	3	29	23.2	23	4	10.1	0
	4	32	16.2	15	17	9.1	3
	5	36	21.5	27	27	8.2	4
	6	40	25.5	18	38	9.5	2
10	1	17	22.7	28	25	12.9	11
	2	20	22.3	30	37	15.3	11
	3	24	19.0	33	47	12.0	11
	4	32	14.4	22	54	16.1	21
	5	17	13.1	16	38	19.1	15
	6	10	9.0	12	51	18.5	12

※ フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原

平成25年度フェロモントラップ誘殺数(タバコガ・オオタバコガ)



7)果樹カメムシ類の誘殺状況

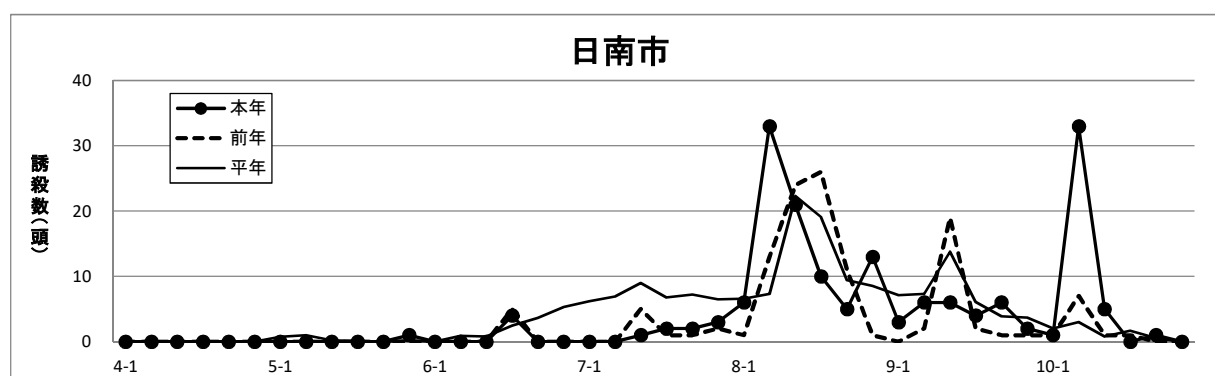
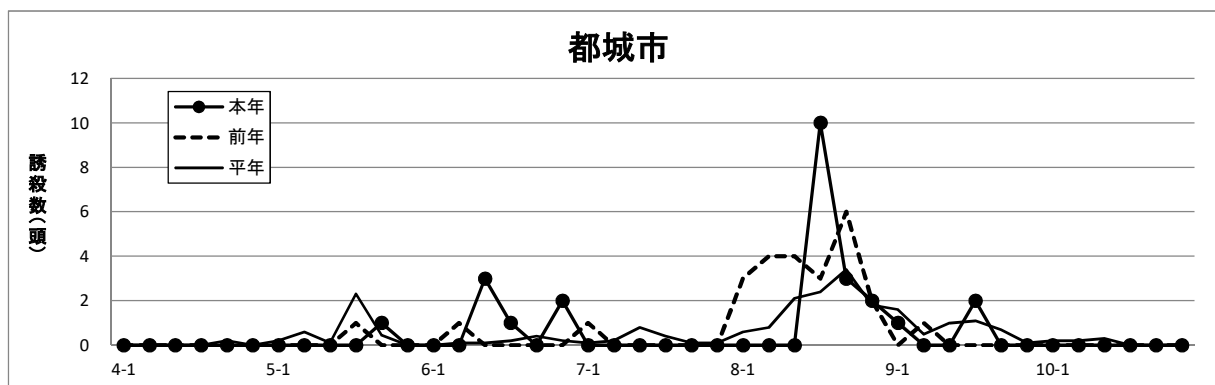
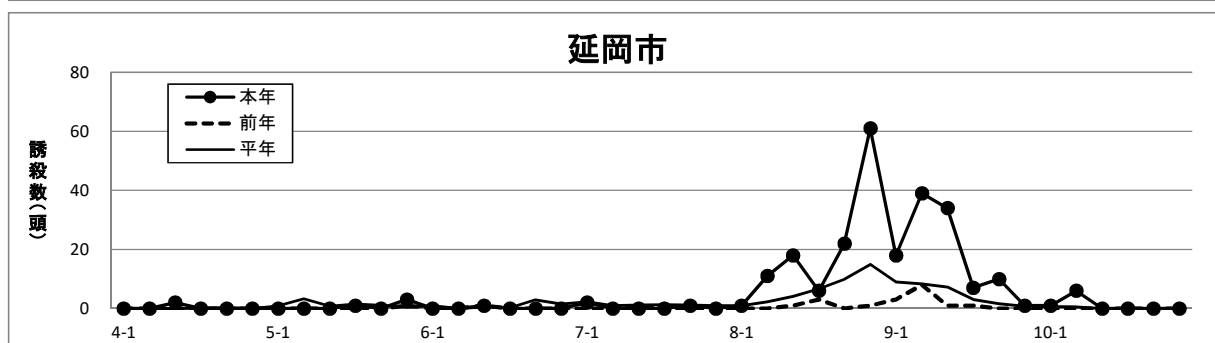
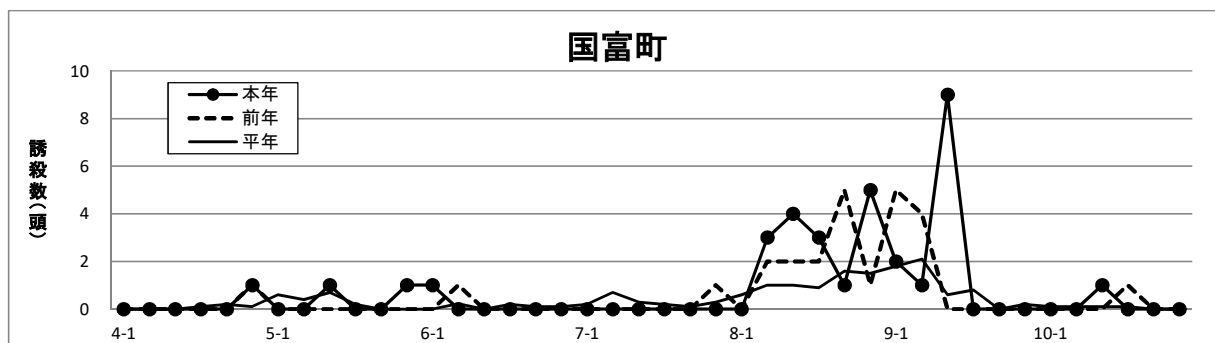
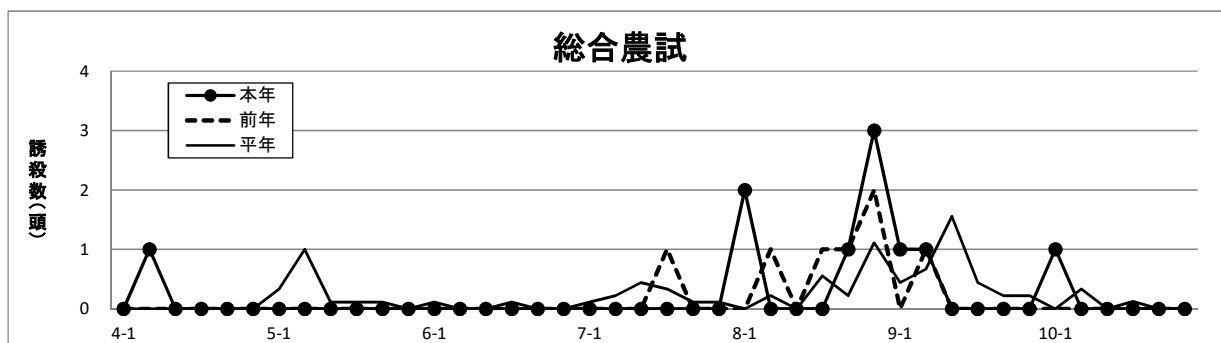
(1)予察灯における誘殺状況

①チャバネアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1
	3	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	2	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0
6	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	3	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	0	0	0	0	1
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5	2
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	5
7	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	6
	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	7
	3	0	0	0	0	-	0	0	1	1	0	0	1	1	5	9
	4	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	7
	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	7
	6	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	2	7
8	1	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3	1	6	1	7
	2	0	1	0	3	2	1	11	0	2	0	4	1	33	13	7
	3	0	0	0	4	2	1	18	1	4	0	4	2	21	24	22
	4	0	1	1	3	2	1	6	3	7	10	3	2	10	26	19
	5	1	1	0	1	5	2	22	-	10	3	6	3	5	11	9
	6	3	2	1	5	1	2	61	1	15	2	2	2	13	1	9
9	1	1	0	0	2	5	2	18	3	9	1	0	2	3	-	7
	2	1	1	1	1	4	2	39	8	8	0	1	1	6	2	7
	3	0	0	2	9	0	1	34	1	7	0	0	1	6	19	14
	4	0	0	0	0	0	1	7	1	3	2	0	1	4	2	6
	5	0	0	0	0	0	0	10	0	2	0	0	1	6	1	4
	6	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	4
10	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	2
	2	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0	0	33	7	3
	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	1
	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		10	7	9	33	25	17	245	21	92	25	26	23	168	125	181

※「-」は欠測

平成25年予察灯における誘殺数(チャバネアオカメムシ)

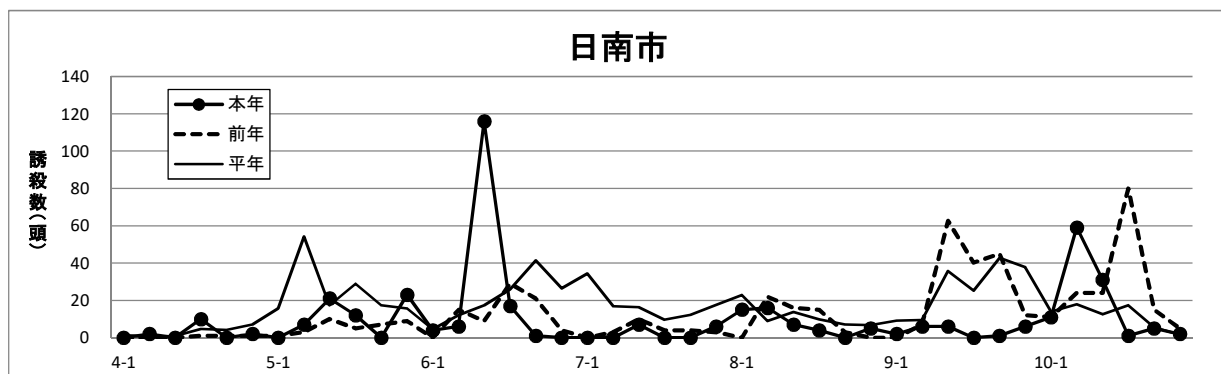
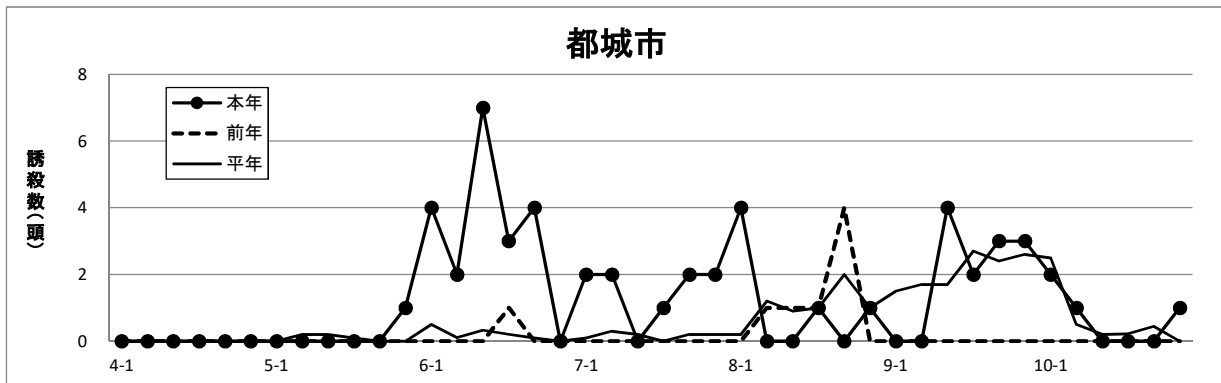
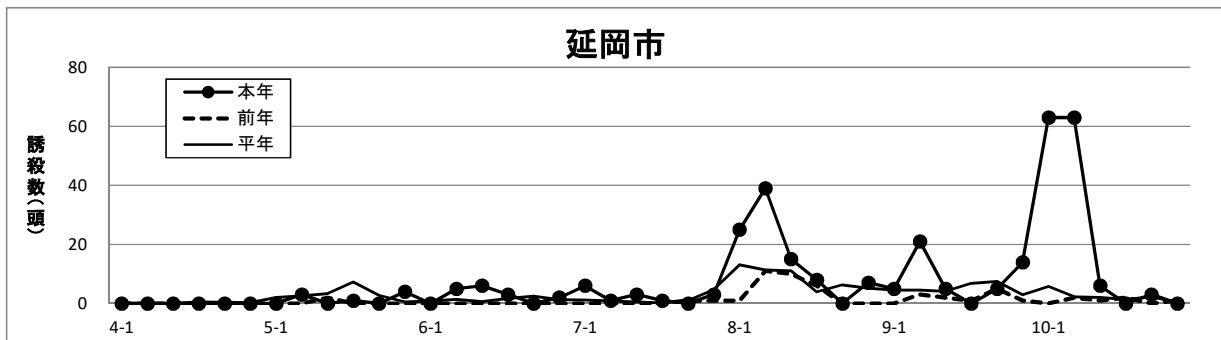
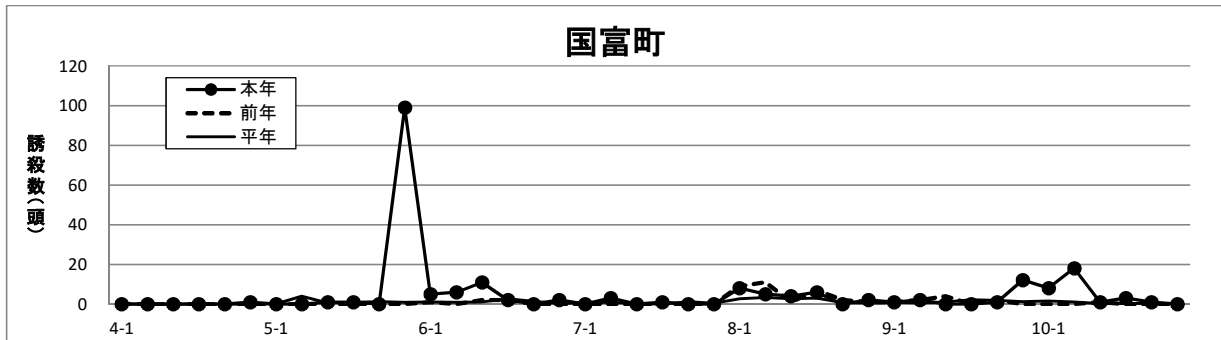
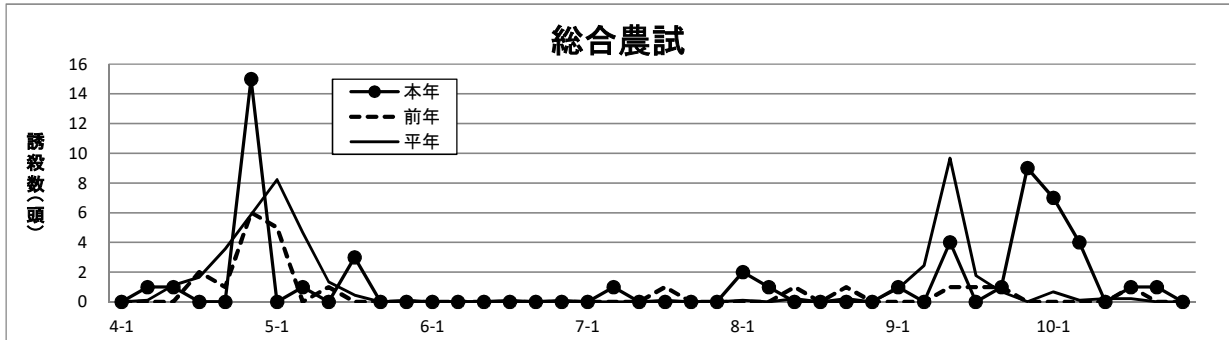


②ツヤアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	4	0	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	10	1	5
	5	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	6	15	6	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	7
5	1	0	5	8	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	16
	2	1	0	5	0	0	4	3	0	3	0	0	0	7	3	54
	3	0	1	1	1	0	1	0	2	3	0	0	0	21	10	17
	4	3	0	0	1	0	1	1	0	7	0	0	0	12	5	29
	5	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	7	17
	6	0	0	0	99	0	1	4	0	1	1	0	0	23	9	16
6	1	0	0	0	5	1	1	0	0	1	4	0	1	4	0	5
	2	0	0	0	6	0	1	5	0	1	2	0	0	6	15	12
	3	0	0	0	11	2	1	6	0	1	7	0	0	116	9	17
	4	0	0	0	2	2	3	3	0	2	3	1	0	17	29	26
	5	0	0	0	0	0	2	0	0	3	4	0	0	1	21	41
	6	0	0	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	4	27
7	1	0	0	0	0	0	1	6	0	1	2	0	0	0	0	34
	2	1	0	0	3	0	1	1	0	1	2	0	0	0	3	17
	3	0	0	0	0	-	0	3	0	1	0	0	0	7	10	16
	4	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4	10
	5	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	0	0	0	4	12
	6	0	0	0	0	0	1	3	1	5	2	0	0	6	3	18
8	1	2	0	0	8	9	3	25	1	13	4	0	0	15	0	23
	2	1	0	0	5	11	3	39	11	11	0	1	1	16	22	9
	3	0	1	0	4	1	3	15	10	11	0	1	1	7	16	14
	4	0	0	0	6	7	3	8	6	4	1	1	1	4	15	10
	5	0	1	0	0	2	1	0	-	6	0	4	2	0	3	7
	6	0	0	0	2	1	1	7	0	5	1	0	1	5	0	7
9	1	1	0	1	1	1	1	5	0	5	0	0	2	2	-	9
	2	0	0	2	2	2	1	21	3	5	0	0	2	6	7	10
	3	4	1	10	0	4	1	5	2	4	4	0	2	6	63	36
	4	0	1	2	0	0	2	0	1	7	2	0	3	0	40	25
	5	1	1	1	1	2	2	5	5	8	3	0	2	1	45	43
	6	9	0	0	12	0	1	14	1	3	3	0	3	6	12	38
10	1	7	0	1	8	0	2	63	0	6	2	0	3	11	11	14
	2	4	0	0	18	0	1	63	2	2	1	0	1	59	24	18
	3	0	0	0	1	1	0	6	1	2	0	0	0	31	24	13
	4	1	1	0	3	0	0	0	2	1	0	0	0	1	80	17
	5	1	0	0	1	0	0	3	0	2	0	0	0	5	15	6
	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	5	2
合計		53	22	45	204	46	45	317	50	133	52	8	26	411	522	701

※「-」は欠測

平成25年予察灯における誘殺数(ツヤアオカメムシ)

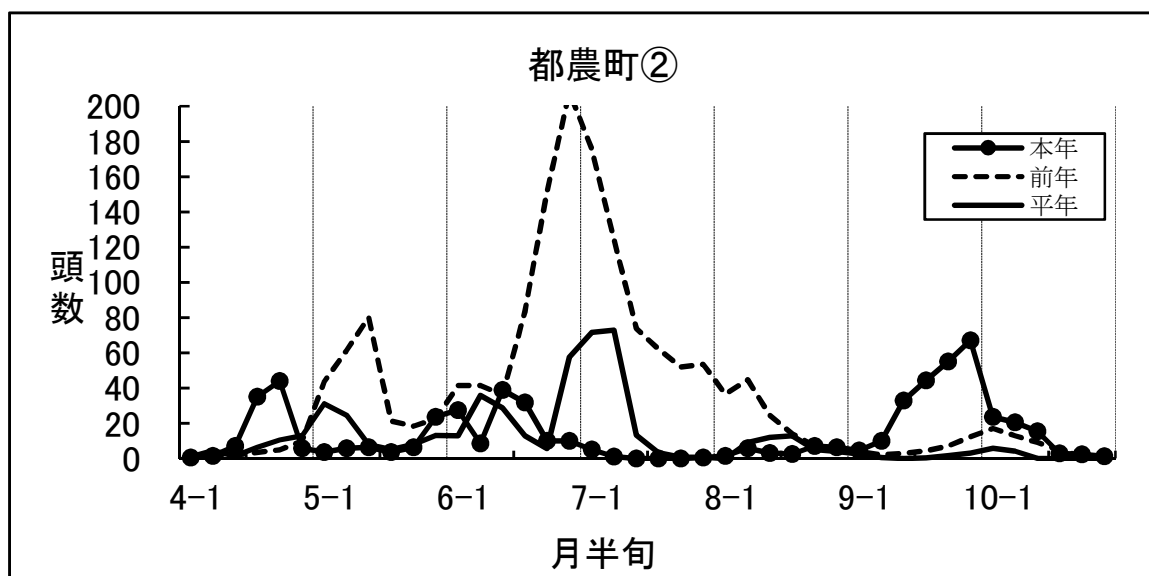
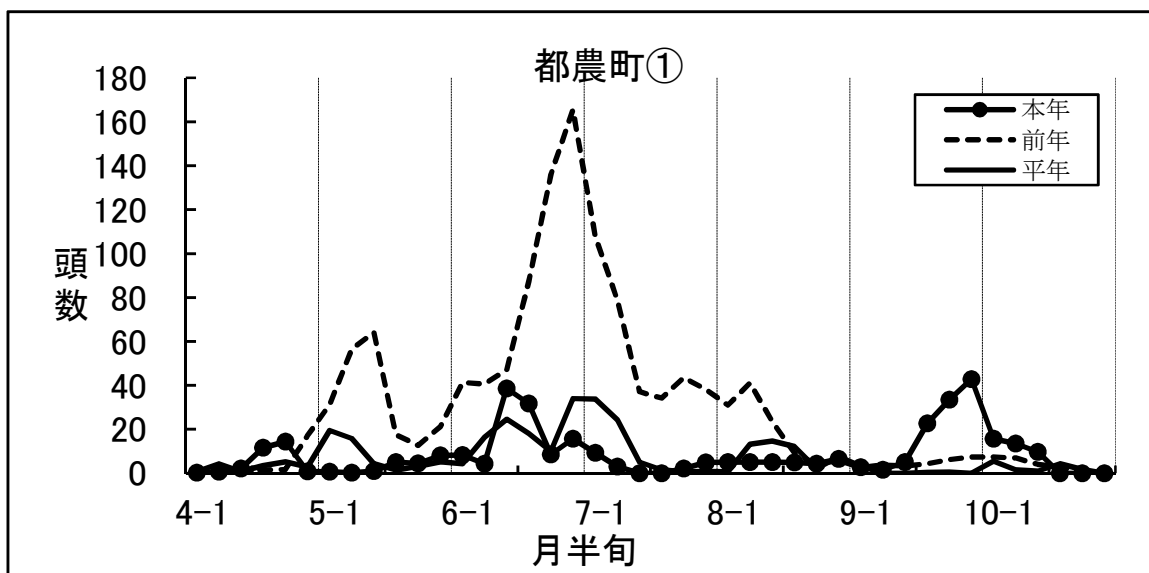
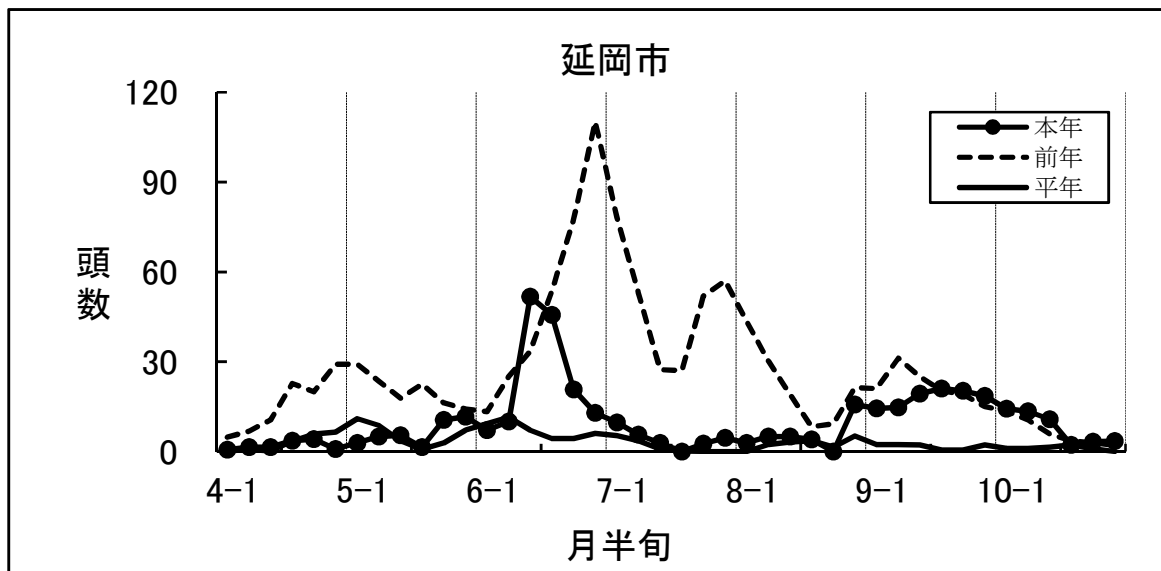


(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

① チャバネアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	1	0	5	0	1	0	1	1	1
	2	1	1	7	1	4	3	1	4	3
	3	1	0	11	2	1	1	7	2	2
	4	4	3	23	12	3	1	35	6	3
	5	4	6	20	14	5	2	44	11	5
	6	1	6	29	1	3	17	6	13	10
5	1	3	11	29	1	19	31	4	31	44
	2	5	9	23	0	16	56	6	25	61
	3	5	4	18	1	4	64	6	8	80
	4	1	1	23	5	1	18	4	5	21
	5	11	3	16	4	3	13	6	8	18
	6	12	7	14	8	5	21	24	13	22
6	1	7	9	13	8	4	41	27	13	41
	2	10	11	25	4	16	41	9	36	42
	3	52	7	33	39	25	47	39	29	36
	4	46	4	54	32	18	87	32	13	83
	5	21	4	78	9	10	136	10	6	152
	6	13	6	110	16	34	165	10	58	208
7	1	10	5	78	9	34	108	5	72	175
	2	6	4	53	3	24	79	1	73	125
	3	3	1	27	0	5	37	0	13	74
	4	0	0	27	0	2	34	0	3	62
	5	3	0	52	2	1	44	0	1	52
	6	5	0	57	5	1	38	1	1	53
8	1	3	0	43	5	1	31	1	0	37
	2	5	2	30	5	13	41	6	9	45
	3	5	3	19	5	15	23	3	12	25
	4	4	4	8	5	12	9	3	13	14
	5	0	1	9	4	2	4	7	5	7
	6	16	5	21	7	8	6	6	4	5
9	1	14	2	21	3	3	3	5	3	4
	2	15	2	31	2	0	4	10	1	2
	3	19	2	25	5	0	3	33	0	3
	4	21	1	20	23	0	4	44	0	4
	5	20	0	19	33	1	6	55	2	7
	6	19	2	15	43	0	7	67	3	12
10	1	14	1	13	16	6	7	24	6	17
	2	13	1	11	14	2	7	21	4	13
	3	11	1	6	10	1	4	15	0	9
	4	2	2	4	0	4	3	3	0	5
	5	3	1	3	0	2	1	2	0	1
	6	3	0	2	0	0	0	1	0	0
計		410	135	1,127	354	309	1,250	583	503	1,585

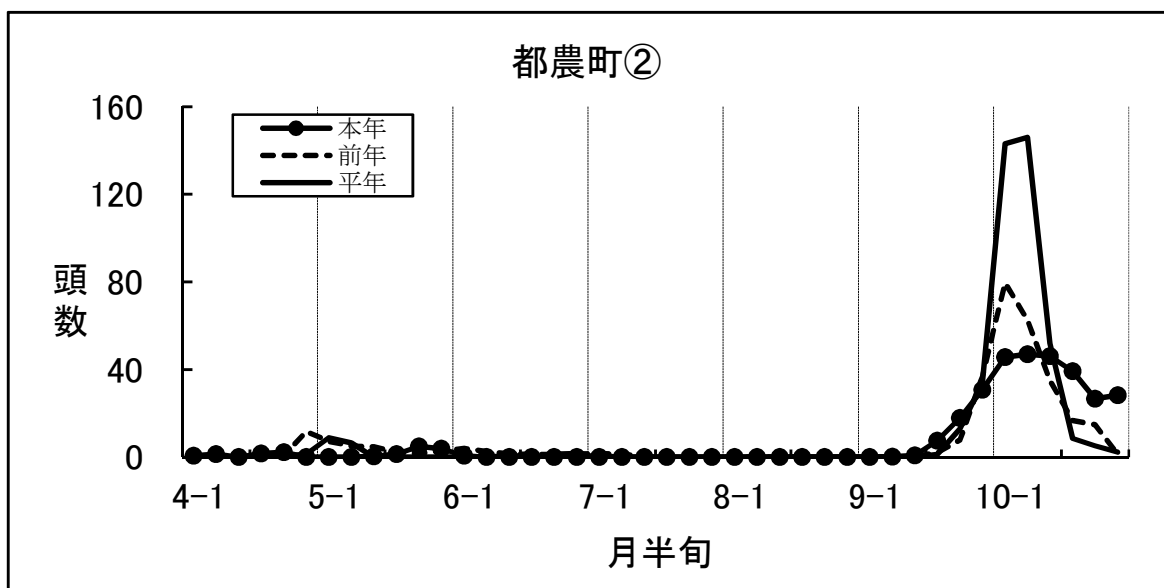
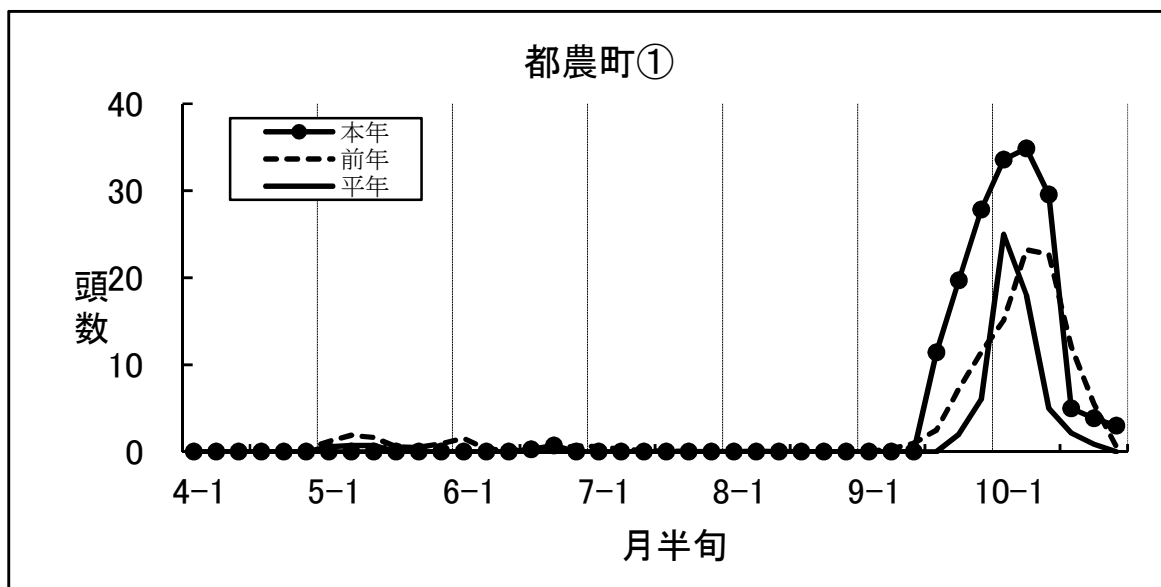
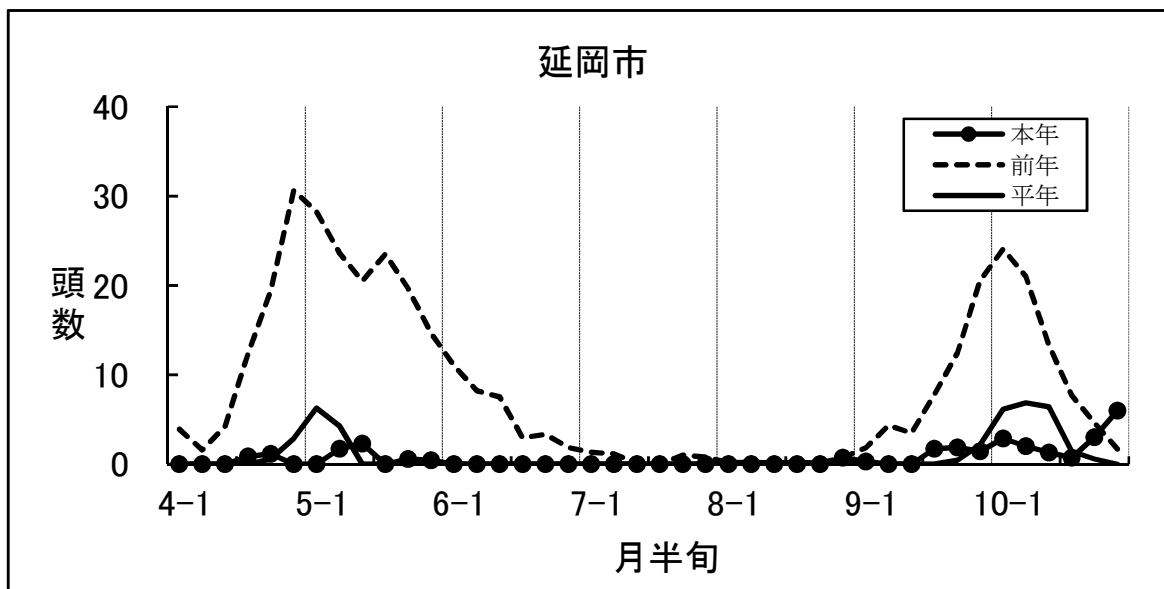
平成25年フェロモントラップ誘殺数(チャバネアオカメムシ)



② ツヤアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	4	0	0	0	1	0	0
	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0
	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	4	1	0	12	0	0	0	2	0	0
	5	1	1	19	0	0	0	2	0	1
	6	0	3	31	0	0	0	0	1	12
5	1	0	6	28	0	1	1	0	9	7
	2	2	4	24	0	1	2	0	6	5
	3	2	0	20	0	1	2	0	0	5
	4	0	0	23	0	0	1	1	0	2
	5	1	0	20	0	0	0	5	0	2
	6	0	0	15	0	0	1	4	0	3
6	1	0	0	11	0	0	2	1	0	4
	2	0	0	8	0	0	0	0	0	3
	3	0	0	8	0	0	0	0	1	1
	4	0	0	3	0	0	0	0	0	1
	5	0	0	3	1	0	0	0	0	1
	6	0	0	2	0	0	1	0	1	1
7	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0
8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	3	0	0	1	1	0	0
	4	2	0	8	11	0	2	8	1	2
	5	2	0	12	20	2	7	18	13	8
	6	1	2	21	28	6	11	31	34	37
10	1	3	6	24	34	25	15	46	143	80
	2	2	7	21	35	18	23	47	146	63
	3	1	6	13	30	5	23	46	52	35
	4	1	1	8	5	2	12	39	9	17
	5	3	1	5	4	1	5	27	5	15
	6	6	0	2	3	0	1	28	2	1
計		29	38	366	170	61	113	307	424	309

平成25年フェロモントラップ誘殺数(ツヤアオカメムシ)



8) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:—	2,752	初確認は5月25日(平年:5月17日)。6月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度(発病度)は平年並の発生であったが、6月下旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度いずれも平年並の発生であった。	5月末以降、感染に好適な条件が続いたことに加え、梅雨時期の天候不良により効果的な防除ができず、発生が拡大した。	病害虫防除情報第4号(H25.7.5)発表。 育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	2,000	7月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度(発病穂率)は平年並の発生であった。		
	紋枯病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	3,248	6月中旬の巡回調査では、発生未確認であった。その後、6月下旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度(発病株率)は平年並の発生であった。	7月以降は雨の日が少なく、感染に好適な条件ではなかった。	穂ばらみ期に防除。一部地区で航空防除。
	イネミズゾウムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	4,504	4月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや少、発生程度は平年に比べ少の発生であった。5月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年に比べやや少、発生程度(被害度)は平年並の発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:—	4,000	4月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発生程度(m当貝数)は平年並の発生であった。5月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度は平年に比べ多の発生であった。		粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起。
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	2,752	6月下旬及び7月中旬の本田巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年に比べやや少の発生であった。		防除情報第3号(H24.6.10)発表。 穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。一部地区で航空防除。
普通期水稲	葉いもち	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや多 前年:—	6,813	本田での発生は7月中旬の巡回調査から確認された。7月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度(発病度)いずれも平年に比べ多の発生であった。7月下旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度はいずれも平年に比べ多の発生であり、8月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度はいずれも平年に比べやや多の発生であった。	分けつ期前半の7月中旬まで曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であった。	防除情報第4号(H25.7.5)発表。 注意報第3号(H25.7.25)発表。 育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:—	9,909	9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発病穂率はやや多であった。	9月上旬に曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であった。	穂ばらみ期と穂揃い期に防除。一部地区で航空防除。
	紋枯病	平年:並 前年:早い	平年:並 前年:—	5,178	7月中旬の巡回調査では、発生未確認であった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度(発病度)はいずれも平年に比べ少の発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べやや少の発生であった。	ほ場での発生は少なく、適期、適正防除が行われた。	穂ばらみ期の防除。一部地区で航空防除。
	もみ枯細菌病	平年:— 前年:—	平年:多 前年:—	10,410	9月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度(病穂率)はいずれも平年に比べ多の発生であった。		粒剤による防除。
	内穎褐変病	平年:— 前年:—	平年:やや多 前年:—	10,628	9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発生程度(病穂率)はやや多の発生であった。		

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	セジロウンカ	平年:早い 前年:早い	平年:やや多 前年:—	10,901	予察灯初飛来は5月29日(平年6月16日)で平年より早かった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発生程度(20回振すくい取り虫数)はやや多の発生であった。	6月下旬にまとまった飛来が確認された。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	トビイロウンカ	平年:早い 前年:早い	平年:多 前年:—	10,400	予察灯初飛来は、6月18日(平年7月11日)で平年より早かった。本田では、7月中旬から発生が確認され、8月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度(株当たり虫数)いずれも平年に比べ多の発生であった。また、短翅型雌成虫率も高かったことから、その後、急速に増加し、9月中旬の巡回調査でも発生面積率、発生程度はいずれも平年に比べ多の発生であった。坪枯れについては、8月下旬に初発が確認され、9月中旬以降は全県下で確認された。	6月下旬にまとまった飛来が確認されたことや短翅型雌成虫率が高かったこと、7月から9月にかけて平均気温が高かったこと等から、8月中旬以降、急速に増加した。	注意報第4号(H25.8.2)発表。警報第1号(H25.8.16)発令。防除情報第9号(H25.9.4)育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	ヒメトビウンカ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:—	10,356	7月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並の発生であった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度はいずれも平年に比べ多の発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度は平年に比べ多の発生であった。	越冬量は平年並であったが、好天により増加した。	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	ツマグロヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:—	9,197	8月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並の発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べ多の発生であった。	越冬量は平年並であったが、好天により増加した。	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	7,630	7月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発生程度(被害葉率)は平年並の発生であった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度いずれも平年並の発生であった。	7月下旬にまとまった飛来が確認された。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミスゾウムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	1,145	6月中旬巡回調査においては、発生面積率は平年並、発生程度(被害度)は平年に比べやや少の発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	4,306	6月中旬巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度(m ² 当貝数)は平年並の発生であった。	水管理及び防除の不徹底。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	4,362	8月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや少、発生程度(20回振すくいとり虫数)は平年並の発生であった。その後、9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べやや多の発生であった。	出穂期、穂ぞろい期防除の不徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。
大豆	べと病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:—	218	9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年並、発生程度(発病度)は平年に比べ多の発生であった。	9月上旬は平均気温が高く、曇りや雨の日が多かったことから、感染に好適な条件であった。	種子消毒の徹底。
	葉焼病	平年:— 前年:—	平年:並 前年:—	0	発生未確認。		
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:—	290	8月中旬及び9月中旬の巡回調査では、いずれも発生面積率は平年並、発生程度(食害度)はやや多であった。		若齢期の防除。
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:多 前年:—	290	8月中旬の巡回調査では、発生未確認であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度いずれも平年に比べ多の発生であった。		さやの肥大期の防除。

農作物名	病虫害名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんしょ	イモキバガ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:並	1,866	8月中旬巡回調査における発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並みであった。その後、9月中旬巡回調査における発生面積率、発生程度はいずれも平年比やや少の発生で推移した。		被害初期の防除。
	ナカンロンハ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:少	1,866	8月中旬及び9月中旬のいずれの巡回調査においても、発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年比少の発生であった。		一部地区で無人ヘリ防除。つる先の1~3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:少	267	8月中旬及び9月中旬のいずれの巡回調査においても、発生面積率は平年比やや少、発生程度は平年比少の発生であった。		他の害虫との同時防除。
ジャガイモ	疫病	平年:並 前年:並	平年:多 前年:多	438	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度はいずれも平年比多の発生であった。		種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:多	492	5月中旬巡回調査においては、発生面積率は平年比多、発生程度は平年比やや多の発生であった。	初期防除の不徹底。	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年:やや遅 前年:並	平年:やや少 前年:少	0	5月中旬巡回調査において、わずかに発生が確認された。		幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:少	0	4月中旬及び5月中旬巡回調査において、発生は確認されなかった。		若齢期の防除。
かんきつ	そうか病	平年:やや遅 前年:やや遅 い	平年:並 前年:-	251	葉、果実ともに平年並みの発生であった。初発は、葉が5月8日(平年比+1日)で平年並み、果実が7月1日(平年比+31日)と遅かった。	春葉伸長期である3月下旬~4月上旬の降雨量は少なかったが、落弁期以降曇雨天が続いた。	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農薬防除。越冬病斑量を減らすため、剪定時に病葉をできるだけ除去する。
	黒点病	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや多 前年:-	1,170	春葉での発生は平年並みであった。8月以降果実での発生はやや多~多で推移した。防除適期に薬剤散布できなかった園では多発した。	適期防除の不徹底。枯れ枝等の放置。	落花期以降の定期的な防除。枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:-	334	平年並みの発生であった。初発は葉で6月10日(平年比+33日)、果実で7月11日(平年比+13日)と遅かった。	夏芽伸長期である6月下旬の降雨量が多かった。ハモグリガの発生量は平年並みであった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	837	春ダニの発生は平年並みであった。5月~8月の発生量は平年並で推移したが、9月に一部の地域で多発した園が見られ、やや多の発生となった。	8月の降雨日数が少なかった。夏期マシン油を散布していない園では多発した。	発生初期での防除の実施。同一系統薬剤の連用を避ける。冬期、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミウマ	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:並	6	巡回調査では、10月に1頭のみ発生を確認した。	適期防除が行われた	落花期から9月までの防除。多発する園では、5~6月、8月~9月の発生にも注意する。
	ミカンハモグリガ	平年:並 前年:やや早 い	平年:やや少 前年:-	501	ほぼ平年通りに推移した。	新梢発生が7月まで続いた。適期防除の不徹底。	防除の徹底。新梢をだらだらと発生させさないような肥培管理。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:少 前年:-	167	少発生で推移した。	梅雨時期の降雨により発生が抑制された。適期防除が行われた。	防除の徹底。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	カメムシ類	平年: やや早い 前年: やや早い	平年: 並 前年: -	190	予察灯ではチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシとも4月中旬から誘殺されはじめ、越冬世代成虫の誘殺数は平年、前年いずれも平年並みで推移した。 都城市では、6月から増減を繰り返しながら、平年よりも誘殺数が多かった。延岡市では8月以降の誘殺数がチャバネ、ツヤアオいずれも平年よりやや多かった。フェロモントラップでは平年より少ない数が誘殺された。 果樹園への飛来は、8月中旬に確認されはじめ、一部のほ場で被害が発生した。	7月下旬に実施したヒノキ毬果口針鞘数調査では果樹園への飛来は9月中旬頃と予測された。	飛来を確認したら直ちに防除
茶	炭疽病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	1,009	前年からの越冬病斑が多く、6月までの発生はやや多かったが、防除情報等の効果があつたのか、7月以降は平年並みで推移した。	前年からの越冬病斑量が多かったが、適期防除の実施により平年並みの発生に抑えられた。	二番茶生育期、秋芽生育期の防除
	もち病	平年: 早い 前年: 早い	平年: やや少 前年: -	120	5月から発生が見られたが、6月以降は発生面積、程度ともに平年より低い値で推移した。	梅雨時期以外は、曇雨天の続くことが少なかったため、発生が抑制された。	二番茶と秋芽の萌芽期から2、3葉期に炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年: やや早い 前年: 早い	平年: やや多 前年: -	551	6月に発生を確認以降、増加傾向で推移した。月によって発生する地域が異なっていた。年間を通してやや多の発生となった。	適期防除が行われていない地域で発生が助長された。	二番茶、三番茶摘採直後の防除
	チャノコカクモンハマキ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	120	ほ場調査での発生は平年並みであった。フェロモントラップ調査では、第1世代の発蛾最盛期がほとんどの地域で平年より多い傾向を示したが、その後の世代はおおむね平年並みの発生であった。	越冬世代の発生は多かった。チャハマキとの同時防除を行っているが、発生ピークのずれや摘採時期との関係で適期防除できなかった園では発生量が増加した。	薬剤防除 チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	92	ほ場での幼虫確認数は一年を通して平年並みで推移したが、8・9月のについては平年に比べてやや多の発生となった。フェロモントラップ調査では、第1世代の発蛾最盛期が平年よりやや早かったが、その後はほぼ平年と同じ傾向を示した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除を行っているが、発生ピークのずれや適採時期との関係で適期防除できなかった園では発生量が増加した。	薬剤防除 チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: -	1,009	年間を通して、発生面積、程度ともに平年並みか平年よりやや少の発生となった。	ハマキ類やチャノミドリヒメコバイ、チャノキイロアザミウマとの同時防除を行っているが、発生ピークのずれや適採時期との関係で適期防除できなかった園では発生が増加した。	三角葉巻前の防除
	カンザワハダニ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	1,102	8月に平年より多の発生があつたが、それ以外は平年並みの発生となった。	8月は晴天が多かったことから発生が助長されたが、適期防除により、おおむね平年並みの発生に抑えられた。	薬剤防除
	チャノミドリヒメコバイ	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 並 前年: -	1,102	前年夏以降発生量が多く、7、8月に一時減少したものの今年もやや多の発生となった。	初期防除、適期防除の不徹底。	二番茶、三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年: 遅い 前年: やや遅い	平年: 並 前年: -	1,377	5、6月は平年よりも多の発生であったが、その後は、適期防除によって平年並みの発生となった。	梅雨時期の降雨や適期防除により発生が抑えられた。	二番茶、三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノミドリヒメコバイとの同時防除。
クワシロカイガラムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	918	第1世代の発生が多かったが、第2世代、第3世代の発生は平年並みであった。	適採時期との関係で第一世代に防除できなかった園では発生が増加した。	各世代の孵化最盛期の防除 ヒロロキシエン剤の普及	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
平成25年産 冬春キュウリ H24.9.～25.6. (栽培期間)	べと病	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 多 前年: 多	161	栽培当初の発生はなかったものの、11月以降発生面積、発生程度ともに徐々に拡大し作収量まで上昇傾向は継続した。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 曇雨天等による発生の助長	薬剤による防除
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: やや遅い	平年: 並 前年: 少	7	春先にかけて散発的に確認されたが、栽培期間を通しては少ない発生であった。	早期防除の不徹底 罹病果の放置	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年: やや遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: 並	85	平成24年11月以降発生はみられるものの、年内の発生量は少なかった。2月以降発生量はやや多くなったものの、全体的にはやや少の発生であった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	褐斑病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 少 前年: 少	25	栽培期間を通して少ない発生で推移した。	湿度管理の不徹底 窒素質肥料の多用	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 並 前年: やや少	119	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の粒剤施用を行う農家が多くなったため、初発が遅くなり、栽培中の発生量も比較的少なかった。春先には施設開放により外部からの侵入等も起こり、発生量が多くなった。また、黄化えそ病の発生は、県栽培開始時にわずかに確認されたが、その後発生は確認されなくなった。	早期水稲準備等、労力不足による防除の不徹底	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	29		施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施	
平成25年産 冬春ピーマン H24.9.～25.6. (栽培期間)	モザイク病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年: 並 前年: やや遅い	平年: 並 前年: 並	54	栽培当初の発生はなかったものの、11月以降発生面積、発生程度ともに徐々に拡大し作収量まで上昇傾向は継続した。	施設内湿度管理の不徹底 燃油高騰対策のための内張多層被覆下での栽培法への対応不足	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	65	栽培期間中発生が続いたが、年明け以降、一部ほ場で多発するなどほ場間差が大きかった。全体としては平年並の発生であった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	74	11月以降発生が確認されたが、発生面積及び発生量とも11月をピークに減少した。天敵等の導入が進んでおり、冬季の発生は低かったが、春先になり上昇してきた。	天敵導入面積の拡大 天敵導入前防除の取り組み	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
平成25年産 冬春トマト H24.9.～25.6 (栽培期間)	灰色かび病	平年: やや遅い 前年: 並	平年: やや少 前年: 少	9	年明け頃から葉での発生が確認され、その後、葉及び果実での発生が拡大していった。	施設内の低温多湿状態 初期防除の不徹底	薬剤による防除
	葉かび病	平年: 並 前年: 早	平年: 並 前年: 並	18	年内に発生が確認され、その後の発生は平年並で推移した。	発生初期の対応の遅れ	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し
	黄化葉巻病	平年: 一 前年: やや遅	平年: 一 前年: 少	0	定植後に若干発生が確認されたものの、その後の発生は確認されていない。	タバコナジラミ類防除の不徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	コナジラミ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	46	定植直後から発生が確認され、その後の発生は平年並で推移した。	苗床での防除の不徹底	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリバエ類	平年:並 前年:並	平年:少 前年:少	2	11月に散発的な発生が確認されたものの、その後の発生は確認されなかった。	苗床での防除の不徹底 侵入防止対策の不備	初期防除の徹底 薬剤による防除
平成25年産 いちご H24.9～25.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	14	定植直後は平年並の発生であったが、その後、葉及び果実での発生は低く抑えられた。	親株床での防除の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年:やや遅 前年:やや遅	平年:並 前年:並	6	2月以降、県央地域で散発的に発生が確認された。	ハウス内の環境条件の不備	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年:早 前年:早	平年:やや多 前年:並	13	親株床の潜在感染株調査で多発しており、定植後は、発生面積、程度ともに並～少で推移したものの、年明け以降に発生が拡大し、3月には発生面積は平年比多、発病株率は平年比やや多となった。	親株床での選抜の不備	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	50	定植直後は平年並みの発生であったが、その後、栽培終了まで発生面積、程度ともに高い状態で推移した。	初期防除の不徹底	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:やや早	平年:並 前年:並	9	栽培当初は県内各地で発生が確認されたが、その後の発生は低く抑えられた。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
平成25年産 秋冬ダイコン H24.9.～ 24.12. (栽培期間)	萎黄病	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	高温期の播種を避ける 連作を避ける
	軟腐病	平年:やや遅い 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	180	平成24年11月に発生が確認された。	初期防除の不徹底 罹病果の放置	排水を良くする
	コナガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:少	180	平成24年11月に一部地域で発生が確認された。	初期防除の不徹底	薬剤による防除
	ダイコンサルハムシ	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:多 前年:やや多	1005	平成24年11月に県内全域で発生が確認された。	登録農薬がないため、薬剤防除ができない。	

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考		
			甚	多	中	少		実	延					
早期水稻	8,000	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	7,200	(同)	7,200	0	0	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	7,200	(同)	7,200	0	0	
		葉いもち	0	0	0	2,752	2,752	(同)	7,200	(同)	7,920	0	2,155	
		穂いもち	0	0	0	2,000	2,000	(同)	6,400	(同)	7,360	0	1,317	
		紋枯病	0	0	0	3,248	3,248	(同)	3,600	(同)	3,600	0	3,042	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	7,200	(同)	7,200	0	0	
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同)	7,200	(同)	7,200	0		
		ごま葉枯病	0	0	0	248	248	0	0	0	0	0	202	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	6,248	6,248	0	0	0	0	0	900	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同)	7,200	(同)	7,200	0		
		内穎褐変病	0	0	0	7,248	7,248	-	-	-	-	0	3,788	
		稲こうじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	2,000	2,000	0	0	0	0	0	600	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
セジロウンカ	0	0	0	4,504	4,504	(同)	640	(同)	640	0	5,566			
トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同)	640	(同)	640	0	145			
ヒメトビウンカ	1243	2,495	996	2,742	7,476	(同)	640	(同)	640	4,734	6,327			

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平成発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		ツマグロヨコバイ	0	0	1,000	5,000	6,000	(同) 640	(同) 640	1,000	5,499	
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,360	(同) 1,360	0		
		イネゾウムシ	0	0	0	504	504	(同) 1,360	(同) 1,360	0	541	
		斑点米カメムシ類	248	248	504	1,752	2,752	(同) 1,360	(同) 4,704	1,000	2,859	
		イネツトムシ	0	0	0	2,752	2,752	0	0	0	1,472	
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,752	1,752	0	0	0	2,104	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	752	752	0	0	0	1,679	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	4,504	4,504	(同) 1,360	(同) 1,360	0	5,566	
		スクミリンゴガイ	0	248	1,000	2,752	4,000	(同) 80	(同) 80	1,248	1,857	
普通期水稲	10,900	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 9,810	(同) 9,810	0	240	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 9,810	(同) 9,810	0	0	
		葉いもち	0	0	1,363	5,450	6,813	(同) 9,810	(同) 10,791	1,363	3,519	
		穂いもち	0	0	491	9,418	9,909	(同) 9,810	(同) 10,028	491	3,460	
		紋枯病	0	0	273	4,905	5,178	(同) 7,630	(同) 7,630	273	4,723	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	86	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 9,810	(同) 9,810	0	0	
		心枯線虫病	0	0	0	0	-			0	0	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 9,810	(同) 9,810	0		
		ごま葉枯病	0	0	273	1,363	1,636	(同) 0	(同) 0	273	1,463	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平成発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	992	9,418	10,410	(同) 0	(同) 0	992	1,285	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 9,810	(同) 9,810	0		
		内穎褐変病	0	0	273	10,355	10,628	0	0	273	3,965	
		稲こうじ病	0	491	992	1,984	3,467	0	0	1,483	738	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同) 5,276	(同) 5,276	0	1	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	545	545	(同) 0	(同) 0	0	120	
		セジロウンカ	0	0	1,363	9,538	10,901	(同) 10,791	(同) 27,250	1,363	7,448	
		トビイロウンカ	0	491	3,968	5,941	10,400	(同) 10,791	(同) 27,250	4,459	4,426	
		ヒメトビウンカ	3815	3,815	1,363	1,363	10,356	(同) 10,791	(同) 27,250	8,993	6,552	
		ツマグロヨコバイ	0	0	3,171	6,026	9,197	(同) 10,791	(同) 27,250	3,171	5,974	
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,853	(同) 1,853	0		
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,853	(同) 1,853	0	424	
		斑点米カメムシ類	818	273	1,363	1,908	4,362	(同) 5,559	(同) 6,540	2,454	2,988	
		イネツトムシ	0	0	0	2,220	2,220	0	0	0	760	
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,110	1,110	0	0	0	776	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	7,630	7,630	8,720	8,829	0	5,874	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	1,145	1,145	(同) 1,853	(同) 1,853	0	1,840	
		スクミリンゴガイ	0	0	578	3,728	4,306	(同) 480	(同) 480	578	1,359	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
大豆	290	紫斑病	0	0	0	73	73	0	0	0	0		
		さび病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	
		立枯性病害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		べと病	0	0	109	109	218	0	0	109	225		
		葉焼病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
		アブラムシ病	0	0	36	73	109	(同)	203	(同)	305	36	10
		コガネムシ類	0	36	181	73	290	(同)	203	(同)	305	217	155
		ハスモンヨトウ	0	254	36	0	290	(同)	203	(同)	305	290	258
		ハダニ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ダイス [*] サヤタマハ [*] エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		マメヒメサヤムシカ [*]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		マメシンクイガ	0	0	0	73	73	0	0	0	0	0	52
		シロイチモシ [*] マダ [*] ラメイカ [*]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42
カメムシ類	0	73	145	73	290	(同)	203	(同)	203	218	97		
ウコンノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
さつまいも	3,440	ナカジロシタバ	0	0	287	1,720	2,007	(同)	2,855	(同)	5,710	287	2,234
		ハスモンヨトウ	0	0	0	287	287	(同)	2,855	(同)	5,710	0	1,355
		イモコガ	0	0	573	1,433	2,006	(同)	2,855	(同)	5,710	573	1,642
じゃがいも	477	疫病	0	0	0	382	382	(同)	293	(同)	587	0	113
		アブラムシ類	0	0	0	429	429	(同)	293	(同)	587	0	118
		ニシユウヤホシテントウ	0	0	0	0	0	(同)	293	(同)	587	0	78
かんきつ	1,504	そうか病(春葉)	0	0	0	251	251	1,053	3,158	0	108		
		温州	0	0	0	167	167	1,053	3,158	0	241		
	822	黒点病(果実)	0	84	752	334	1,170	1,053	3,158	836	965		
		晩柑	0	0	0	334	334	1,053	1,053	0	457		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
	699	かよいよ病(果実)	0	0	0	251	251	1,053	1,053	0	369	
		日焼け炭疽病	0	0	0	0	0	0	0	0	260	
		ミカンハダニ	84	251	84	418	837	(同) 1,504	5,264	419	872	
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	(同) 1,504	(同) 5,264	0	24	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	6	6	1,354	4,061	0	164	
		ミカンハモグリガ	0	0	0	501	501	501	752	0	956	
		アブラムシ類	0	0	0	167	167	167	167	0	467	
		カメムシ類	0	0	0	190	190	190	380	0	424	
茶	1,560	炭疽病	0	0	0	1,009	1,009	1,560	5,460	0	1,048	
		もち病	0	0	0	120	120	(同) 1,560	(同) 1,560	0	234	
		網もち病	0	0	0	0	0	(同) 1,560	(同) 5,460	0	0	
		輪斑病	0	0	0	551	551	1,560	3,120	0	316	
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	120	120	(同) 1,560	(同) 5,460	0	91	
		チャハマキ	0	0	92	0	92	(同) 1,560	(同) 5,460	92	147	
		チャノホソガ	0	0	92	917	1,009	(同) 1,560	(同) 5,460	92	802	
		カンザワハダニ	0	92	275	735	1,102	1,560	3,900	367	968	
		チャノミドリヒメヨコハイ	0	0	367	735	1,102	(同) 1,560	(同) 5,460	367	1,068	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	929	929	(同) 1,560	(同) 5,460	368	1,142	
		クロシロカイカラムシ	367	92	92	367	918	918	1,377	551	804	
		カスミカメ類	0	0	0	839	839	839	839	0	490	
冬春キュウリ (H24.9 ~H25.6)	346	べと病	4	24	26	107	161	329	165	54	165	
		炭そ病	0	0	0	0	0	145	291	0	1	
		疫病	0	0	0	0	0	138	138	0	0	
		灰色かび病	0	0	0	7	7	138	138	0	10	
		うどんこ病	0	3	7	75	85	346	1,384	10	129	
		褐斑病	0	0	0	25	25	332	997	0	96	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	87	173	0	1	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		モザイク病	0	0	0	0	0			0	5	
		ミナミキイロアザミウマ	4	3	3	109	119	329	1,972	10	146	
		アブラムシ類	0	0	0	5	5	138	138	0	3	
冬春ピーマン (H24.9 ~H25.6)	204	疫病	0	0	0	0	0	86	86	0	1	
		斑点病	0	7	4	43	54	163	653	11	54	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	41	41	0	1	
		うどんこ病	2	4	5	54	65	180	539	11	125	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	51	102	0	3	
		モザイク病	0	0	0	0	0			0	10	
		アブラムシ類	0	2	7	13	22	102	204	9	5	
		タバコガ	0	0	0	5	5	112	224	0	1	
		ミナミキイロアザミウマ	0	2	9	63	74	198	1,385	11	110	
ヒラズハナアザミウマ	27	18	29	45	119	198	1,385	74	62			
冬春トマト (H24.9 ~H25.6)	128	疫病	0	0	0	0	0	96	384	0	0	
		灰色かび病	0	0	0	9	9	115	230	0	9	
		葉かび病	0	0	0	18	18	90	269	0	18	
		コナジラミ類	0	0	2	44	46	128	896	2	46	
		ハモグリバエ類	0	0	0	2	2	105	210	0	2	
		モザイク病	0	0	0	0	0			0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	58	115	0	0	
	(含ミニ)	ハスモンヨトウ	0	0	0	9	9	58	179	0	9	
冬春イチゴ (H24.9 ~H25.5)	71	灰色かび病	0	0	0	5	5	63	125	0	6	
		うどんこ病	1	2	2	8	13	71	142	5	14	
		炭そ病	0	0	2	11	13	18	36	2	14	
		アブラムシ類	0	2	2	23	27	71	213	4	29	
		ハダニ類	1	2	8	36	47	71	284	11	50	
		ハスモンヨトウ	0	0	3	5	8	71	142	3	9	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
秋冬ダイコン (H24.10～ 12)	1,546	モザイク病	0	0	0	359	359			0	381	
		アブラムシ類	0	0	0	718	718	890	890	0	423	
		キスジノミハムシ	0	0	0	0	0	287	287	0	53	

9) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
警報	1号	8月16日	普通期水稲	トビイロウンカ	次ページ以降を参照
注意報	1号	4月15日	茶	炭疽病	
	2号	7月25日	普通期水稲	いもち病	
	3号	8月2日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	4号	2月3日	いちご	ハダニ類	
特殊報	1号	3月31日	ピーマン	モトジロアザミウマ	
防除情報	1号	5月27日	施設野菜	アザミウマ類他	
	2号	5月27日	茶	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	
	3号	6月10日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	4号	7月5日	水稲	いもち病(QoI剤耐性菌)	
	5号	7月5日	いちご(親株床)	炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類	
	6号	7月25日	茶	輪斑病	
	7号	8月22日	かんきつ	黒点病	
	8号	9月4日	茶	カンザワハダニ	
	9号	9月4日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	10号	9月4日	大豆・野菜・花き類	チョウ目害虫	
	11号	10月24日	きゅうり、メロン	ミナミキイロアザミウマ	
	12号	10月24日	冬春トマト、冬春ミニトマト	タバココナジラミ類	
	13号	11月28日	冬春いちご	ハダニ類	
	14号	12月25日	ピーマン	アザミウマ類	
	15号	2月3日	トマト	灰色かび病	
	16号	2月3日	施設きゅうり	アザミウマ類、コナジラミ類	

(2) 情報の内容

◎ 警報第1号（発令月日：平成25年8月16日）

- 病害虫名 トビイロウンカ
 作物名 普通期水稻
 1. 発生地域 県内全域
 2. 発生時期 —
 3. 発生程度 多
 4. 警報発令の根拠

(1) 県では注意報第3号（平成25年8月2日付け）を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。しかし、8月中旬に実施した巡回調査の結果、7月下旬調査時より発生地域は拡大し、生息密度も高まっている（図1、図2）。

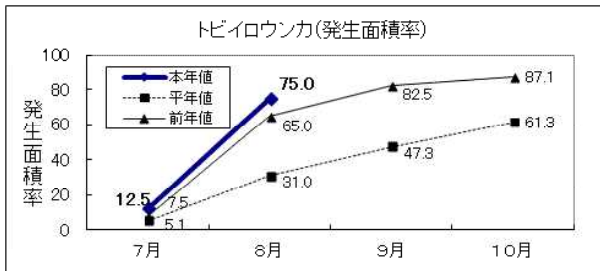


図1. 発生面積率の月別推移

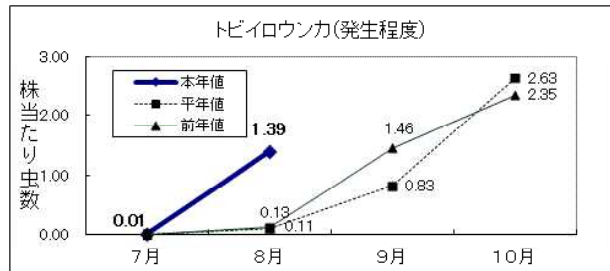


図2. 株当たり虫数の月別推移

(2) 8月中旬の巡回調査における発生面積率 75.0 %と株当たり虫数 1.39 頭は、大規模な坪枯れ等の被害が発生した平成17年や平成21年よりも多い（図3、4）。特に北諸県地域と西諸県地域における発生面積と生息密度は急激に高まっており、発生面積率はともに 100 %、株当たり虫数は北諸県地域が 4.27 頭、西諸県地域が 1.17 頭となっている。

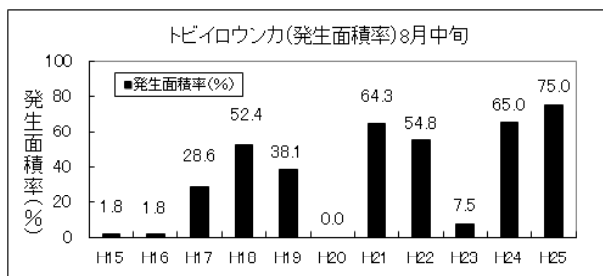


図3. 発生面積率の年別推移

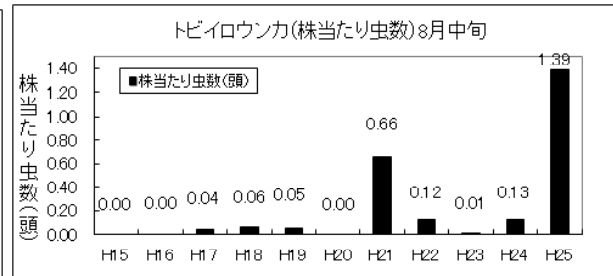


図4. 株当たり虫数の年別推移

(3) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数 0.09 頭は過去 10 年間で最も多い（図5）。特に西諸県では、短翅型雌成虫の株当たり虫数が 0.19 頭となっており、要防除水準に達している。また、7月下旬の段階で要防除水準に達していた北諸県については、短翅型雌成虫の株当たり虫数が 0.10 頭となっており、やや減少したが、総個体数は急激に高まっている（要防除水準：8月上旬～9月中旬の短翅型雌成虫株当たり 0.2

頭)。

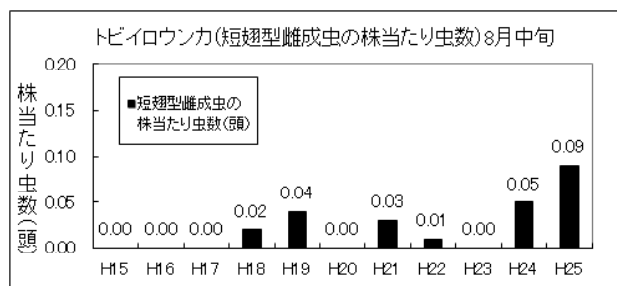


図5. 短翅型雌成虫の株当たり虫数の推移

- (4) 鹿児島地方気象台が8月9日に発表した向こう1ヶ月の気温(8月10日~9月9日)は、高い確率が50%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況がしばらく続くと考えられる。

5. 防除上の注意

- (1) トビイロウンカは水田に侵入後2~3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。防除適期は、幼虫期前半であるが、地域やほ場によって発生状況にばらつきがあるので、ほ場をよく観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は速やかに防除を行う。ただし、注意報第3号の発表以降に本田防除を行っていないほ場については、直ちに防除を行う(別紙: 県内トビイロウンカの発生世代予測を参照)。
- (2) 既に本田防除を行ったほ場においても、その後の発生状況を確認し、密度が高ければ直ちに追加防除を行うなど、防除の徹底を図る。
- (3) 薬剤が本種の生息する株元まで十分到達しない場合には、十分な防除効果が得られない恐れがあるので丁寧な散布を行う。
- (4) 飼料用稲においては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」(平成24年3月)及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」(平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成25年7月1日一部改正)、「飼料の有害物質の指導基準」(昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通達、平成24年12月17日一部改正)に沿って、適正防除に努める。

6. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 注意報第1号(発令月日: 平成25年4月15日)

- | | |
|--------|------|
| 病虫害名 | 炭疽病 |
| 作物名 | 茶 |
| 1 発生地域 | 県下全域 |
| 2 発生量 | 多 |

4 注意報の根拠

- 1) 平成24年10月中旬の巡回調査の結果、発生面積率94.1%（平年63.0%）、1㎡当り病葉数66.1枚（平年9.3枚）はいずれも平年に比べて多である。平成25年3月中旬の巡回調査でも発生面積率92.3%、1㎡当り病葉数31.6枚と多発状態が続いている。
- 2) 一昨年の夏以降本病の発生が多い傾向にあり、感染源となる発病葉が多く残存している。
- 3) 向こう3か月予報によると、5、6月の気温については、平年より高い確率が40%、5、6月の降水量はそれぞれ平年並、平年より多い確率が40%と予想されており、本病感染の拡大が懸念される。（3か月予報 鹿児島地方気象台3月25日発表）

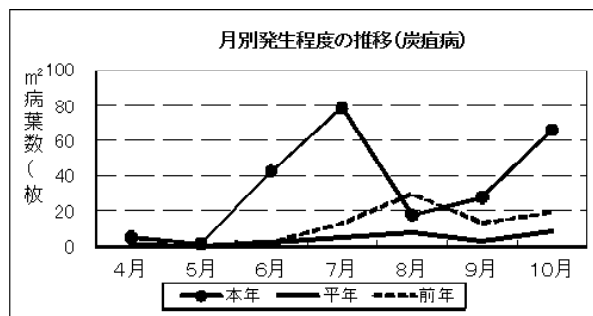
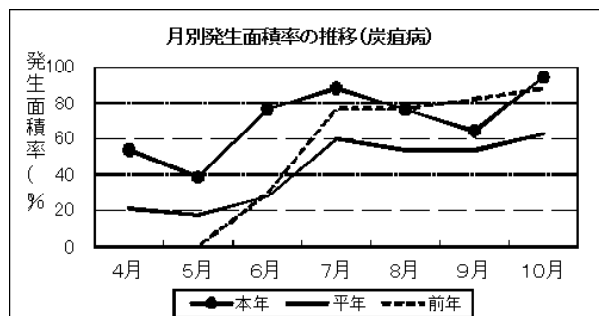


図1 発生面積率の推移（平成24年）

図2 ㎡当り病葉数の推移（平成24年）

4 防除上の注意

- 1) 本病は前茶期の病葉が伝染源となるため、前茶期に発生が多かった茶園では発生が多くなる傾向がある。病原菌は雨によって飛散するため、特に降雨が多いと発生が多くなる。
- 2) 本病は開葉して間もない柔らかい新葉に感染するので、二番茶の萌芽期～開葉期に重点的に防除する。また、二番茶は、適採までの期間が短いので安全使用期間に十分気をつける。
- 3) 本病は潜伏期間が約20日であるため、発病葉が見つかったからでは防除は困難である。
- 4) 多発状態の続く茶園では整剪枝により伝染源を除去する。
- 5) 品種により、本病への抵抗性に差があるため注意する。
- 6) 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 注意報第2号（発令月日：平成25年7月25日）

- | | |
|----------|-------|
| 病虫害名 | いもち病 |
| 作物名 | 普通期水稻 |
| 1 発生地域 | 県下全域 |
| 2 発生量 | 多 |
| 3 注意報の根拠 | |

- 1) 6月中旬の巡回調査において、葉いもちの発生は未確認であったが、その後の7月中旬の巡回調査では、発生面積率が25.0%（平年5.7%）、発病度が1.39（平年0.28）、発病株率5.5%（平年0.9%）でいずれも平年に比べて多の発生となり、県北部を中心

に短期間で急激に増加している（表－1、図1、2）。また、西臼杵支庁・各農林振興局の調査では、各地で葉いもちが散見されている。

- 2) アメダスデータを利用した葉いもち病発生予測システム（BLASTAM）によると、6月下旬から7月初旬にかけて県内各地で感染好適日が複数回出現している。
- 3) 向こう1ヶ月の天候は、平年と同様に晴れの日が多く、降水量は平年よりも多い確率が40%、気温は平年並の確率が50%と予想されている（鹿児島地方気象台7月19日発表1ヶ月予報）。

区分	調査地点数	程度別発生面積率 (%)				発生面積率 (%)	発病度	発病株率 (%)
		甚	多	中	少			
全県	40	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0 (5.7)	1.39 (0.28)	5.5 (0.9)
東諸県	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0
北諸県	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0
西諸県	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0
東臼杵	10	0.0	0.0	0.0	70.0	70.0	3.74	15.0
西臼杵	8	0.0	0.0	0.0	37.5	37.5	2.25	9.0

表－1 7月中旬の巡回調査における葉いもちの発生状況

※()内は平年値

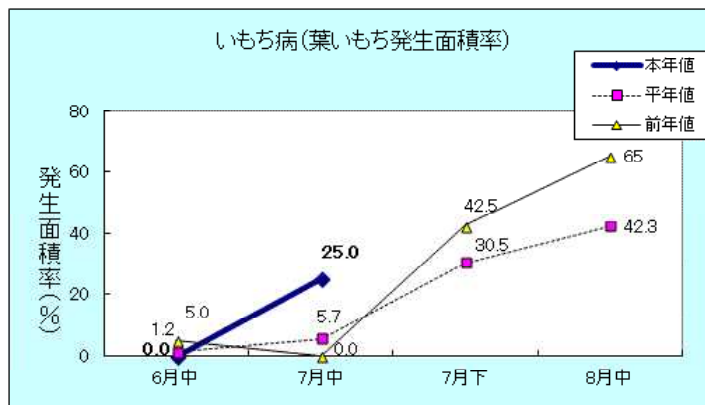


図1. 巡回調査における発生面積の推移

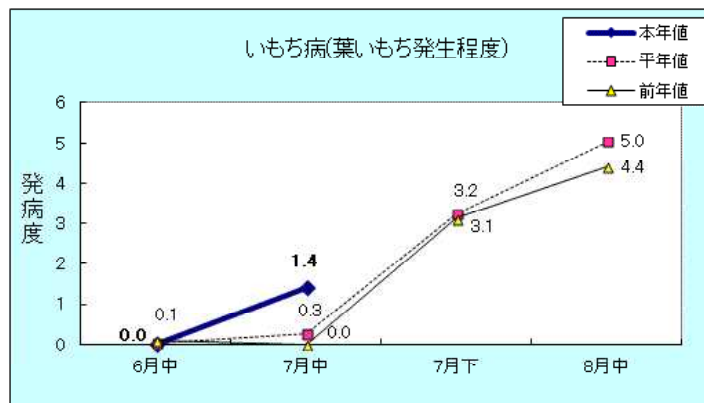


図2. 巡回調査における発生程度（発病度）の推移

4 防除上の注意

- 1) 移植時に育苗箱施薬をしていないほ場では、葉いもちの早期発見に努め、防除を徹底する。育苗箱施薬を行ったほ場でも、薬効が切れた後に葉いもちの発生が多くなる場合があるので注意し、分けつ期までに発生がみられる場合には早めの追加防除を行う。

- 2) 気温の上昇に伴い、葉いもちの発生は一時的に高温抑制されるため、発生が確認されない場合でも、穂いもちを対象に、穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。
- 3) 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期及びその後も降雨が続いて穂いもちの発生が予想される場合は、穂揃期の7～10日後に追加防除を行う。
- 4) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 注意報第3号（発令月日：平成25年8月2日）

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域

2. 発生程度 多

3. 発生状況と注意報の根拠

- (1) 7月下旬の巡回調査における発生面積率 60.0 %、株当たり虫数 0.27 頭は、いずれも平成17年以降（9年間）で最も多い（図1、図2）。また、産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数 0.10 頭も平成17年以降で最も多い（図3）。

（要防除水準：8月上旬～9月中旬の短翅型雌成虫株当たり0.20頭）

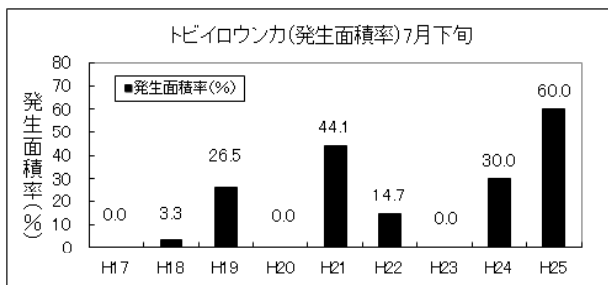


図1.発生面積率の推移

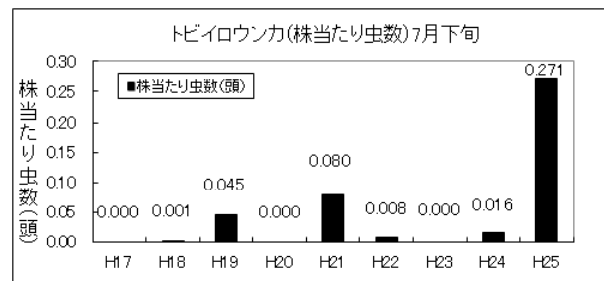


図2.株当たり虫数の推移

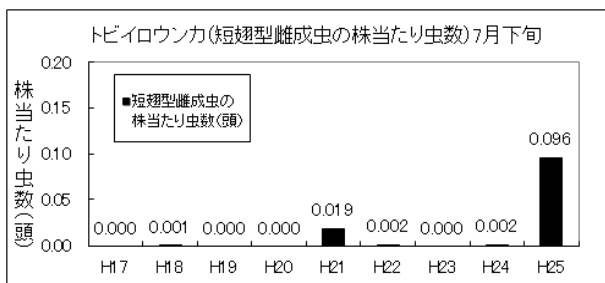


図3.短翅型雌成虫の株当たり虫数の推移

- (2) 鹿児島地方気象台が7月26日に発表した向こう1ヶ月の気温（7月27日～8月26日）は、平年より高い確率が60%と予想されていることから、今後世代交代が早まり、短期間で増殖するおそれがある。

4. 防除上の注意

- (1) トビイロウンカの防除適期は8月第3～5半旬（6月27日飛来・第2世代幼虫期）と予想される。防除を行う際は地域毎の防除適期内に必ず防除を行う（別紙：県内トビイロウンカの発生世代予測を参照）。
- (2) 本虫は株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。
- (3) 気象的な要因等で防除ができなかった場合は、状況の回復を待って必ず防除を行う。また、防除を実施したほ場でも、株元を確認し、トビイロウンカの生息密度が高い場合は追加防除を行う。
- (4) 飼料用稲においては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成23年1月）及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成23年11月17日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準」（昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通達、平成24年4月9日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 注意報第4号（発令月日：平成26年2月3日）

病害虫名 ハダニ類

作物名 いちご

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 収穫期

3 発生量 多

4 注意報の根拠

- 1) 1月中旬の巡回調査では、発生面積率は91.7%（平年62.3%）で平年に比べやや多、寄生株率は36.8%（平年14.5%）、葉当たり虫数は23.0頭（平年1.6頭）でいずれも平年に比べ多である（図1、図2、図3）。
- 2) 向こう1か月の気温は平年並または高い確率がともに40%、降水量は少ない確率40%と予想されており、ハダニ類の増殖に好適な条件が続くと見込まれる（1か月予報：鹿児島地方気象台1月24日発表）。

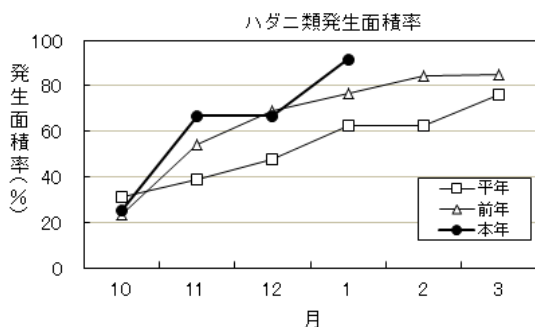


図1 発生面積率の推移

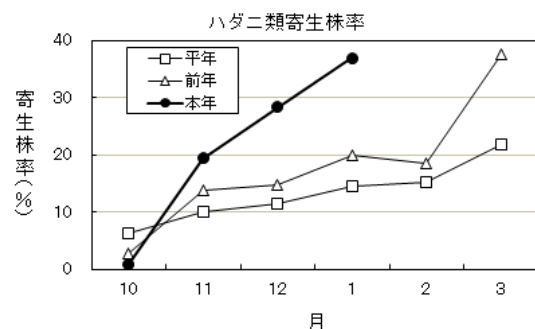


図2 寄生株率の推移

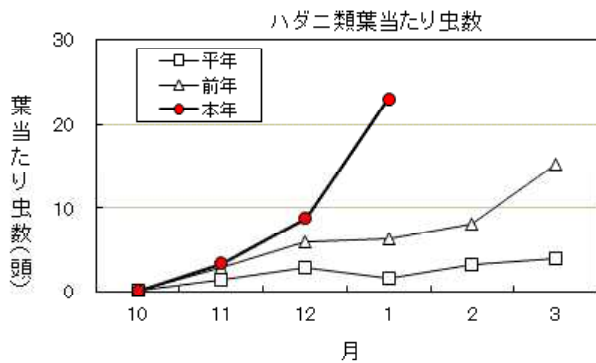


図3 葉当たり虫数の推移

5 防除上の注意

- 1) 発生初期はほ場の一部分に集中的に発生しているので、葉裏を中心にほ場全体を注意深く観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。
- 2) 急激に個体数が増加するため、発生初期のうちに、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。
- 3) 下葉の裏に多く寄生しているのので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- 4) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 5) また、主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の導入など、効果の高い薬剤の温存に努める。

6 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 特殊報第1号（発令月日：平成26年3月31日）

1 病害虫名：モトジロアザミウマ（*Echinothrips americanus* Morgan）

2 作物名：ピーマン

3 発生確認の経過

平成26年3月、県央部施設ピーマンにおいて葉がかすり状になる症状がみられ、宮崎県総合農業試験場職員が現地を調査したところ、暗褐色のアザミウマの寄生を確認した。門司植物防疫所に同定を依頼したところ、県内未発生のもトジロアザミウマであることが確認された。

国内では平成11年に東京都のインゲン、平成14年に愛知県のシソ（オオバ）、平成15年に高知県のミョウガ、平成16年に鹿児島県のハイビスカス、平成25年に香川県のディーフェンバキアおよびシンゴニウム、栃木県のハイビスカスで発生が確認されている。

4 特徴

体長は雌成虫が約1.6mm、雄成虫が約1.3mmで、体色は暗褐色。前翅の付け根の色が薄く、白いラインが入ったように見える。頭部、胸部、腹部の節間は赤みを帯びている。

1齢幼虫は黄白色で体長約0.5mm、2齢幼虫は黄色で体全体が刺毛に覆われ、体長約0.7～

1.2mm。複眼は赤みを帯びている。

蛹（第1蛹、第2蛹）の体色は白色で、太い刺毛を有する。

卵は長径約 0.3mm、短径約 0.2mm の乳白色の俵型で、葉脈ぞいの葉肉中に産み付けられる。

卵～成虫までの発育期間は、20℃で 33.9 日、30℃で 11.4 日とされ、高温下であれば短期間に世代を繰り返す。

5 寄主

寄主範囲は広く、施設野菜のシソ、キュウリ、メロン、ナス、トマト、ピーマン、インゲンマメ、花き類のポインセチア、バラ、ハイビスカスの他、多くの観葉植物等で成幼虫の寄生と加害が確認されている。また、イネ科雑草やキク科雑草、カタバミ等施設内下草への寄生も確認されている。

6 被害状況

寄主植物の葉に寄生し加害する。被害葉は食害により葉がかすり状になり、激しい場合は落葉する。本種は、全ての発育ステージで葉の表裏に生息し、特に中・下位葉に多く確認される。

7 防除対策

- 1) 施設サイド及び谷部への 0.4mm 目合いの防虫ネットを設置するとともに、施設内外の除草を行い、施設へのアザミウマ侵入を抑制する。
- 2) 栽培期間中は、アザミウマ類に登録のある薬剤の散布や、天敵・微生物殺虫剤の活用等により、アザミウマの防除を行う。
- 3) ピーマンのアザミウマ類に農薬登録のある薬剤は、スピノエース顆粒水和剤、アグリメックなどがある（参考資料）。



写真1 成虫と第2蛹



写真2 第1蛹



写真3 寄生状況（葉表）



写真4 かすり状葉

（参考資料）

モトジロアザミウマ1 齢幼虫の薬剤感受性検定（施設ピーマン） 葉片浸漬法

供試薬剤名 （製品名）	希釈倍率	供試 48 時間後		登録がある主な作物
		頭数	補正死虫率	
スピノサド水和剤 （スピノエース顆粒水和剤）	5,000	29	100.0	ピーマン、きゅうり、トマト、 しそ（花穂）、きく
アバメクチン乳剤 （アグリメック）	500	32	100.0	ピーマン、ナス、メロン、 花き類・観葉植物

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター（2014）

◎ 防除情報第1号（発令月日：平成25年5月27日）

- 1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、いちご）
- 2 病害虫名 アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、土壌病害虫
- 3 発生状況（経過）

アザミウマ類

- 1) 4月の巡回調査における冬春きゅうりでのミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が61.5%（平成24年59.6%）、100葉当たり虫数が199.3頭（平成24年167.9頭）でいずれも平成24年並である。ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病の原因ウイルスの媒介虫であり、保毒虫が施設外に拡散すると露地栽培きゅうりやその後続く施設栽培で病気の蔓延を引き起こすことが懸念される。
- 2) 冬春ピーマンでのミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が53.9%（平成24年57.7%）、10花当たり虫数が1.3頭（平成24年2.0頭）でいずれも平成24年並となっている。
- 3) 冬春ピーマンでのヒラズハナアザミウマの発生状況は、発生面積率が77.0%（平成24年30.0%）、10花当たり虫数が27.3頭（平成24年8.9頭）でいずれも平成24年より多である。

4) 3月の巡回調査における冬春いちごでのヒラズハナアザミウマの発生状況は、発生面積率が30.8%（前年0.0%、前々年38.5%）、寄生花率が6.2%（前年0.0%、前々年6.2%）でいずれも前年より多く、前々年と同程度となっている。

コナジラミ類

1) 4月の巡回調査における冬春きゅうりでのタバココナジラミ類の発生状況は、発生面積率が23.1%（平年23.9%）、100葉虫数が0.5頭（平年12.0頭）で、いずれも平年並である。

2) 冬春トマトでのタバココナジラミ類の発生状況は、発生面積率が30.0%（平年31.0%）、100葉虫数が1.7頭（平年4.7頭）でいずれも平年並である。

アブラムシ類

1) 4月の巡回調査における冬春ピーマンでのアブラムシ類の発生状況は、発生面積率が15.4%（平年5.6%）で平年より多、50芯当たり虫数が4.9頭（平年1.5頭）で平年よりやや多である。

2) 3月の巡回調査における冬春いちごでのアブラムシ類の発生状況は、発生面積率が53.8%（平年23.7%）で平年より多、寄生株率が2.3%（平年2.4%）で平年並である。

ハダニ類

1) 3月の巡回調査における冬春いちごでのハダニ類の発生状況は、発生面積率が84.7%（平年68.3%）、寄生株率が37.5%（平年18.1%）でいずれも平年よりやや多である。

青枯病

1) 今作の巡回調査における冬春ピーマンでの青枯病の発生状況は、4月調査で発生面積率が7.7%（平年8.1%）、発病株率が0.1%（平年0.8%）でいずれも平年並となっている。

その他の病害虫

1) 県内の一部地域で、冬春きゅうりでキュウリ緑斑モザイクウイルス（KGMV）が、冬春ピーマンでピーマン立枯病が、トマトやミニトマトでトマト立枯病が確認されている。

4 防除上の注意

1) アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類

① 病害虫の中には各種ウイルス病を媒介するものもあり、薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきたことから、次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を抑制することが重要である。

② 栽培終了時には、施設を密閉し蒸し込みによる害虫の死滅を図り、拡散防止を徹底する。具体的には、栽培終了後、植物及び雑草は株ごと抜き取り、すぐに施設を密閉し、内部の植物が枯死してから蒸し込みを行う。蒸し込み期間は蛹が羽化する期間も考慮して必ず10日間を確保する。

③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。（ハウス内の雑草や枯れていない残さは害虫の生き残り場所になるので注意が必要である。）

④ 次期作付に当たっては、育苗期から防除（粒剤施用等含む）を徹底し、本ほハウスには防虫ネットや抑草シート、光反射資材を設置し、害虫の苗からの持ち込みや外からの飛び込みを防止する。

⑤ いちごは、現在親株の育成期に当たっており、親株の生育及び病害虫の発生が次作の作柄を大きく左右するため、本ほで発生している病害虫を親株に持ち込まないようにするとともに定期的に防除を実施する等健全苗の育成に努める。

2) 土壌病害虫

① 土壌病害虫の対策としては、作物残さを施設外に持ち出し、埋却処理等、適切に処分する必要がある。ピーマン立枯病やトマト立枯病などは、病気が感染した葉や果実等でも病原菌が増殖し、土壌中で生き残るため、葉や果実などの地上部残さも施設外に持ち出し、

適切に処分する。

- ② 近年、トマトの線虫抵抗性台木を使用したほ場でも、ネコブセンチュウの被害が確認されていることから、線虫が寄生している根などは、ほ場内に残さないようにする。
- ③ 残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法等によりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順等で、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。次期作付けに当たっては、健全種子及び苗を確保するとともに土作りを十分に行い、適正な栽培管理に努める。また、秋口の高温により発病が助長される土壌病害もあることから、極端な早植えは避ける。
- ④ 施設内で使用した資材・農機具等についても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病害虫の密度を減らすことが重要である。

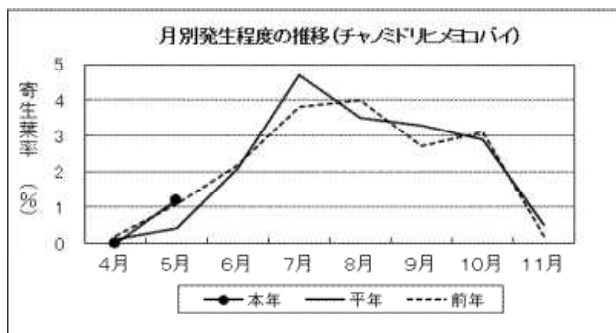
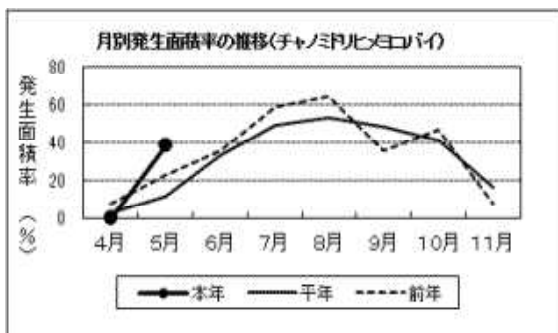
5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日までの3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

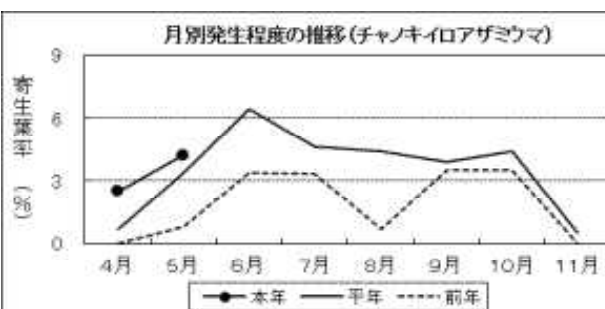
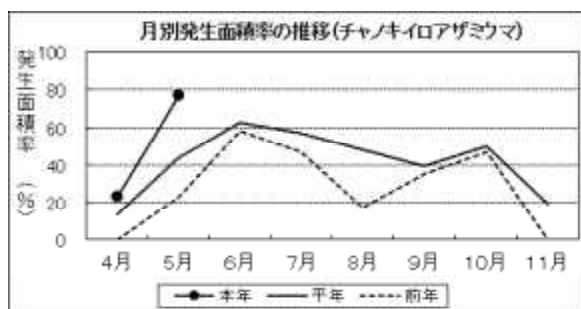
◎ 防除情報第2号（発令月日：平成25年5月27日）

- 1 作物名 茶
- 2 病害虫名 チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

- 1) 5月中旬の巡回調査の結果、チャノミドリヒメヨコバイの発生面積率は38.5%（平年12.0%）、寄生葉率は1.2%（平年0.4%）でいずれも平年に比べて多である。



- 2) 5月中旬の巡回調査の結果、チャノキイロアザミウマの発生面積率は76.9%（平年44.3%）、寄生葉率は4.2%（平年3.4%）でいずれも平年に比べてやや多である。



4 防除上の注意

- 1) チャノミドリヒメヨコバイ

- ・一番茶摘採後から10月中旬頃まで発生がみられるが、特に二、三番茶の開葉期と秋芽に発生が多く、加害されると減収、品質低下が著しいため、萌芽期から開葉初期に薬剤

散布を行う。

- ・同時期にチャノキイロアザミウマが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。

2) チャノキイロアザミウマ

- ・二、三番茶及び秋芽の1～2葉期の被害防止に重点を置き、多発時には5～7日間隔で2回の薬剤散布を行う。
- ・主に葉裏に生息しているため、萌芽期から開葉初期に、若葉の裏によくかかるように薬剤散布を行う。
- ・同時期にチャノミドリヒメヨコバイが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。

3) 幼木園や中切り更新を行った園では常時新芽が存在し、長期にわたり被害を受けやすいので注意する。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第3号（発令月日：平成25年6月10日）

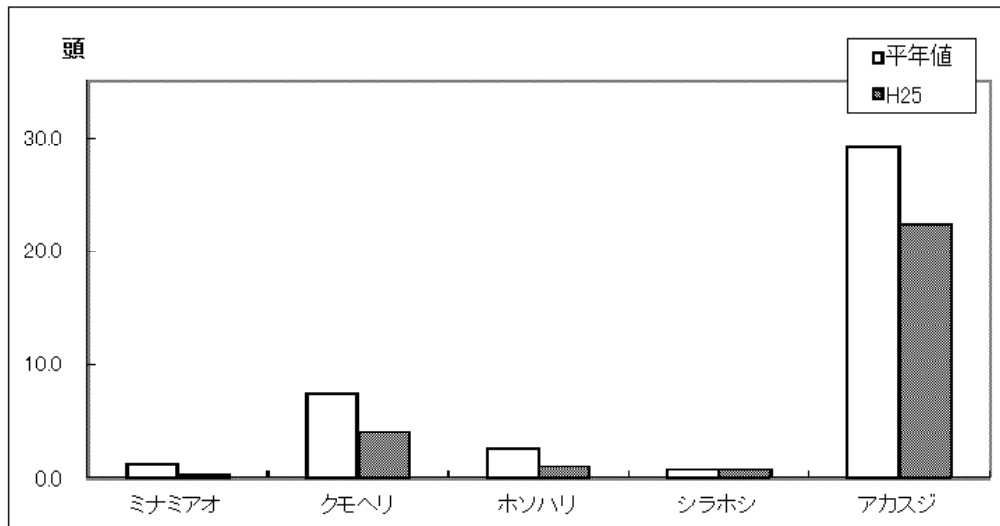
1. 作物名 早期水稻
2. 病虫害名 斑点米カメムシ類
3. 発生状況

(1) 6月上旬の水田周辺におけるイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度（20回振りすくい取り）は、成・幼虫合計で28.5頭（平年41.3頭、前年54.6頭）であり、平年並となっている。（表－1、図－1、2参照）

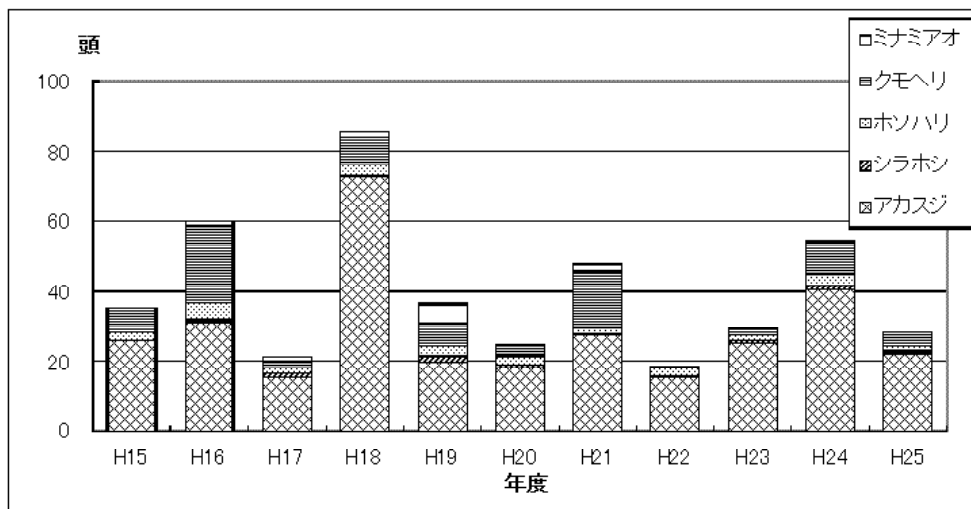
表－1 飼料作物における斑点米カメムシ類の種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

	ミミアカメシ	クモヘリカメシ	ホソハラカメシ	シラホシカメシ類	アカシカメシ	全種合計
H25	0.2	4.1	1.0	0.8	22.4	28.5
平年値	1.3	7.5	2.6	0.7	29.2	41.3

※調査地点数：207地点（中部、南那珂、児湯、東臼杵管内）



図－1 種別平均頭数（6月上旬、20回振り）



図－2 年度別種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

4. 防除上の注意

- (1) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底する。その後も発生が見られる場合には、さらに追加防除が必要である。
- (2) 広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (3) 出穂の早い、または遅い水田には集中的に飛来するおそれがあるほか、ヒエがある場合は先に出穂するヒエにカメムシが集まる傾向があるので早めに処分する。
- (4) 周辺雑草から本田への本虫の侵入を防止するため、周辺雑草の草刈りはイネが出穂する2週間以上前までに数回行う。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第4号（発令月日：平成25年7月5日）

1. 作物名 水稻
2. 病虫害名 いもち病
3. 発生状況

- (1) 平成24年10月、県内各地のいもち病罹病穂（普通期水稻）から採取したいもち病菌143菌株（24ほ場）について、九州沖縄農業研究センターがストロビルリン系殺菌剤（以下、QoI剤）の遺伝子診断（PCR-RFLP）を行った結果、遺伝子の変異株が4菌株（3ほ場）で検出された。
- (2) 平成25年5月、変異株4菌株のうち1菌株を宮崎県総合農業試験場で生物検定した結果、QoI剤耐性菌であることが確認された。

4. QoI剤使用上の注意

- (1) 耐性菌の発生リスクを低減させるため、QoI剤の使用回数は最大で年1回とする（表1）。
- (2) QoI剤の育苗箱処理は、耐性菌の選択圧を高める恐れがあるため、可能な限り1年もしくは2年毎に作用機構の異なる薬剤とのローテーションで使用するか、他系統の薬剤を選択し、耐性菌の発生リスクを減らす（表2）。
- (3) 本田散布のQoI剤は、葉いもちに使用する場合は初発前あるいは発生初期に、穂いもちに使用する場合は穂ばらみ期後期あるいは穂揃期に散布する。ただし、いずれの場合もQoI剤を使用時にいもち病が多発生した場合は、他系統の薬剤を散布する。
- (4) QoI剤散布後は効果を確認し、効果の低下が疑われた場合は、他系統のいもち剤の追加防除を実施する（表2）。
- (5) 塩水選やほ場衛生管理、健全種子の購入、種子消毒の徹底など、いもち病の適切な防除対策を確実に実施する。

5. その他

- (1) 国内では、山口県、島根県、愛媛県、福岡県、大分県からQoI剤耐性イネいもち病菌の発生が確認されています。
- (2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (3) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

表1. 宮崎県「平成25年版病虫害・雑草防除等指導指針」に掲載しているQoI剤一覧

有効成分名	商品名
メトミノストロビン	オリブライト1キロ粒剤、オリブライト250G
	イモチエース粒剤、イモチミン粒剤
オリサストロビン	嵐ダントツ箱粒剤、嵐プリンス箱粒剤10、嵐プリンスアドマイヤー箱粒剤、嵐プリンスチェス箱粒剤、嵐キラップ粒剤、嵐スタークル粒剤、イモチエースキラップ粒剤、イモチエーススタークル粒剤

アゾキシストロビン	アミスタートレボン SE、アミスターエイト、 アミスターアクタラ SC 液剤
-----------	---

表 2. 宮崎県「平成 25 年版病害虫・雑草防除等指導指針」に掲載している QoI 剤とは作用機構の異なる薬剤一覧

系統名	有効成分名	商品名 (例)
抵抗性誘導剤 (耐性菌発生リスク：低い)	プロベナゾール	オリゼメート粒剤 スタウトダントツ箱粒剤 Dr.オリゼスタークル箱粒剤
	チアジニル	ブイゲット箱粒剤
	イソチアニル	ルーチンアドスピノ箱粒剤
メラニン生合成阻害剤 MBI-R (耐性菌発生リスク：低い)	フサライド	カスラブサイド粉剤 DL
	ピロキロン	コラトップ粒剤
	トリシクラゾール	ビームアドマイヤー粒剤
酸化的リン酸化阻害物質 (耐性菌発生リスク：低い)	フェリムゾン	ブラシンフロアブル ブラシン粉剤 DL
ステロール生合成阻害剤 (耐性菌発生リスク：中)	ペフラゾエート	ヘルシード T フロアブル ヘルシード乳剤
その他 (耐性菌発生リスク：中)	イソプロチオラン	フジワン粒剤
	I B P	キタジン P 粒剤
抗生物質 (耐性菌発生リスク：中～高い)	カスガマイシン	カスミン液剤 カスミン粉剤 DL
メラニン生合成阻害剤 MBI-D (耐性菌発生リスク：高い)	フェノキサニル	アチーブ MC
		アチーブモンカットトレボン F 粉剤 DL
ベンゾイミダゾール系 (耐性菌発生リスク：高い)	ベノミル	ベンレート T 水和剤 20 ベンレート水和剤

参考：系統別耐性菌発生リスク（2012 年 8 月 22 日現在）日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会

◎ 防除情報第 5 号（発令月日：平成 25 年 7 月 5 日）

- 1 作物名 冬春いちご（親株床）
- 2 病害虫名 炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類
- 3 発生状況（経過）

- 1) 5 月中旬から 6 月上旬にかけて巡回調査ほ場 11 か所の親株から小葉を採取し、簡易検定による炭疽病の潜在感染状況調査を実施した結果、感染ほ場率 63.7 %（前年 58.3 % 前々年 63.7 %）と過去 8 年間で 1 番目に高く、潜在感染株率 11.8 %（前年 17.5 %、前々年 28.2 %）と過去 8 年間で 3 番目に高くなっている。
- 2) ハダニ類の発生は、発生面積率 81.8 %（前年 54.5 %、前々年 80.0 %）と過去 8 年間で 2 番目に高く、寄生株率 14.0 %（前年 2.7 %、前々年 24.0 %）で 8 年間で 4 番目に高くなっている。
- 3) アブラムシ類の発生は、発生面積率 72.8 %（前年 45.5 %、前々年 70.0 %）で 8 年間で 1 番高く、寄生株率 19.6 %（前年 5.3 %、前々年 22.2 %）で 8 年間で 3 番目に

高くなっている。

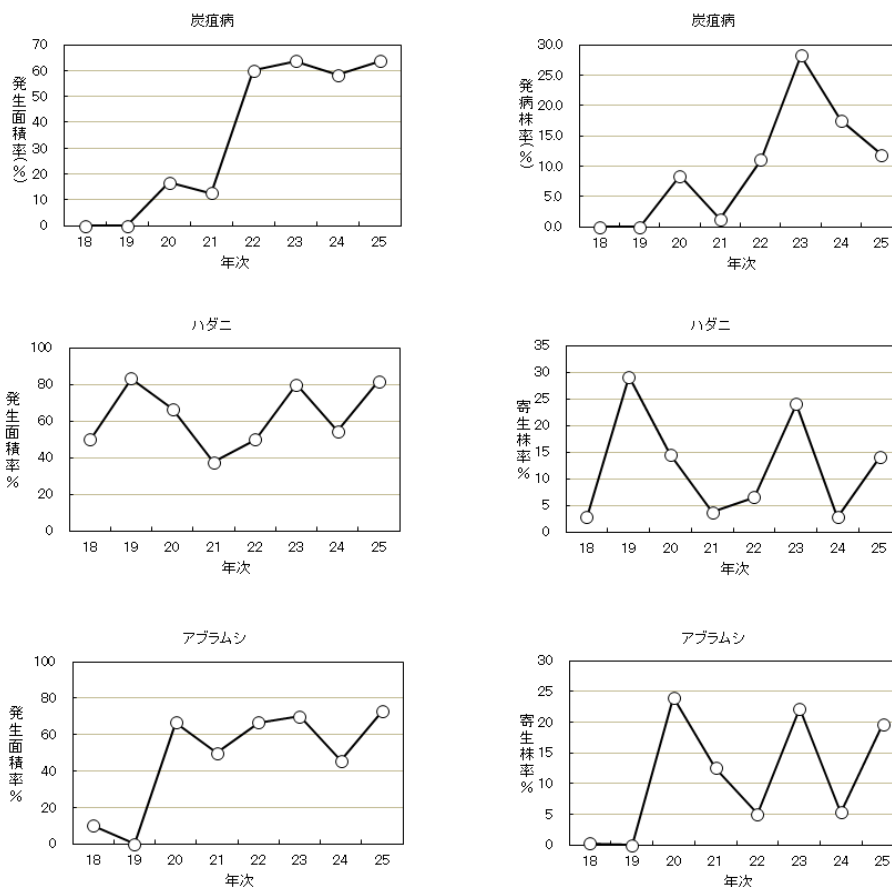


図1 親株床での病害虫の年次的発生状況

4 防除上の注意

1) 炭疽病

- (1) 親株における本病の検定に努め、感染株が確認されれば、感染株に隣接した株も感染の恐れが高いため、あわせて廃棄処分する。簡易検定方法については、宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ (<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/nouyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>) を参照。
- (2) 検定結果が陰性であった株でも、その後に感染することが十分に考えられるため、育苗ほ場をこまめに見回り、早期発見に努める。
- (3) 感染した株をほ場近くに放置すると、病原菌が拡散する恐れがあるため、速やかに苗床や栽培ほ場からできるだけ離れた場所に埋却する等適切に処分する。
- (4) 降雨、台風の前や摘葉後には薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (5) 窒素過多などで軟弱な株は発病しやすくなるため適正な施肥に努める。
- (6) 感染株の発生に備え、予備苗を十分に確保するよう努める。
- (7) 健全な親株の定期的な更新に努める。

2) アブラムシ類、ハダニ類

- (1) ハダニ類は発生初期はスポット的に寄生しているため、葉裏を中心にほ場全体を注意深く観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。
- (2) アブラムシ類、ハダニ類は、いずれも急激に個体数を増加させる害虫であるため、発生初期の内に、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。
- (3) アブラムシ類は若い葉やランナーの先端部、ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているの

- で、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- (4) アブラムシ類、ハダニ類が寄生し劣化した葉は適宜摘除し、育苗ほ周辺に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。
- (5) アブラムシ類、ハダニ類はいちご以外の植物にも寄生するので、育苗ほ周辺の除草を行う。
- (6) 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。また、アブラムシ類では微生物農薬や気門封鎖型薬剤等を、ハダニ類では気門封鎖型薬剤を使用するなど、効果の高い薬剤の温存に努める。

いずれの病害虫も本ほに持ち込むと根絶が困難であるため、育苗期間中に十分観察し、罹病・寄生株の早期防除・除去を行うとともに定植時の選別を徹底する。

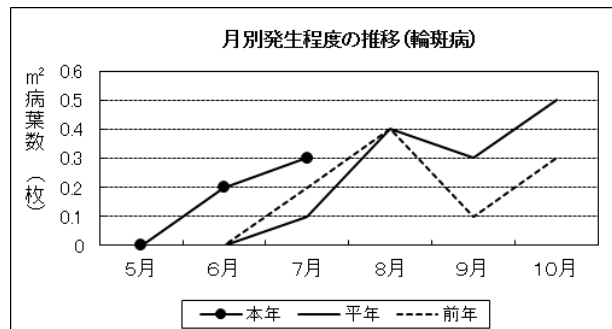
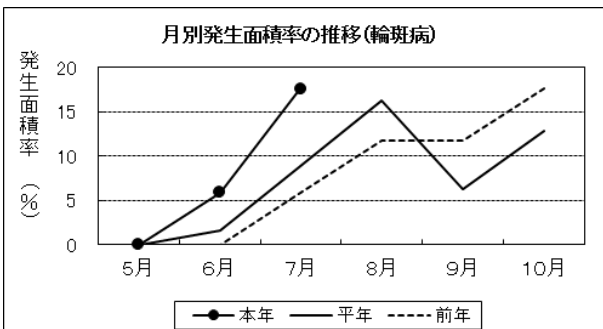
5 その他

- 1) 炭疽病の簡易検定方法については、最寄りの西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）にお問い合わせください。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 3) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第6号（発令月日：平成25年7月25日）

- 1 作物名 茶
- 2 病害虫名 輪斑病
- 3 発生状況（経過）

- 1) 7月中旬の巡回調査の結果、輪斑病の発生面積率は17.6%（平年8.9%）、1㎡あたりの病葉数は0.3葉（平年0.1葉）でいずれも平年に比べてやや多である。



4 防除上の注意

- 1) 発生は気温の高い二～三番茶の摘採後に多く、発生後に新梢が枯死することがあり、被害が甚大になる場合もある。
- 2) 二番茶摘採後に発病葉がみられたら、三番茶残葉で多発する可能性が高いので、必ず防除を行う。
- 3) 摘採や整枝のときに出来た傷口から感染するので、薬剤散布は、摘採や整枝直後に行う。
- 4) 薬剤の選定にあたっては、同じ系統の薬剤連用を避ける。

- 5) 輪斑病の多発園で使用した摘採機は、十分に洗浄してから他の茶園で使用する。
- 6) 茶の葉に水分が付着していると発生が助長されるので、降雨時の作業は極力避ける。

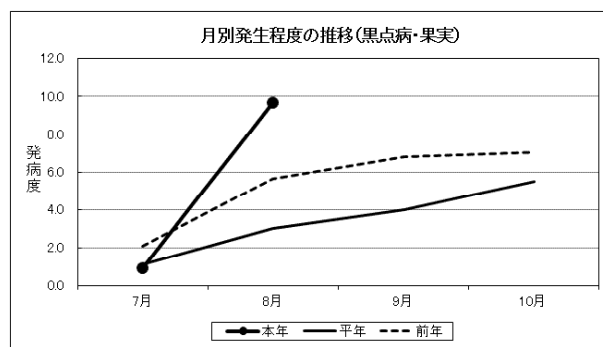
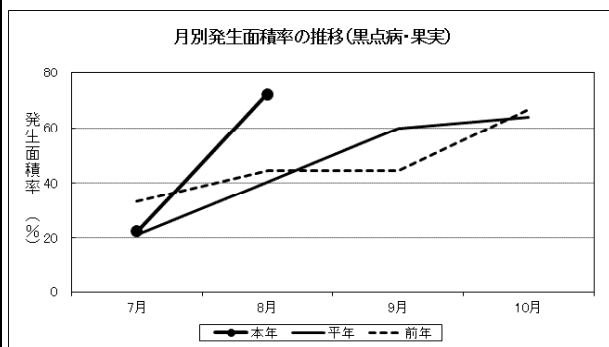
5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第7号（発令月日：平成25年8月22日）

- 1 作物名 かんきつ
- 2 病害虫名 黒点病
- 3 発生状況（経過）

- 1) 8月中旬の巡回調査の結果、黒点病の発生面積率 72.2 %（平年 40.6 %）は平年に比べてやや多、発病度 9.7（平年 3.0）は平年に比べて多である。



4 防除上の注意

- 1) 被害拡大を防止するため、防除の目安は薬剤散布後の積算降水量が 250mm を超えた時点であるが、降水量が少ない場合でも、薬剤散布の 30 日後には次の防除が必要である。
- 2) 本病は降雨によって発生が助長される。よって、降雨前の薬剤散布を徹底する。
- 3) 伝染源は枯れ枝であるので、枯れ枝の剪定・除去（園外へ持ち出し）を行うとともに、肥培管理に注意し、樹勢の強化、枯れ枝の発生抑制に努める。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

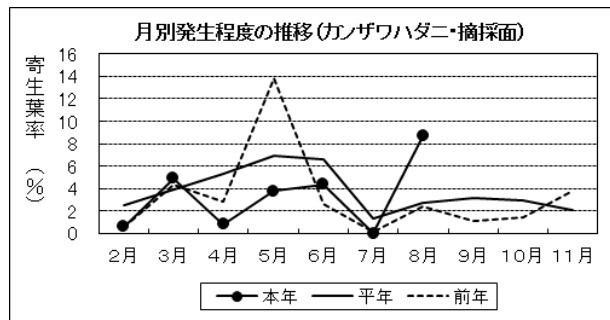
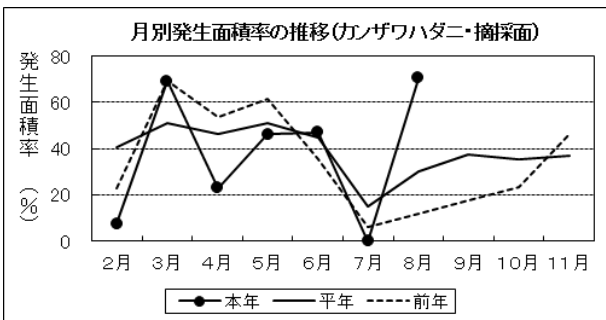
◎ 防除情報第8号（発令月日：平成25年9月4日）

- 1 作物名 茶

2 病害虫名 カンザワハダニ

3 発生状況 (経過)

1) 8月中旬の巡回調査の結果、カンザワハダニの発生面積率 70.6 % (平年 30.1 %)、寄生葉率 8.7 % (平年 2.7 %) でいずれも平年に比べて多である。



防除上の注意

- 1) 秋期の発生が多いと、落葉して樹勢が弱ったり、翌年の発生量が増加して春期防除の効果が低下するため、秋芽の萌芽期から生育期と秋整枝後の2回防除を徹底する。
- 2) 薬剤の選定にあたっては、抵抗性対策として同じ系統の薬剤連用を避ける。
- 3) 主に葉裏に生息しているのので、葉裏や裾部など薬剤がかかりにくい箇所も丁寧に薬剤散布を行う。

5 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局 (農業改良普及センター)、総合農業試験場茶業支場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第9号 (発令月日 : 平成25年9月4日)

1. 作物名 普通期水稻
2. 病害虫名 トビイロウンカ
3. 発生状況

(1) 県では警報第1号 (平成25年8月16日付け) を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。

しかし、8月下旬に実施した巡回調査の結果、8月中旬調査時より発生地域は拡大し、生息密度も急速に高まっている (図1、図2)。

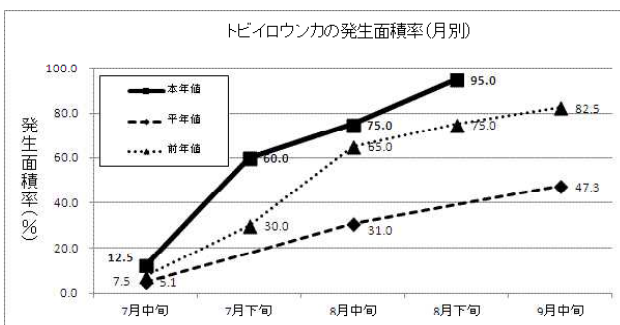


図1. 発生面積率の月別推移

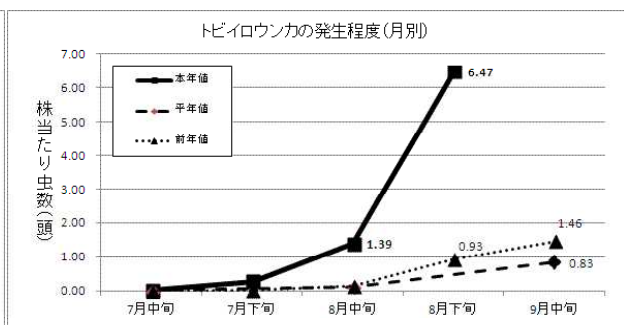


図2. 株当たり虫数の月別推移

(2) 巡回調査における発生面積率 95.0 % と株当たり虫数 6.47 頭は、8月下旬調査を開始した平成21年以降で最も多い (図3、図4)。特に西諸県地域では、株当たり虫

数が 12.7 頭と非常に多くなっており、8 月下旬から坪枯れが確認されている（表 1）。

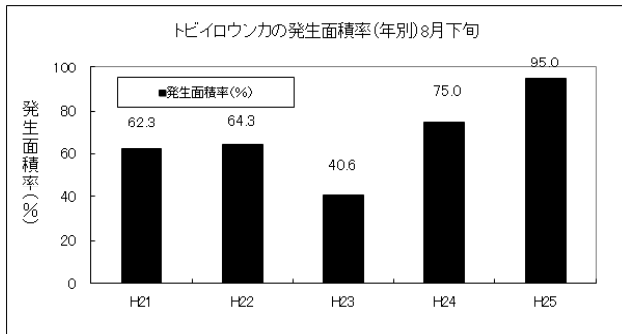


図 3. 発生面積率の年別推移

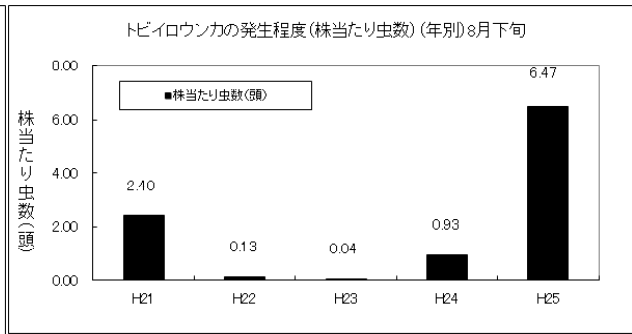


図 4. 株当たり虫数の年別推移

表 1. 地域別のトビイロウンカ発生状況

	調査地点数	発生面積率(%)	株当虫数(頭)	株当虫数(短翅雌)
県北	18	88.9	2.30	0.28
東諸	4	100.0	9.95	0.96
北諸	10	100.0	7.60	2.15
西諸	8	100.0	12.72	0.95
県全体	40	95.0	6.47	1.09

- (3) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数 1.09 頭は平成 21 年以降で最も多く、県内全域が要防除水準に達している（図 5、表 1）。
 （要防除水準：8 月上旬～9 月中旬の短翅型雌成虫株当たり 0.2 頭）。

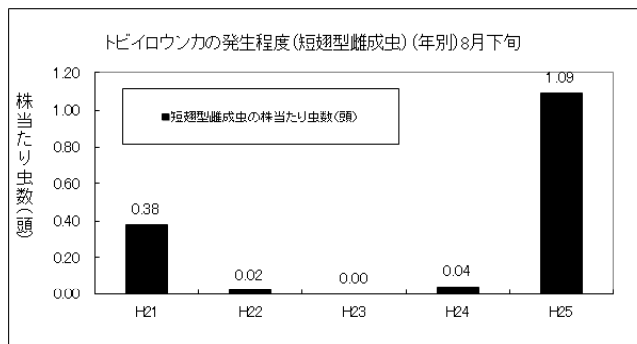


図 5. 短翅型雌成虫の株当たり虫数の推移

- (4) 鹿児島地方气象台が 8 月 30 日に発表した向こう 1 か月の気温（8 月 31 日～9 月 30 日）は、平年並または高い確率ともに 40 %と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況がしばらく続くと考えられる。

4. 防除上の注意

- (1) トビイロウンカは水田に侵入後 2～3 世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。第 3 世代の防除適期（幼虫期前半）は 9 月中旬以降になると予想されるが、これまで世代交代が繰り返されたことにより、ほ場内に全ての世代（卵～成虫）が確認されていることから、警報第 1 号の発表以降に本田防除を行っていないほ場については、防除適期にかかわらず直ちに防除を行う（別紙：県内トビイロウンカの発生世代予測を参照）。
- (2) 警報第 1 号の発表以降に本田防除を行ったほ場においても、ほ場内に入って水稻の株元を確認し、トビイロウンカの密度が高ければ防除適期にかかわらず直ちに追加防除を行う。
- (3) トビイロウンカは株元付近に生息しているが、薬剤の種類や散布方法によっては薬剤が株元まで到達せずに十分な防除効果が得られない恐れがある。防除を行う際

はほ場内に水をためてトビイロウンカを上を押し上げ、薬剤が本虫にかかるように丁寧な散布を行う。また、薬剤を選定する際は、薬剤が株元に到達しやすい粒剤を優先的に選定する（ただし、薬剤ごとの総使用回数や使用時期（収穫前日数）に注意すること）。

5. その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第10号（発令月日：平成25年9月4日）

1 作物名 大豆、野菜・花き類全般

2 病害虫名 チョウ目（鱗翅目）害虫

3 発生状況（経過）

- 1) 県内4か所(国富、西都、都城、佐土原)に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺が7月下旬以降急増している（図1）。8月第1半旬から第6半旬までの1ヶ月間の合計誘殺数は、国富で1,747頭（平成24年712頭）、西都で1,738頭（平成24年878頭）、都城で875頭（平成24年708頭）、佐土原で1,402頭（平成24年1,070頭）であり、いずれも平成24年を上回っている。
- 2) 西都に設置しているタバコガ類のフェロモントラップでは、タバコガ、オオタバコガともに8月中旬から誘殺数が増加している（図2）。8月第6半旬の誘殺数は、タバコガが63頭（平成24年41頭）オオタバコガが60頭（平成24年9頭）でいずれも平成24年を上回っている。
- 3) 8月中旬の巡回調査における大豆でのハスモンヨトウの被害状況は、発生面積率が87.5%（平成24年75.3%）で平成24年並、食害度が12.9（平成24年6.0）で平成24年よりやや多である。
- 4) 8月中旬の巡回調査におけるカンショでのチョウ目害虫の被害状況は、発生面積率58.3%（平成24年83.8%）で平成24年に比べてやや少、被害葉率は9.1%（平成24年37.6%）で平成24年に比べて少であるが、ほ場内でナカジロシタバ、スズメガ類、イモキバガ等のチョウ目幼虫が確認されている。
- 5) 県内のいちご苗、サトイモほ場において、チョウ目害虫による食害が多く確認されている（写真1～2）。

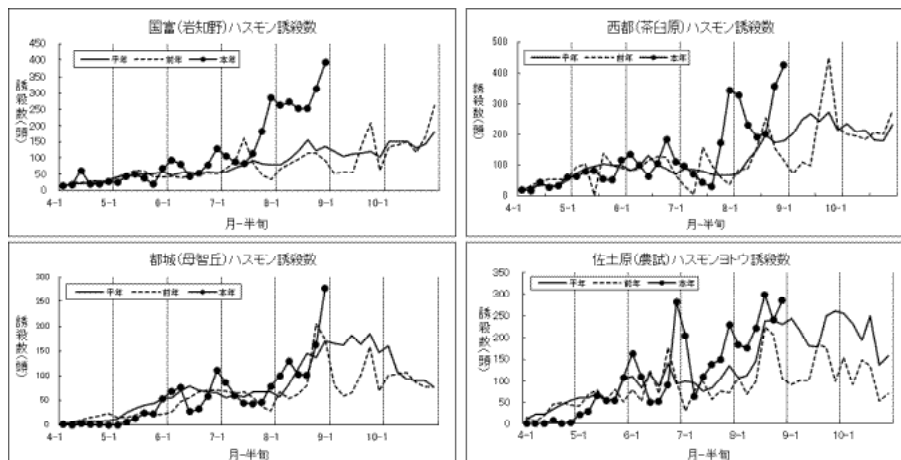


図1 ハスモンヨトウの誘殺状況

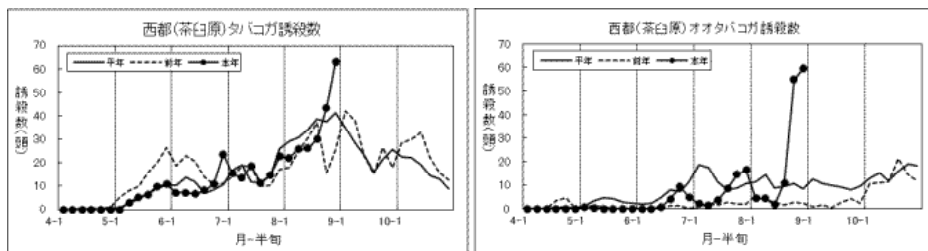


図2 タバコガ類の誘殺状況



写真1 いちご苗の被害状況



写真2 サトイモほ場の被害状況

4 防除上の注意

- 1) ほ場ごとに発生が異なるため、定期的にはほ場を見回り、早期発見に努める。一度防除したほ場でも、成虫が飛来して産卵するので、引き続き発生に注意する。
- 2) 防除適期は、卵塊が葉裏に産卵され、孵化した若齢幼虫が集団となって食害する時期（白変葉期）である。周囲に分散した中・老齢幼虫は、薬剤の効果が低下するため、防除適期を失しないよう注意する。
- 3) 虫種や作物により登録及び効果のある薬剤が異なるため、ほ場内で発生する虫種を十分に確認の上薬剤を選定する。
- 4) 雨除け栽培等の施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などにも産卵し、編み目から孵化幼虫が施設内に侵入するので注意する。
- 5) 次期作付に当たっては、育苗期から防除を徹底し、本ほ施設には防虫ネットを必ず設置し、害虫の侵入を防止する。
- 6) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる系統薬剤とのローテーション散布に努める。

5 その他

- 1) その他詳細については、西白杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第11号（発令月日：平成25年10月24日）

- 1 作物名 きゅうり、メロン
- 2 病害虫名 ミナミキイロアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

- 1) 10月の巡回調査におけるきゅうりのミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が30.8%（平年15.4%）で平年に比べてやや多、100葉当たり虫数が5.6頭（平年0.9頭）で平年に比べて多となっている（図1，2）。
- 2) 10月のきゅうりの巡回調査地点では黄化えそ病の発生は確認されていないが、県内各

地の露地栽培や雨除け栽培のきゅうりで黄化えそ病が発生している。また、定植時期の早い抑制栽培きゅうりでも散発的に発生が確認されている。

- 3) 向こう1ヶ月の気温は、高い確率が50%であり、野外での増殖に好適な条件が続くことや、換気等で施設サイドや谷部が開放される時期が今後も継続することにより、施設外からミナミキイロアザミウマが施設内に侵入してくることが予想される。

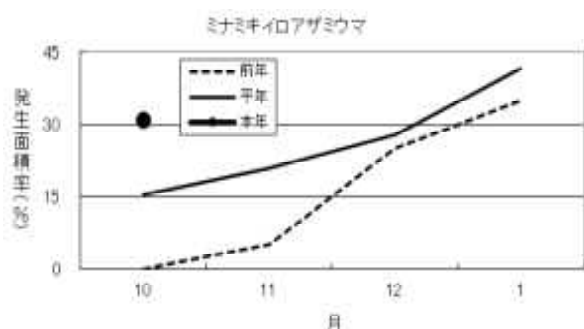


図1 発生面積率の推移

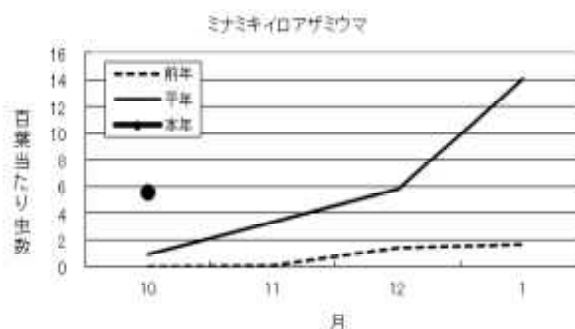


図2 100葉当たり虫数の推移

4 防除上の注意

- 1) ミナミキイロアザミウマ成虫は、黄化えそ病 (MYSV) の媒介虫であり、発生量が少なくてもウイルスを保有していればきゅうりへの感染を引き起こす。このため、発生初期の対応が重要であり、こまめに状況を確認し早期防除を実施する。
- 2) 定植時に粒剤を施用していても、発生時期によっては薬剤の効果が切れていることが考えられるため、発生を確認したら速やかに防除を行う。
- 3) 施設内への有色粘着板の設置、施設サイドや谷部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットの設置や施設周囲への光反射資材の設置による侵入防止対策を実施する。
- 4) ミナミキイロアザミウマに効果のある薬剤が少なくなっているため、微生物農薬や天敵等を活用し、ミナミキイロアザミウマの生息数抑制に努める。
- 5) 施設内のミナミキイロアザミウマが多く、発育ステージが混在している場合は、1回の防除での根絶は困難であるため、農薬を7日間隔で3回散布し、ミナミキイロアザミウマの生息数低減を図る。
- 6) 農薬の散布にあたっては、感受性の低下を避けるために同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 7) 施設内外の雑草は、ミナミキイロアザミウマの生息場所となるため、施設内及び施設周囲 (できるだけ広い範囲で) の除草を行う。
- 8) ウイルス感染株を確認した場合は、速やかに罹病株を根から抜き取り、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。

5 その他

- 1) 防除を実施する際には「施設栽培におけるキュウリ黄化えそ病 (MYSV) 対策」(社団法人宮崎県植物防疫協会平成23年9月作成)を参考にし、適切に対処しましょう。なお、この資料は宮崎県病害虫防除・肥料検査センターホームページにPDFデータを公開しています。(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 3) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第12号（発令月日：平成25年10月24日）

- 1 作物名 冬春トマト、冬春ミニトマト
- 2 病害虫名 タバココナジラミ類
{バイオタイプQ及びバイオタイプB（シルバーリーフコナジラミ）}
- 3 発生状況（経過）

- 1) 10月中旬の巡回調査における、冬春トマトの発生面積率は87.5%（平年47.2%）、100葉あたり虫数は5.0頭（平年2.3頭）といずれも平年より多である（図1）。
- 2) 巡回調査において、タバココナジラミ類が媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）は確認されなかったものの、現地聞き取りでは、県内全域で発生が確認されている。

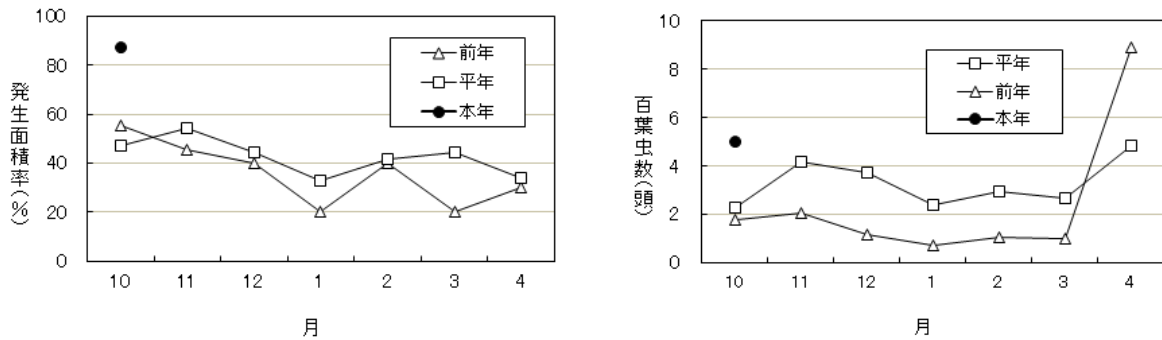


図1 タバココナジラミ類の発生状況（冬春トマト）

4 防除上の注意

- 1) 黄色粘着トラップを設置し、タバココナジラミ類の早期発見に努めるとともに、栽培期間を通して防除を徹底し、本虫の密度を抑制する。
- 2) 効果のある殺虫剤が少ないことから発見したら早めに防除し、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行う。
- 3) 施設内外の雑草はタバココナジラミ類の寄主となるので除草を徹底する。また、施設内では栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等は栽培しない。
- 4) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から、同一系統薬剤の連用は極力避け、ローテーション散布を心がける。また、抵抗性発現の可能性が低い微生物農薬やコナジラミ類を物理的に窒息死させる気門封鎖剤を防除体系に組み込む。

5 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第13号（発令月日：平成25年11月28日）

- 1 作物名 冬春いちご
- 2 病害虫名 ハダニ類
- 3 発生状況（経過）

- 1) 10月中旬の巡回調査におけるハダニ類の発生面積率は25.0%（平年31.3%）、寄生株率は0.8%（平年6.2%）といずれも平年並の発生であったが、11月中旬の巡回調査では、急激な発生の拡大が見られ、ハダニ類の発生面積率は66.6%（平年38.8%）、寄

生株率は 19.3 % (平年 9.9 %) といずれも平年よりやや多となった (図 1)。

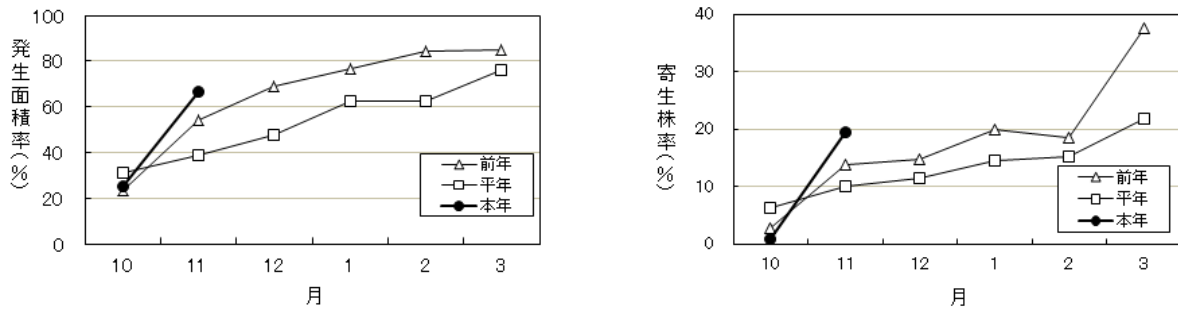


図 1 ハダニ類の発生状況 (いちご)

4 防除上の注意

- 1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、葉裏を中心にほ場全体を注意深く観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。
- 2) 急激に個体数が増加するため、発生初期のうちに、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。
- 3) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- 4) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 5) また、主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の導入など、効果の高い薬剤の温存に努める。

◎ 防除情報第 14 号 (発令月日: 平成 25 年 12 月 25 日)

1. 作物名 ピーマン
2. 病害虫名 アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)
3. 発生状況

1) ミナミキイロアザミウマ

- (1) 12 月中旬の巡回調査における発生状況は、発生面積率が 92.3 % (平年 53.8 %) で平年に比べ多、10 花当たり寄生虫数が 3.6 頭 (平年 2.4 頭) で平年に比べやや多、50 心当たり寄生虫数が 11.6 頭 (平年 3.9 頭) で平年に比べ多となっている。
- (2) 発生量の推移としては、発生面積率、10 花当たり寄生虫数ともに 10 月から 12 月にかけて急激に拡大・増加している (図 1、2)。

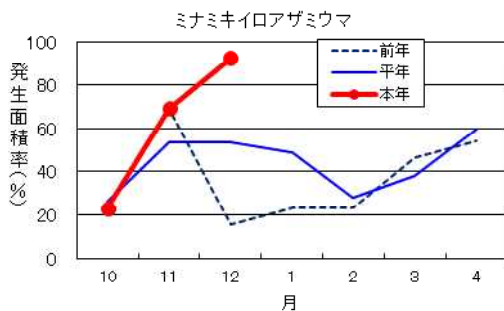


図 1 ミナミキイロアザミウマの発生面積率の推移

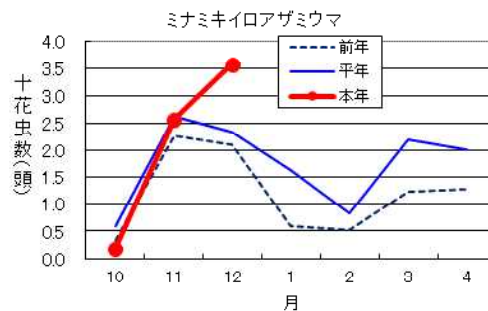


図 2 ミナミキイロアザミウマの寄生状況の推移

2) ヒラズハナアザミウマ

- (1) 12 月中旬の巡回調査における発生状況は、発生面積率が 61.6 % (平年 30.5 %) で平年に

比べ多、10花当たり寄生虫数が5.4頭(平年3.6頭)で平年に比べやや多となっている。
 (2)発生面積率は、ミナミキイロアザミウマと同様に10月から12月にかけて急激に拡大している(図3)。10花当たり寄生虫数は、11月から12月にかけて平年より高くなっている(図4)。

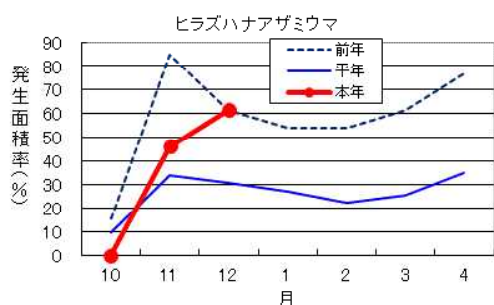


図3 ヒラズハナアザミウマの発生面積率の推移

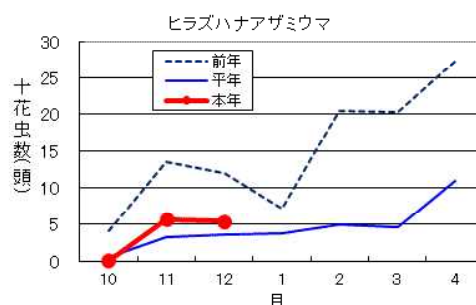


図4 ヒラズハナアザミウマの寄生状況の推移

4. 防除上の注意

1) 多発生後の防除は困難となるので、下記のポイントに留意し、総合的な防除を行う。

- ① ヒラズハナアザミウマは花に、ミナミキイロアザミウマは花や生長点付近に生息し、いずれも青色粘着板等に誘引されるので、粘着板等を設置し密度低下に活用するとともに早期発見に努める。
- ② いずれのアザミウマも繁殖力がきわめて旺盛で、多発生時には卵～成虫まで各ステージが混在し、防除が著しく困難となるので、発見次第早期防除を徹底する。密度増加時には、薬剤散布後に発生(孵化、羽化)する幼虫・成虫に対しての追い打ち防除のため、最少でも7日間隔で3回の連続防除を実施する。
- ③ アザミウマの種類により効果のある薬剤が異なるため、ほ場内に発生するアザミウマの種類を確認し、効果のある薬剤を選定する。
- ④ ヒラズハナアザミウマは花を中心に生息するので、花の少ない時期に薬剤を散布すると防除効果が高い。
- ⑤ 抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努めるとともに、天敵等による生物的防除を組み入れるなど総合的な対策をとることが必要である。
- ⑥ 捕食性天敵は主にアザミウマ類幼虫を捕食するため、ほ場内の成虫数が多いと天敵の効果が十分に発揮されないことが考えられる。そのようなほ場では、アザミウマ類成虫に効果のある微生物殺虫剤等を併用するなど、成虫を含めたアザミウマ類の減少に努める。
- ⑦ 天敵等を利用しているほ場で化学農薬を使用する場合は、天敵に影響の少ない薬剤を選定することが望ましい。発生が少ない時期にはIGR剤などが天敵に影響が少なく効果的であるが、他の薬剤に比べ効果発現に時間を要するため、防除後一定期間は経過観察をし、効果を確認する。
- ⑧ アザミウマ類に効果の高い薬剤(ヒラズハナアザミウマではスピノサドなど)は天敵に対して影響が大きいのが、多発生しているほ場では天敵による防除効果には限界があるので、必要に応じて防除効果の高い薬剤を散布する。
- ⑨ 被害の激しい茎葉・果実のハウス外への持ち出し、マルチの導入(本虫の土中や地表面での蛹化を防止)により密度低下をはかる。

5. その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第15号（発令月日：平成26年2月3日）

1 病害虫名 灰色かび病

2 作物名 トマト

3 発生状況

1月中旬の巡回調査では、茎葉での発生は発生面積率 30.0 %（平年 19.6 %）と平年に比べやや多、発病株率 12.1 %（平年 0.9 %）と平年に比べ多であった。（図1、図2）また、果実での発生は発生面積率 20.0 %（平年 5.8 %）、発病果率 0.7 %（平年 0.1 %）といずれも平年に比べ多であった。（図3、図4）

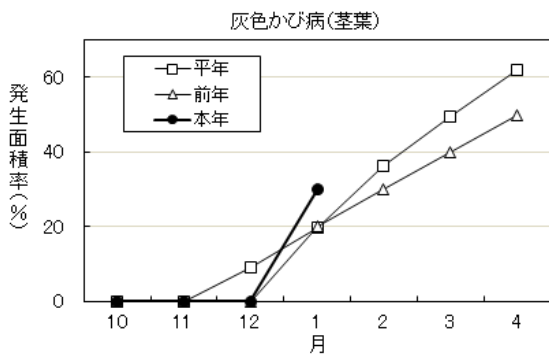


図1 茎葉での発生面積の推移

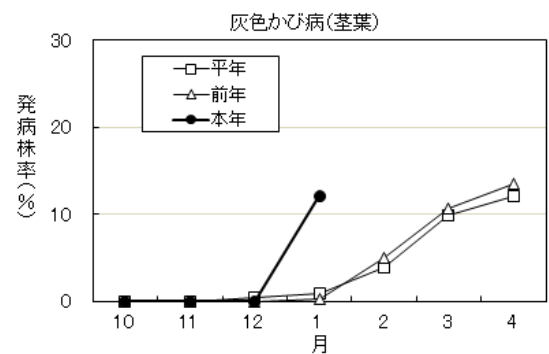


図2 発病下部率の推移

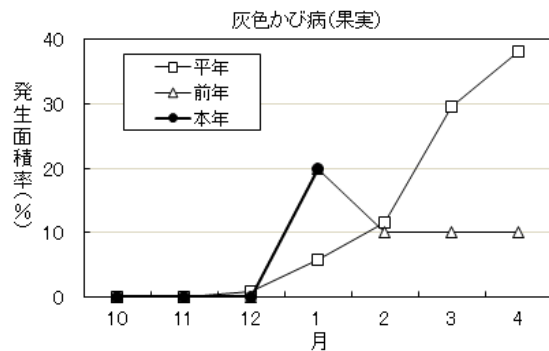


図3 果実での発生面積率の推移

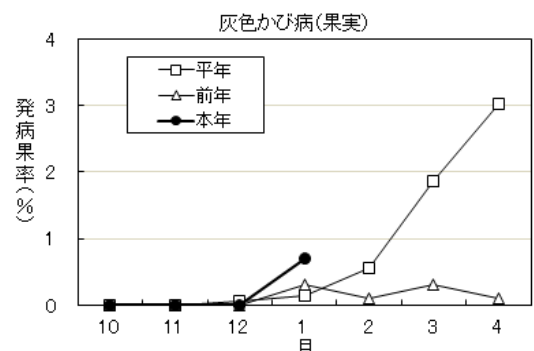


図4 発病果率の推移

4 防除上の注意

- 1) 灰色かび病菌の侵入及び発病は、最適温度が 15 ~ 23℃と比較的低温・多湿条件で多くなることから、ハウス内の温度および湿度管理に注意する。
- 2) 雨の日など最低夜温が高く、暖房機の稼働時間が短い日などは、果実等が結露しやすくなるので、送風機を作動させるなどの管理を行う。
- 3) カリウム欠乏による葉先枯れは、本病の発生源となりやすい。また、窒素過多等で軟弱徒長気味になると本病の発生が助長されることから、適切な肥培管理に努める。
- 4) 発病した果実や花卉、茎葉等は本病の発生源となり、以後の発生が助長されるため、こまめに取り除いては場外に持ち出し、適切に処分する。
- 5) 果実では、かびが発生しなくても、果実表面に黄白色の小斑点（ゴーストスポット）が生じることがあり、商品価値を著しく落とすので注意が必要である。
- 6) 病勢が進行すると防除が困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

- 7) 微生物農薬の効果は保護的な予防効果が主体であるので、発生後は速やかに化学農薬等による防除を行う。
- 8) 薬剤耐性菌を生じる恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第16号（発令月日：平成26年2月3日）

1 作物名 施設きゅうり

2 病害虫名 アザミウマ類、コナジラミ類

3 発生状況（経過）

- 1) 平成26年1月の巡回調査におけるミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が61.1%（平成25年41.5%）で平成25年よりやや多、100葉当たり虫数が5.0頭（平成25年14.0頭）で平成25年並となっている。
- 2) ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病の原因ウイルス（MYSV）の媒介虫であり、巡回調査における黄化えそ病の発生状況は、発生面積率が44.4%（平成25年10.0%、平成24年15.0%）、発病株率が0.2%（平成25年0.0%、平成24年0.1%）で、平成25年を含む過去4年間で最も多くなっている。
- 3) コナジラミ類の発生状況は、発生面積率が22.2%（平成25年37.1%）、100葉当たり虫数が0.3頭（平成25年3.8頭）で、いずれも平成25年より少である。
- 4) タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病の原因ウイルス（CCYV）の媒介虫であり、巡回調査における退緑黄化病の発生状況は、発生面積率が22.2%（平成25年10.0%、平成24年30.0%）で、平成25年より多く平成24年より少なくなっており、発病株数が0.6%（平成25年0.1%、平成24年0.8%）で、平成25年より多く平成24年と同程度となっている。
- 5) ウイルスの保毒虫が少しでも施設内に残っていると、次期作付のきゅうりでウイルス病が発生することが懸念される。

4 防除上の注意

1) 栽培終了時の注意点

- ① ウイルス保毒虫が拡散しないように栽培終了時には防除と蒸し込みを必ず行う。
- ② 防除にあたっては、アザミウマ類やコナジラミ類の密度が高い場合は卵～成虫までの各ステージが混在し、1回の薬剤散布では防除が困難であるので、7日間隔で3回の連続防除を実施する等、施設内の害虫根絶に努める。
- ③ 防除後に植物及び雑草を株ごと抜き取り、すぐに施設を密閉する。内部の植物が枯死してから20日間以上の蒸し込みを行い、薬剤散布後に生き残っている害虫を完全に死滅させる。特に冬期は施設内の温度が上がりにくいいため、蒸し込み期間は十分にとる必要がある。
- ④ 蒸し込み期間中は施設内に有色粘着板を設置し、成虫を捕殺する。

2) 次作定植時の注意点

- ① 次期作付にあたっては、育苗期から防除（粒剤施用等含む）を徹底し、害虫の苗からの持ち込みを防止する。
- ② 購入苗を使用する場合は、苗の購入時に、病害虫の発生状況を十分確認する。特にミナミキイロアザミウマが寄生していたり被害痕が多い苗は定植を避けるとともに、ウイルス病の発生が疑われるときは直ちに株を廃棄する。また、農薬の散布履歴を確認し、育苗期に粒剤の使用がない場合は直ちに施用する。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

2. 病虫害発生予察情報高度化事業

ニカメイガの発生活長の変化に伴う防除時期の検討

1 背景・ねらい

本県中部におけるニカメイガの発生は、1960年代までは多数確認されていたが、1970年代後半からほとんど見られなくなっていた。しかし近年、早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯でニカメイガが散見されるようになっており、増加傾向にあると推定される。そこで、乾式予察灯とフェロモントラップを用いて発生活長を調査し、防除時期についても検討した。

2 試験方法

(1) 発生活長の調査

1) 調査地点

①乾式予察灯：宮崎市、国富町、都城市、延岡市の4地点

（宮崎市と国富町は早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯、都城市と延岡市は普通期水稲と飼料用稲の混耕地帯）

②フェロモン（SE）トラップ：宮崎市（総合農業試験場内外6地点）、国富町、木城町の8地点

（いずれも早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯）

2) 調査期間

①3月第5半旬（宮崎市は4月第1半旬）～10月第6半旬

②3月第3半旬（総合農業試験場内は3月第4半旬）～10月第6半旬

3 結果の要約

(1) 発生活長の調査

①宮崎市と国富町に設置してある予察灯とフェロモントラップでは、年3回以上の発生が推測された。

②木城町に設置してあるフェロモントラップでは、年2回以上の発生が推測された。

③都城市と延岡市に設置してある予察灯では、年間をとおして発生はほとんど確認されなかった。

④宮崎市、国富町、木城町に設置したフェロモントラップの誘殺頭数では、越冬世代の羽化が3月中からみられ、4月中にはピークに達した。

⑤宮崎市に設置してある予察灯の誘殺頭数は、昨年度同様に40年前よりも1ヶ月程度早く越冬世代が羽化のピークを迎えていた。

4 今後の課題

①ニカメイガの発生活長についてはまだ不明な点が多いことから、来年度以降も引き続き早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯を中心に調査の継続が必要。また、調査地点によっては発生活長がやや異なる傾向にあることから、来年度は調査地点数を増やす。

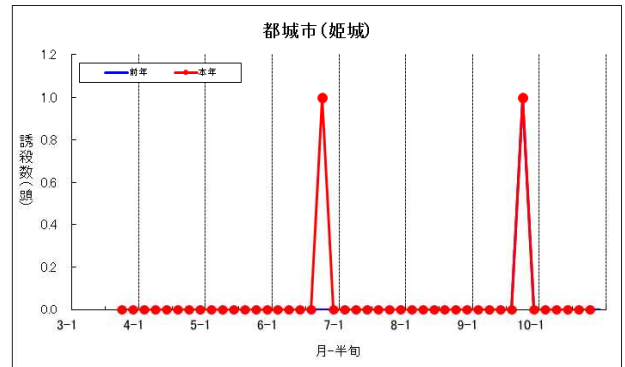
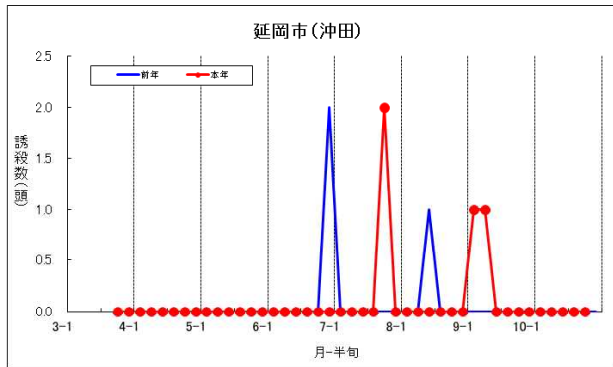
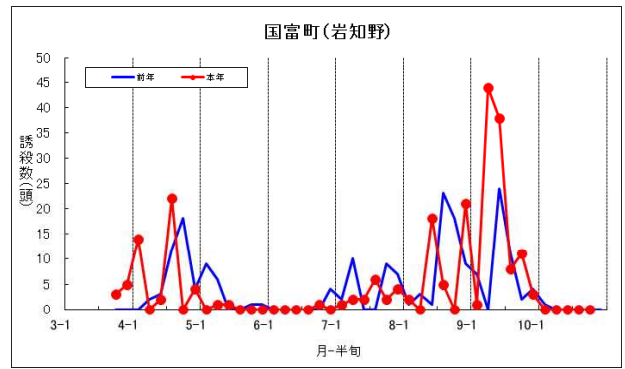
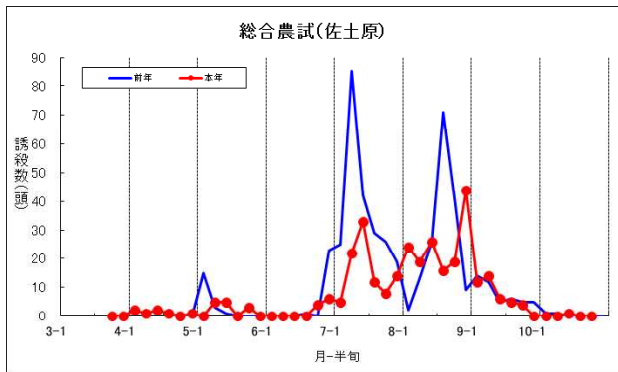


図 1 ~ 4 予察灯によるニカメイガの誘殺状況

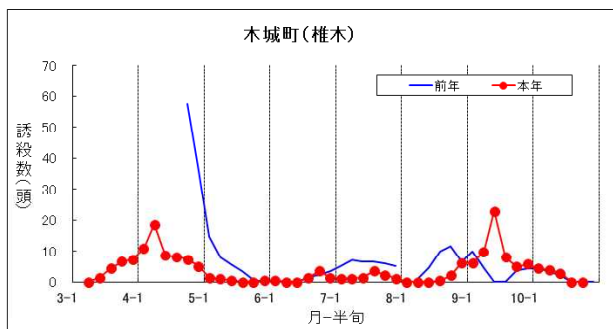
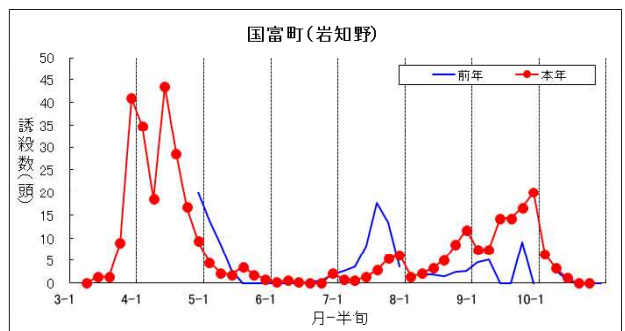
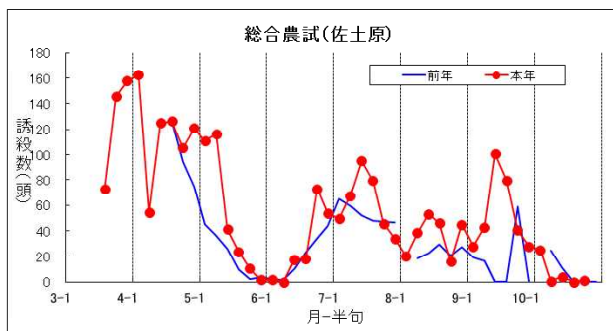


図 2 フェロモントラップによる誘殺状況

3 特殊病虫害侵入警戒調査事業

1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域において、ミバエ類の早期発見体制の整備及び侵入警戒調査を実施した。またミカンコミバエ、ウリミバエについては、関係農林振興局の協力のもとで実施した。

(1) 誘殺状況

ト ラ ッ プ 設 置 場 所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイミバエ	ミカンコミバエ	ウリミバエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	—	—	防除・肥料センター
〃 赤江宮崎空港付近	〃	0	—	—	〃
〃 芳土のミカン園	〃	0	—	—	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	—	—	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	—	—	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	—	—	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	—	—	〃
宮崎市 赤江 宮崎空港付近	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	—	0	0	南那珂農林振興局
〃 大堂津ユースホテル駐車場	〃	—	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	—	0	0	〃
〃 贅波神社境内	〃	—	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	—	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	—	0	0	〃
〃 宮の浦（漁港公園）	〃	—	0	0	〃
〃 都井港	〃	—	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	—	0	0	〃
〃 新福島港	〃	—	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
門川町 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局
〃 曾根 新川橋	〃	—	0	0	〃
〃 庵川西 庵川漁協(唐船バエ)	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 上納屋公民館	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局
〃 浦城町浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃

(2) 調査結果

ミバエ類の本県への侵入は認めなかった。

2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域（30地点）にトラップ（アリモドキコール）を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局においては、気温が高い7～9月に計45地点で警戒調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	阿波岐原森林公園付近	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 上長飯町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 五十町	ローソン五十町店付近	〃	0	〃
〃 山之口町五反田	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山田町菓子野	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
〃 日置五丁野地	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
高鍋町 持田	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市 有田	有田橋東詰付近	7～9月 6回	0	中部農林振興局
〃 新別府町	人工ビーチ入り口付近	〃	0	〃
〃 本郷北方	宮崎空港付近	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 青島	青島港付近	〃	0	中部農林振興局
〃 佐土原町下那珂	市営プール付近潮害林	〃	0	〃
〃 田野町合又	南原霊園前	〃	0	〃
〃 田野町七野	宮崎国際カントリークラブ [®] 付近	〃	0	〃
〃 高岡町花見	花見橋付近	〃	0	〃
綾町 麓	小田常橋付近	〃	0	〃
日南市 大堂津	大堂津港付近	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 油津	油津港付近	〃	0	〃
〃 平山	風田浜付近	〃	0	〃
〃 目井津	目井津港付近公園内	〃	0	〃
串間市 奈留	J A 大束集荷場	〃	0	〃
〃 奈留	大束原忠霊塔内	〃	0	〃
〃 北方	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 東今町	福島港付近雑木林内	〃	0	〃
〃 金谷	福島港付近港公園内	〃	0	〃
〃 西浜	酒造会社付近公園内	〃	0	〃
〃 中千野	雑木林内	〃	0	〃
〃 毛久保	毛久保港付近	〃	0	〃
〃 奈留仲別府	地区公園内	〃	0	〃
〃 西方穂佐ヶ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 西方	JA はまゆう 串間集荷場内	〃	0	〃
都城市 高城町	J A 都城甘藷貯蔵庫入口	7～10月 6回	0	北諸県農林振興局
〃 乙房町	九電変電所付近	〃	0	〃
〃 山田町	J A 都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	J A 都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	かかし館付近	〃	0	〃
〃 横市町	畑作園芸支場ほ場	〃	0	〃
〃 庄内	庄内支所付近	〃	0	〃
〃 高木町	沖水農村広場付近	〃	0	〃
〃 梅北町	甘藷畑	〃	0	〃
三股町	大悟病院付近	〃	0	〃
えびの市杉水流	甘藷畑	7～10月 6回	0	西諸県農林振興局
小林市北西方	甘藷畑	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
小林市堤	甘藷畑	7～9月 6回	0	西諸県農林振興局
〃 野尻町三ヶ野山	甘藷畑	〃	0	〃
高原町広原	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原 緑ヶ丘	緑ヶ丘バス停付近	7～10月 6回	0	児湯農林振興局
〃 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	〃	0	〃
〃 大字上三財	三財中学校付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
〃 大字新田 三財原	葬祭場付近	〃	0	〃
高鍋町 大字上江 境谷	市の山公民館付近	〃	0	〃
木城町 大字椎木 牧ノ内	茶臼原小学校付近	〃	0	〃

(2) 調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月において、アリモドキゾウムシ侵入警戒調査地点付近の甘藷ほ場26ヶ所で、目視により食害痕等を調査した。

9月26日に串間市(19ほ場)、都城市(14ほ場)、三股町(4ほ場)、9月27日に小林市(4ほ場)、えびの市(1ほ場)、高原町(1ほ場)、11月1日に串間市(20ほ場)、都城市(20ほ場)について収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～12月、3月において、県内のかんきつ園地18ほ場及び4か所のゲッキツ植栽地を調査したが、発生は確認されなかった。

5) ウメ輪紋ウイルス発生調査

平成21年4月東京都青梅市において、ウメ輪紋ウイルスが国内で初めて確認された。このため、本県においても平成21年度から実施している。

平成25年度については、門司植物防疫所細島出張所、関係市町村・JA、農林振興局の協力を得て、4月23日～5月2日に現地ほ場調査及びサンプルの採取を行った。

(1) 調査場所、対象作物、ほ場数等

調査市町村	調査ほ場数			サンプル 採取樹数	検定結果
	うめ	もも	すもも		
宮崎市	2			10	—
日南市	3			15	—
都城市	3			15	—
小林市	1			5	—
西都市	2			10	—
都農町	2			10	—
西米良村	2			10	—
美郷町	3			15	—

椎葉村	1			5	—
延岡市	1	2		1 5	—
高千穂町			2	1 0	—
日之影町	1			5	—
合計	2 1	2	2	1 2 5	

(2) 調査結果

現地調査における目視による当該ウイルスの症状は、すべてのほ場で確認されなかった。また、採取したサンプルの門司植物防疫所における検定の結果は、すべて陰性であった。

九州地域のアザミウマ類（キュウリ）における発生調査基準（案）の実証

倉富文代、壹岐透、中村正和、斎藤伸弘、若杉潤也

(byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課

[〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805]

1. 調査背景と目的

新たに発生し、調査実施基準が未策定の害虫について、発生動向を的確に把握する調査やその調査結果に基づく発生予察手法をとりまとめ、新たな調査基準を策定するための検討を行う。

なお、本調査では、キュウリのアザミウマ類を対象に検討を行う

2. 調査方法

1) 平成22年～平成24年

①見取り調査

(調査地点)

県内1地点の施設キュウリほ場

(調査方法及び調査項目)

任意に選んだ50株について、2葉（上・中位葉各1葉）のアザミウマ類の成・幼虫数を調査し、1葉当たりの寄生虫数を求める。

(調査時期及び調査間隔)

11月～3月 7日間隔

②定点調査

(調査地点)

県内1地点の施設キュウリほ場

(調査方法及び調査項目)

ほ場内に複数枚の粘着板を設置し、誘殺されたアザミウマ類成虫の頭数を調査し、粘着板1枚当たりの誘殺頭数を求める。

(調査時期及び調査間隔)

11月～3月 7日間隔

2) 平成 25 年

①見取り調査

(調査地点)

県内 3 地点の施設キュウリほ場

(調査方法及び調査項目)

基準案に基づく調査：任意に選んだ 50 株について、2 葉（上・中位葉各 1 葉）のアザミウマ類の成・幼虫数を調査し、1 葉当たりの寄生虫数を求める。

対照：任意に選んだ 100 株について、中位葉 1 葉のアザミウマ類の成・幼虫数を調査し、1 葉当たりの寄生虫数を求める。

(調査時期及び調査間隔)

10 月～3 月 月 1 回

3. 調査結果

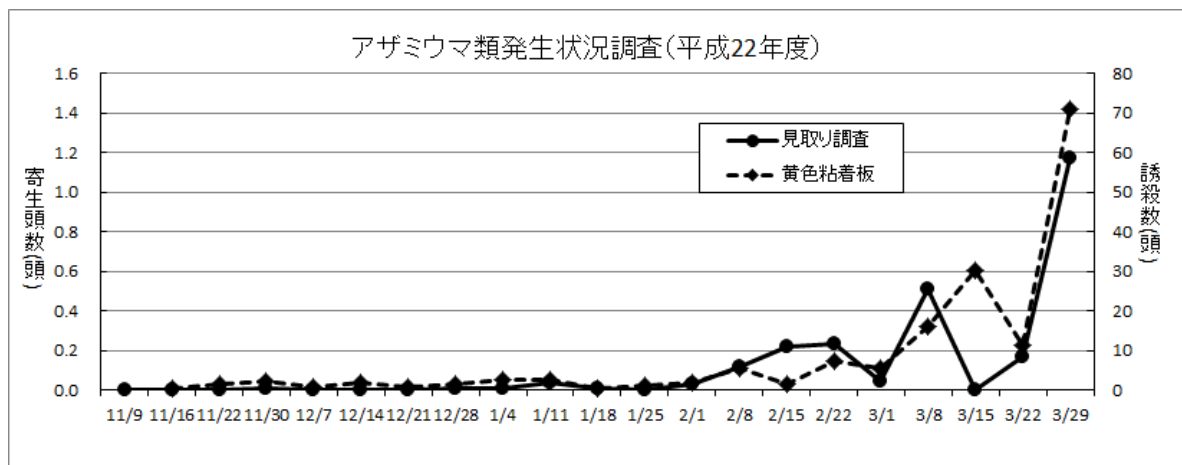
1) 平成 22 年～平成 24 年

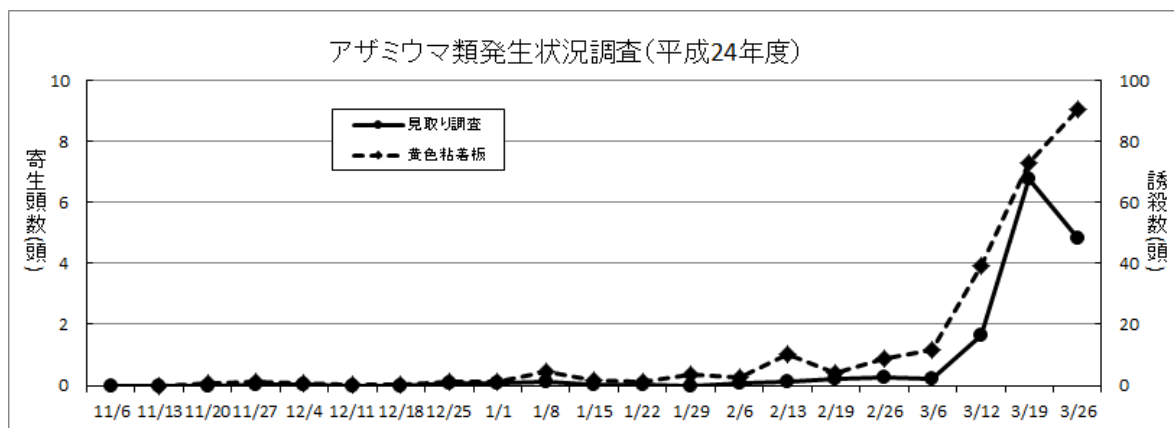
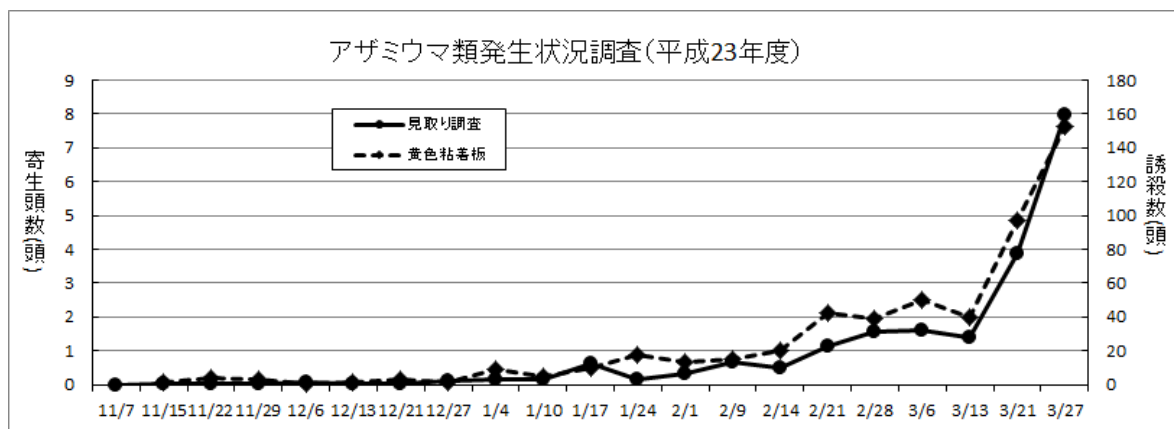
各年の調査結果は下図のとおり。

各年のアザミウマ類の発生状況は、寄生頭数の差はあるものの、同様の傾向を示している。

各年とも栽培当初から 2 月の厳寒期までの発生は少なく、春先になると急激な増殖が確認されたが、その発生量はいずれも少発生の範囲であった。

見取り調査によるアザミウマ類の寄生状況と黄色粘着板の誘殺状況を比較すると、見取り調査で寄生が確認され始めた時期と黄色粘着板の誘殺開始時期は概ね一致していた。





2) 平成 25 年

調査ほ場のアザミウマ類の発生状況を下表及び図に示した。

過去 3 年間の調査の結果と同様、栽培当初の発生は少なく、発生が確認されたほ場は 3 ほ場中 1 ほ場のみであった。

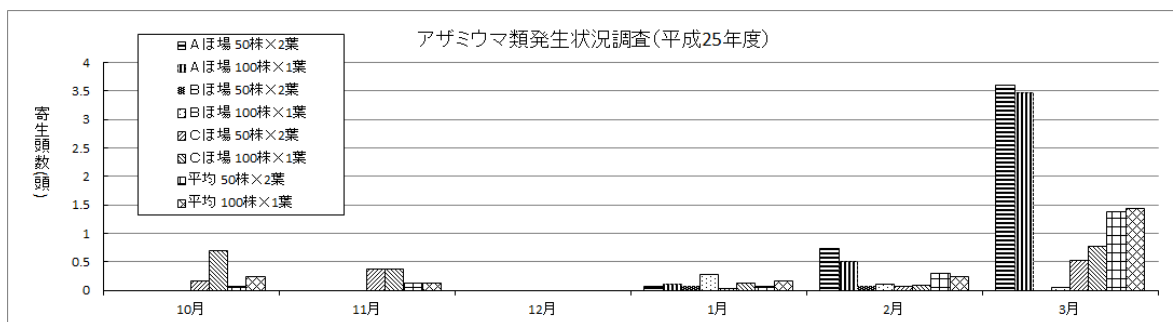
発生ほ場基準案に基づく調査(50 株各 2 葉調査)と対照(100 株各 1 葉調査)の比較を行ったところ、10 月調査では、対照区が基準調査区の 4.6 倍の発生が確認されたが、いずれも少発生の範囲であった。また、11 月調査では、両区の違いは認められなかった。

2~3 月にかけて発生量が増えてきたがいずれも少発生で、両区に差はなかった。

アザミウマ類の寄生状況

単位:頭/葉

調査区		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
Aほ場	50 株 × 2 葉調査	0	0	0	0.05	0.72	3.60
	100 株 × 1 葉調査	0	0	0	0.09	0.50	3.45
Bほ場	50 株 × 2 葉調査	0	0	0	0.07	0.06	0.01
	100 株 × 1 葉調査	0	0	0	0.26	0.10	0.04
Cほ場	50 株 × 2 葉調査	0.15	0.36	0	0.03	0.06	0.52
	100 株 × 1 葉調査	0.69	0.37	0	0.11	0.07	0.77
平均	50 株 × 2 葉調査	0.05	0.12	0.00	0.05	0.28	1.38
	100 株 × 1 葉調査	0.23	0.12	0.00	0.15	0.22	1.42



4. 考察

アザミウマ類の発生は、適正な栽培管理の下では冬季の発生は低く抑えられるが、気温の上昇に伴い、施設内でのアザミウマ類の増殖や開口部からの飛び込み等により、急激に密度が高まると考えられる。

見取り調査と定点調査（粘着板）の比較を行った結果、両者のアザミウマ類の発生時期は概ね一致しており、粘着板を発生予測に活用することは十分に可能であると考えられる。

また、発生の多くなった春先でもその発生量は少発生の範囲であり、キュウリの生育障害や果実被害等は確認されなかった。

以上のことから、適正な栽培管理を行っている施設でのアザミウマ類の調査基準案は適正であると考えられた。

5. 今後の課題

アザミウマ類の発生量が増加した際の生育障害や果実被害等の確認。

6. 要約

見取り調査と定点調査（粘着板）の比較を行った結果、両者のアザミウマ類の発生時期は概ね一致しており、粘着板を発生予測に活用することは十分に可能であると考えられる。また、発生予測基準案に基づく見取り調査の結果、適正な栽培管理を行っている施設のアザミウマ類の発生量は少発生の基準内に収まっており、調査基準案に問題は確認されなかった。

7. 成果の公表及び特許

なし

九州地域のコナジラミ類（キュウリ）における発生調査基準（案）の実証

倉富文代、壹岐透、中村正和、斎藤伸弘、若杉潤也

(byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課

[〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805]

1. 調査背景と目的

新たに発生し、調査実施基準が未策定の害虫について、発生動向を的確に把握する調査やその調査結果に基づく発生予察手法をとりまとめ、新たな調査基準を策定するための検討を行う。

なお、本調査では、キュウリのコナジラミ類を対象に検討を行う。

2. 調査方法

1) 平成22年～平成24年

①見取り調査

(調査地点)

県内1地点の施設キュウリほ場

(調査方法及び調査項目)

任意に選んだ50株について、2葉（上・中位葉各1葉）のコナジラミ類の成虫数を調査し、1葉当たりの寄生虫数を求める。

(調査時期及び調査間隔)

11月～3月 7日間隔

②定点調査

(調査地点)

県内1地点の施設キュウリほ場

(調査方法及び調査項目)

ほ場内に複数枚の黄色粘着板を設置し、誘殺されたコナジラミ類成虫の頭数を調査し、粘着板1枚当たりの誘殺頭数を求める。

(調査時期及び調査間隔)

11月～3月 7日間隔

2) 平成 25 年

①見取り調査

(調査地点)

県内 3 地点の施設キュウリほ場

(調査方法及び調査項目)

基準案に基づく調査：任意に選んだ 50 株について、2 葉（上・中位葉各 1 葉）のコナジラミ類の成虫数を調査し、1 葉当たりの寄生虫数を求める。

対照：任意に選んだ 100 株について、中位葉 1 葉のコナジラミ類の成虫数を調査し、1 葉当たりの寄生虫数を求める。

(調査時期及び調査間隔)

10 月～3 月 月 1 回

3. 調査結果

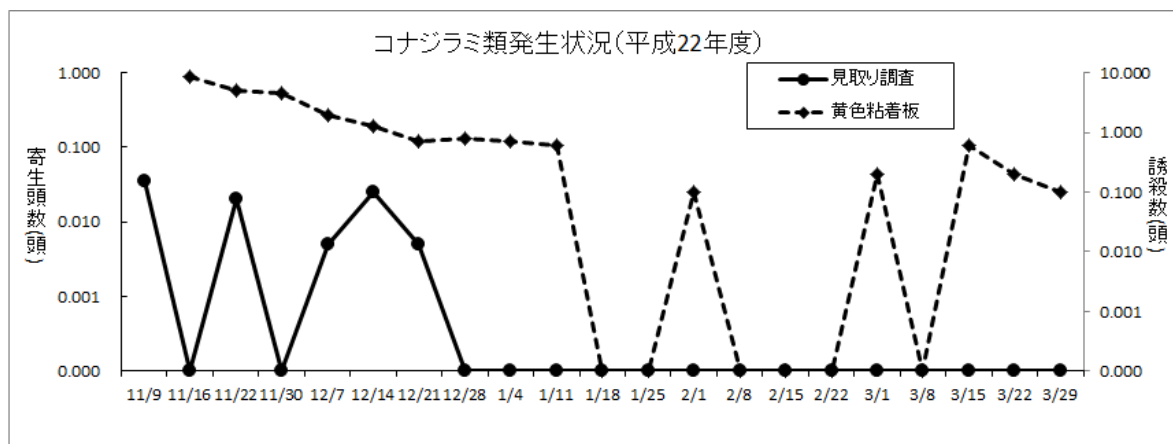
1) 平成 22 年～平成 24 年

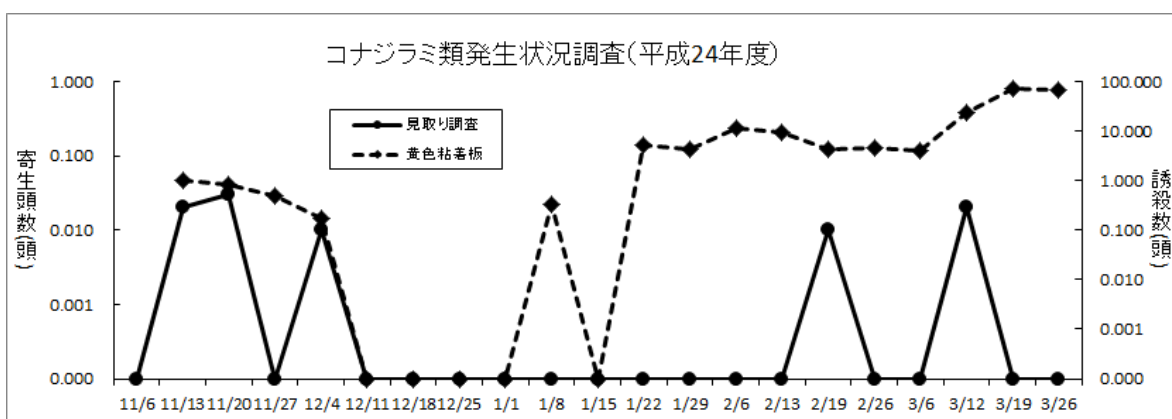
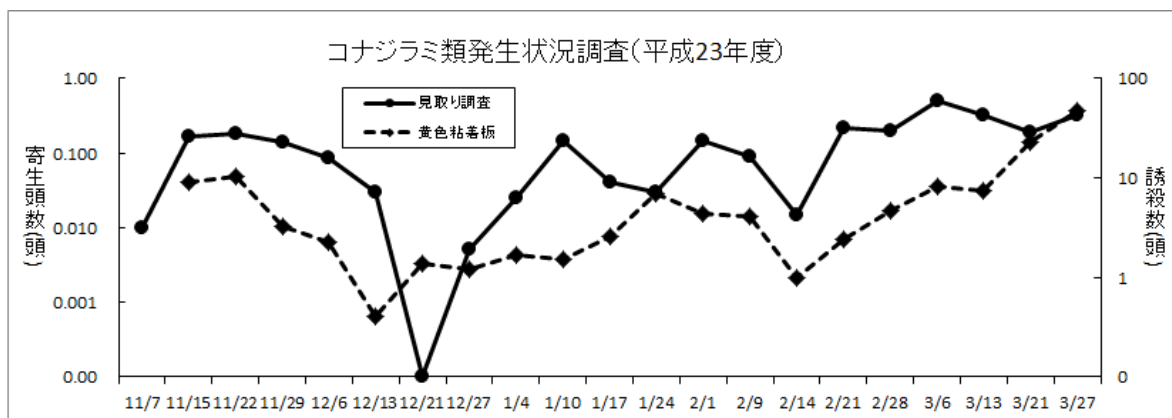
各年の調査結果は下図のとおり。

コナジラミ類の発生状況は、年によって差はあるものの、概ね定植から施設開口部の閉鎖までの期間、1 月頃及び春先に発生が確認されている。このうち、1 月頃の発生は、発生が少ない年には見取りでの確認が困難であった。

春先になると発生が確認されやすくなるが、その発生量は、最大で 1 葉当たり 1 頭未満であった。

見取り調査によるコナジラミ類の寄生状況と黄色粘着板の誘殺状況を比較すると、発生消長に明確な関連性があるとまではいえないが、葉への寄生が確認された時期には黄色粘着板でも確認される等、一定の傾向は認められた。また、見取り調査に比べると黄色粘着板による調査は発生の確認が容易であった。





2) 平成 25 年

調査ほ場のコナジラミ類の発生状況を下表及び図に示した。

過去 3 年間の調査の結果と同様、栽培当初から発生が確認されている。

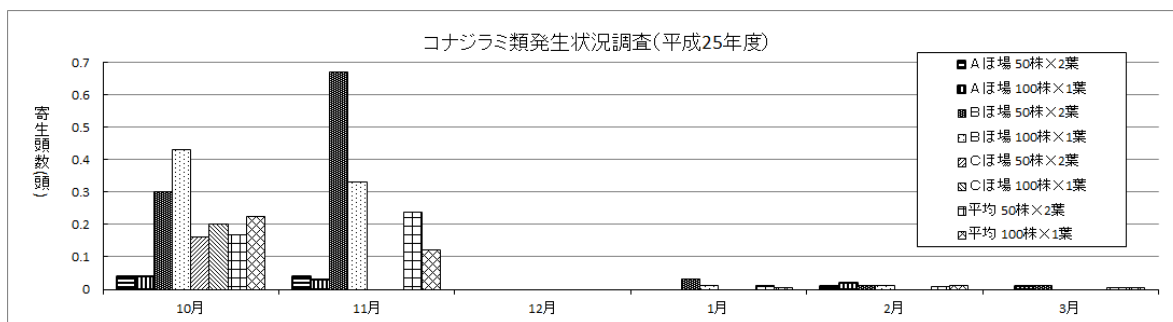
発生ほ場基準案に基づく調査(50 株各 2 葉調査)と対照(100 株各 1 葉調査)の比較を行ったところ、10 月調査では、対照区と基準調査区で概ね同程度の発生であった。11 月調査では、調査区間で差が見られたが、その発生量はいずれの区も葉当たり 1 頭未満であり、少発生の範囲に収まっていた。

1 月以降もわずかに発生が確認されたがいずれの区も少発生であった。

コナジラミ類の寄生状況

単位:頭/葉

調査区		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
Aほ場	50 株×2 葉調査	0.04	0.04	0	0	0.01	0
	100 株×1 葉調査	0.04	0.03	0	0	0.02	0.01
Bほ場	50 株×2 葉調査	0.30	0.67	0	0.03	0.01	0.01
	100 株×1 葉調査	0.43	0.33	0	0.01	0.01	0
Cほ場	50 株×2 葉調査	0.16	0	0	0	0	0
	100 株×1 葉調査	0.20	0	0	0	0	0
平均	50 株×2 葉調査	0.17	0.24	0.00	0.01	0.01	0.00
	100 株×1 葉調査	0.22	0.12	0.00	0.00	0.01	0.00



4. 考察

コナジラミ類の発生は、定植時から気温が低下するまでは多く確認されるが、その後の適正な栽培管理の下では減少し、気温の上昇に伴い、施設内のコナジラミ類の増殖や開口部からの飛び込み等により、施設内密度が高まると考えられる。

見取り調査と定点調査（黄色粘着板）の比較を行った結果、両者の間に一定の関連性は確認できなかったが、見取り調査で発生が確認できなかった時期にもコナジラミの誘殺が確認されており、施設内の発生状況の把握のためには有効であると考えられる。

また、発生が多くなった春先でもその発生量は少発生であり、キュウリの生育障害や果実被害等は確認されなかった。

以上のことから、適正な栽培管理を行っている施設でのコナジラミ類の調査基準案は適正であると考えられた。

5. 今後の課題

コナジラミ類の発生量が増加した際の生育障害や果実被害の確認。

6. 要約

見取り調査と定点調査（黄色粘着板）の比較を行った結果、両者の発生消長の間に明確な関連性があるとはいえないが、一定の傾向は認められた。また、黄色粘着板は、見取り調査で確認できない時期の発生確認が可能であり、施設内発生状況を把握する上で有効な手法である。

発生予察基準案に基づく見取り調査の結果、適正な栽培管理を行っている施設のコナジラミ類の発生量は少発生の基準内に収まっており、調査基準案に問題は確認されなかった。

7. 成果の公表及び特許

なし

九州地域のタバコガ類（ピーマン）における発生調査基準（案）の実証

倉富文代、壹岐透、中村正和、斎藤伸弘、若杉潤也

(byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課

[〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805]

1. 調査背景と目的

新たに発生し、調査実施基準が未策定の害虫について、発生動向を的確に把握する調査やその調査結果に基づく発生予察手法をとりまとめ、新たな調査基準を策定するための検討を行う。

なお、本調査では、ピーマンのタバコガ類を対象に検討を行う。

2. 調査方法

1) 定点における調査

ア. フェロモントラップによる成虫の発生消長調査

(調査地点)

県内2地点 露地ピーマンほ場（西都市下三財）及び定点（西都市茶臼原）

なお、定点調査地点周辺ではピーマンは栽培されていない。

(調査方法及び調査項目)

タバコガとオオタバコガ両種の粘着式フェロモントラップを設置し、雄成虫誘殺消長を調査する。

(調査時期及び調査間隔)

ピーマンほ場：平成25年7月第1半旬～8月第4半旬 7日間隔

定点：平成25年4月～10月 7日間隔

2) 見取り調査

(調査地点)

県内1地点の露地ピーマンほ場

(調査方法及び調査項目)

任意に選んだ25株について各株10果ずつ、タバコガ類の食害による被害果率を調査する。軟腐病による腐敗果の発生が認められた場合は、併せて腐敗果率も調査する。

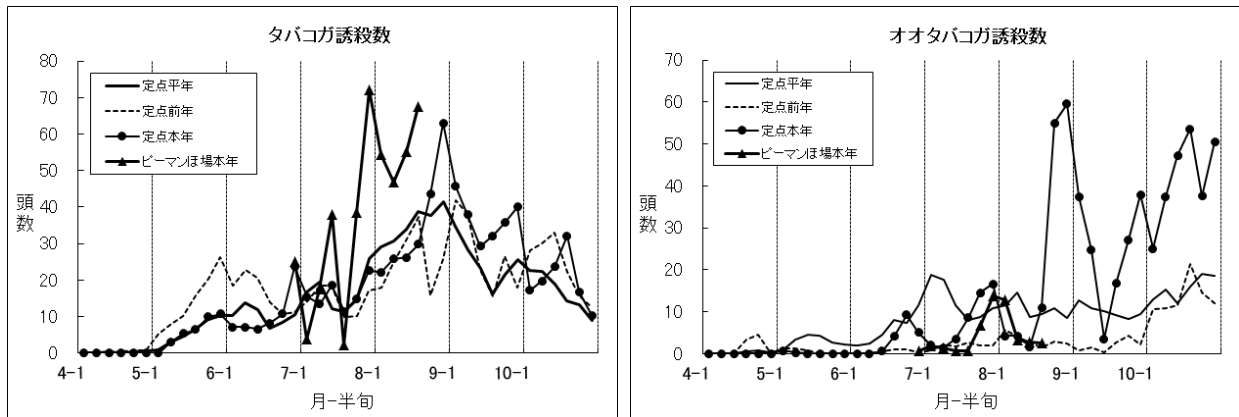
(調査時期及び調査間隔)

平成25年7月～8月 週1回見取り調査

3. 調査結果

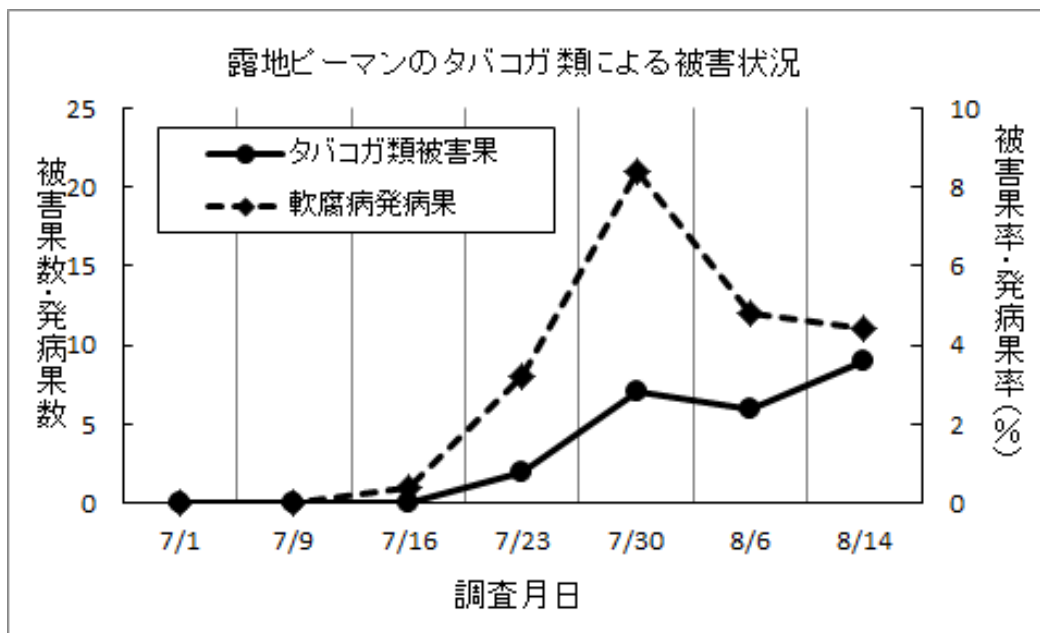
1) 定点における調査

ピーマンほ場周辺及び既存定点でのフェロモントラップによるタバコガ雄成虫誘殺状況は、誘殺数に差があり、ピーマンほ場周辺に設置したものは急激な増減を繰り返し、定点のものは比較的緩やかな増減であった。オオタバコガでは誘殺数に差は認められず、誘殺ピークに若干のずれはあったものの、似た傾向で推移していた。



2) 見取り調査

露地ピーマンほ場におけるタバコガ類の被害は、7月下旬以降確認されるようになったが、その発生数は少なく、250果調査で最大10果程度であった。また、軟腐病の発病果は、被害果より早い時期から確認されたが、おおむね発生の傾向はタバコガ類の被害果と同様の傾向であった。



4. 考察

フェロモントラップによるタバコガ類雄成虫の誘殺状況は、露地ピーマンほ場では、タバコガが急激な増減を繰り返したのに対し、オオタバコガは比較的緩やかな増減であったこと、7月第3半旬のタバコガのピークの後、ピーマンのタバコガ類による被害果や軟腐病の発病果が増加したことなどから、調査ほ場のタバコガ類による被害は、主にタバコガによって引き起こされ、フェロモントラップによるタバコガの誘殺は、ほ場内の発生消長に直接影響を受けたと考えられる。

一方、露地ほ場のオオタバコガや既存定点のタバコガ、オオタバコガについては、隣接ほ場の影響を受けることなく、比較的広い範囲のタバコガ類の発生消長を反映しているのではないかと考えられる。

このため、地域内のタバコガ類の発生消長を的確に把握するためには、ピーマン等のタバコガ類の宿主植物に隣接するのではなく、ある程度距離を置いた設置をする必要がある。また、ピーマンほ場等における発生消長を把握する際にはほ場周辺に設置するなど目的に応じた設置場所の選定が必要になる。

見取り調査においては、タバコガ類による被害果は確認できたものの、量的に見ると250果調査でも10%未満と少なく、100果調査では確認できないか、確認できても発生割合が低く、年ごとの発生状況の差が出にくいいため、250果の調査は適当であると考えられる。

5. 今後の課題

調査データの蓄積による精度の向上

6. 要約

フェロモントラップによるタバコガ類の発生と露地ピーマンほ場でのタバコガ類による被害果及び軟腐病の発生は、フェロモントラップの誘殺が増加した後にタバコガ類による被害果が増加するなど、誘殺数と被害の間に一定の傾向があり、フェロモントラップによるピーマンの被害予測が可能であると考えられる。一方で、ほ場周辺にフェロモントラップを設置した場合、ほ場内の発生消長が誘殺に直接影響を与えるため、広範囲の発生消長を把握する場合は設置場所の検討を十分行う必要がある。また、見取り調査による被害果率は低いため、少発生ほ場における調査は250果程度で行う必要がある。

7. 成果の公表及び特許

なし

5 その他の調査、検定等

1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

(早期水稻)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月1日	—	—	—	—	—	?
5月10日	—	—	—	—	—	—
5月11日	—	—	—	—	1	1
5月12日	—	—	—	—	—	—
5月18日	—	—	—	—	—	—
5月19日	—	—	—	—	4	—
5月20日	—	—	—	—	—	—
5月30日	—	—	—	—	—	—
5月31日	●	●	●	●	—	●
6月1日	4	●	—	4	—	4
6月2日	—	●	—	—	4	—
6月3日	—	—	—	—	—	●
6月4日	—	●	—	—	●	4
6月5日	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	●	—
6月7日	—	—	—	—	—	—
6月11日	—	—	—	—	—	—
6月12日	—	—	—	—	●	—
6月13日	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	?	—	—
6月16日	—	●	—	—	●	—
6月17日	—	—	—	—	—	—
6月21日	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	4
6月23日	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	—	—	●	—	●
6月25日	—	—	●	—	—	—
6月26日	—	—	●	—	—	●
6月27日	—	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	—	—	—	—
6月29日	—	—	—	—	—	4
6月30日	—	—	—	—	—	—
7月1日	●	●	—	—	●	●
7月2日	—	—	—	—	●	●
7月3日	—	—	—	—	—	—
7月26日	—	—	—	—	—	—
7月27日	—	—	—	?	—	—
7月28日	—	—	—	—	—	—
7月31日	—	—	—	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月中旬	0	/	/	0	/	0
6月中旬	0			3		0
6月下旬	0			0		0
7月中旬	0			0.4		0

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林2	宮崎	都城
6月1日	—	—	—	—	—	—	4	●
6月2日	1	—	4	●	—	—	—	●
6月3日	1	4	—	●	4	4	—	—
6月4日	—	—	—	1	—	—	—	—
6月5日	—	?	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月9日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月10日	4	1	—	—	—	—	—	—
6月11日	1	1	—	—	●	●	—	—
6月12日	—	1	—	?	—	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	●	—	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月16日	—	—	—	—	—	—	—	2
6月17日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月19日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月20日	—	●	—	—	—	3	—	—
6月21日	●	●	2	—	3	2	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	●	4	●	●	4	—	—
6月25日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月26日	●	●	●	—	—	—	—	—
6月27日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	—	4	—	—	—	—
6月29日	●	●	●	4	—	●	—	—
6月30日	●	—	—	—	—	—	—	—
7月1日	—	—	—	●	●	—	●	●
7月2日	—	—	●	—	—	—	—	—
7月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月6日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月7日	—	—	—	—	—	2	—	—
7月8日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月12日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月13日	2	—	—	—	—	—	—	—
7月14日	—	2	—	—	—	—	—	—
7月15日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月29日	—	—	—	—	3	—	—	—
7月30日	—	—	—	2	—	—	—	—
7月31日	—	—	—	—	—	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	0	0	0	0	0	0	0
7月中旬	1	34	0	10.4	0	0	0	0
7月下旬	0	98	0	64	0	4	0	0
8月中旬	2	70	0	24	28	22	0	10
9月中旬	1.2	6	0.2	9.5	0.6	0.4	0.5	0.2

2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	74	0.0	0.3	0.3	2.2	0.0	2.2	0.2	0.0	0.3
南那珂	38	0.0	0.1	0.1	1.7	0.1	1.8	1.5	0.2	1.7
児湯	73	0.0	0.1	0.1	2.9	0.2	3.1	1.1	0.1	1.1
東臼杵	22	0.1	0.1	0.2	18.1	0.0	18.1	1.7	0.0	1.7
全 県	207	0.0	0.1	0.2	4.1	0.1	4.1	0.9	0.1	1.0

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	74	0.2	0.2	0.4	8.9	17.4	26.4	3.1	7.9
南那珂	38	0.3	0.2	0.5	4.9	4.2	9.1	4.1	19.8
児湯	73	0.5	0.8	1.3	3.1	17.9	21.0	5.6	11.4
東臼杵	22	0.3	0.9	1.1	11.1	25.7	36.8	21.1	9.4
全 県	207	0.3	0.5	0.8	6.4	16.0	22.4	6.1	12.1

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。

平成25年

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

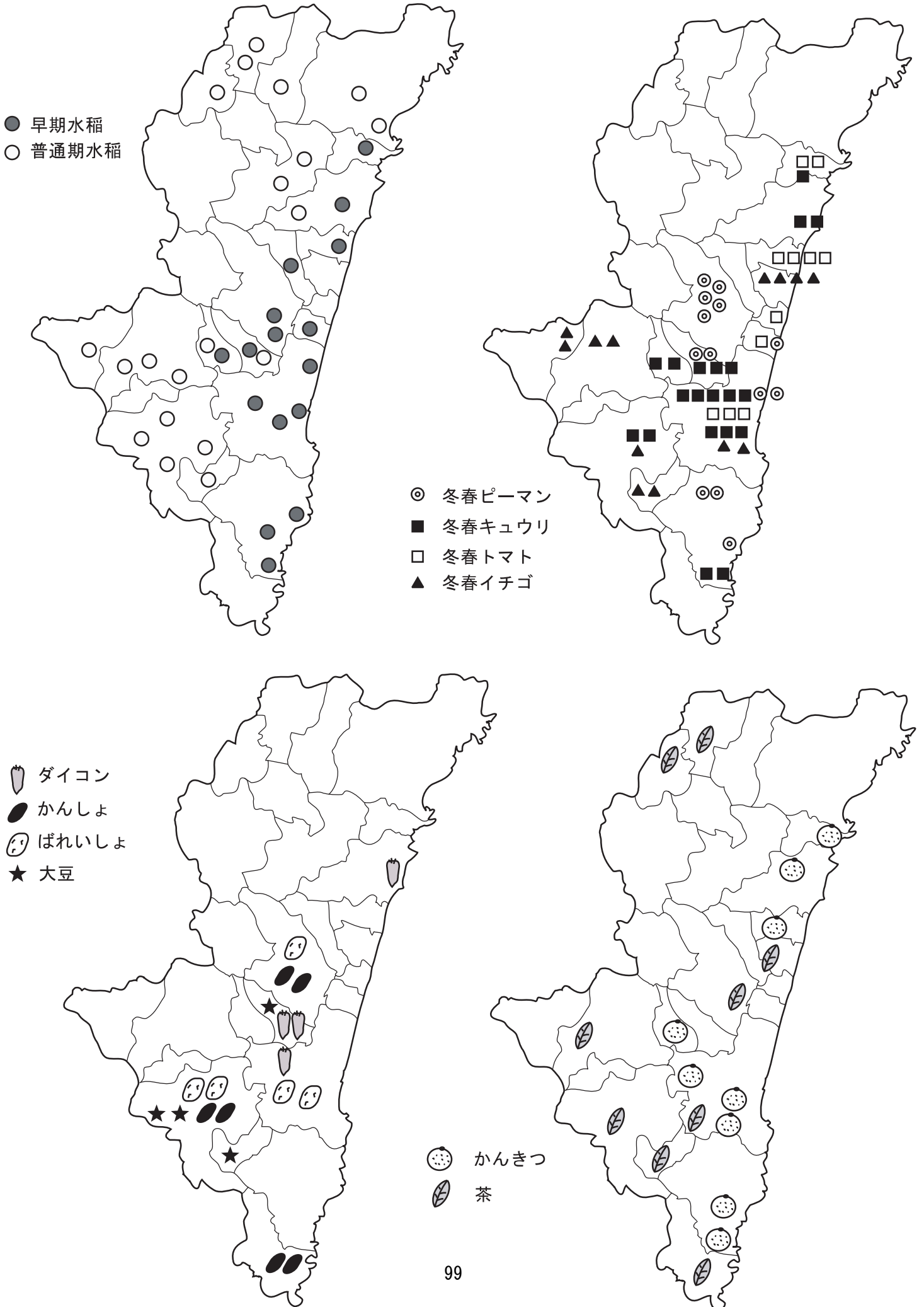
番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	高岡町高浜	7月26日	1.2	9月8日	9月11日	
2	中部	国富町榎木	7月26日	0.5	9月9日	9月17日	
3	南那珂	日南市大窪①	7月25日	0.7	9月8日	8月27日	
4	南那珂	日南市大窪②	7月25日	0.1	9月9日	8月27日	
5	南那珂	日南市南郷町榎原	7月25日	2.3	9月5日	飛来なし	
6	南那珂	日南市南郷町贅波	7月25日	0.2	9月9日	飛来なし	
7	南那珂	日南市南郷町瀨上	7月25日	0.4	9月8日	飛来なし	
8	西諸	小林市坂下	7月29日	0.0	9月13日	8月15日	
9	西諸	小林市堤	7月29日	0.0	9月13日	飛来なし	
10	児湯	西都市宝財原	7月31日	2.6	9月10日	8月19日	
11	児湯	都農町立野	7月31日	0.7	9月14日	9月9日	
12	南部	日向市高森山	7月29日	0.2	9月13日	9月1日	
13	北部	延岡市川島	7月30日	5.5	9月2日	9月1日	
14	北部	北方町上崎	7月30日	1.0	9月13日	9月20日	
15	防除センター	新富町	7月30日	6.3	8月31日		
16	防除センター	川南町	7月29日	1.2	9月11日		

Ⅲ その他

1 病虫害防除員の設置状況

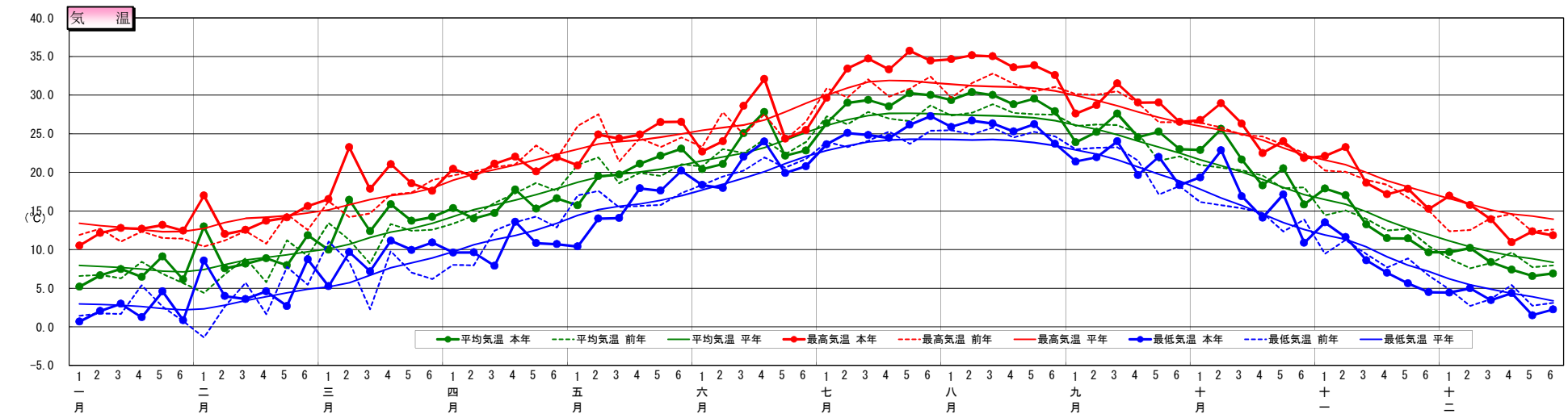
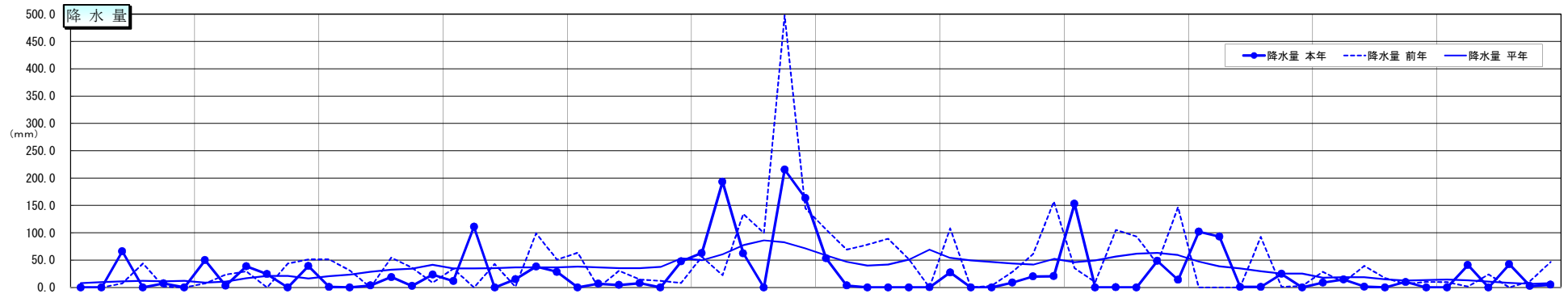
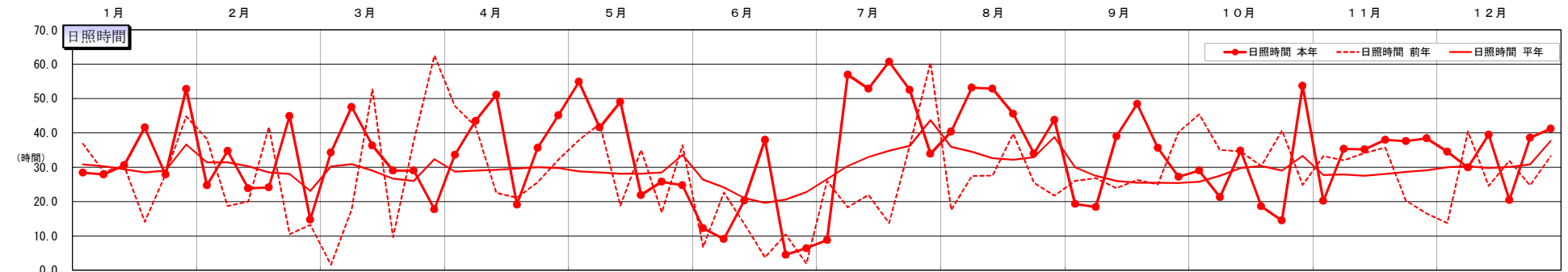
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町	3	2			1	木城町	1				1
綾町	1				1	川南町	2		1		1
小計	10	3	1		6	都農町	1		1		
日南市	4	2	2			小計	10	3	2		5
串間市	1				1	延岡市	4	4			
小計	5	2	2		1	日向市	3	2	1		
都城市	6	5		1		美郷町	3	3			
三股町	1	1				諸塚村	1	1			
小計	7	6		1		椎葉村	1	1			
小林市	4	3		1		小計	12	11	1		
えびの市	1				1	高千穂町	2	1		1	
高原町	1	1				日之影町	1	1			
小計	6	4		1	1	五ヶ瀬町	1			1	
西都市	2				2	小計	4	2		2	
新富町	3	2			1	合計	54	31	6	4	13

2 巡回調査ほ場の分布図



3 平成25年気象表 (アメダス日時統計データより)

(平年値1981~2010年)



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)